

新箕面市立病院整備基本計画（第1期）策定業務委託報告書

2019年3月15日

シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング株式会社

はじめに 1

第2部 内部環境の把握と分析 64

第1部 外部環境の把握と分析 2

第1章 医療需要（将来推計）

第1項：将来人口推計 3

（1）人口推計の方法 3

（2）算面市人口推計 4

（3）算面市人口推計（地区別） 4

（4）豊能医療圏他市町人口推計 5

（5）豊能医療圏全体人口推計 5

第2項：将来医療需要推計と現状分析 6

（1）医療需要推計の策定方法 6

（2）（DPC疾病区分）大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計 8

（3）（ICD疾病区分）大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計 10

（4）ピーク時点における患者増減数 豊能医療圏 13

（5）上位疾患別患者数予測 15

（6）（DPC疾病区分）上位3分類の内訳（2016年実績） 16

～第1章 医療需要（将来推計） まとめ～ 19

第2章 地域環境

第1項：地域医療機関の立地状況 24

（1）豊能医療圏 医療機関立地状況 24

第2項：豊能医療圏の病床稼働状況 25

（1）豊能医療圏 病床数と将来構想 25

第3項：患者受療状況 26

（1）（DPC疾病区分）豊能医療圏各医療機関患者数 26

（2）（ICD疾病区分）算面市在住患者受療動向 27

第4項：豊能医療圏の医療機能等の状況 36

（1）施設基準の届出状況 36

（2）周辺医療機関の入退院ルート 44

（3）がん診療実施状況 47

（4）救急診療実施状況 48

（5）周辺医療機関の回復期リハビリテーション病棟運営状況 50

（6）周辺医療機関の高額医療機器導入状況 51

～第2章 地域環境 まとめ～ 52

第3章 医療・介護の行政動向

第1項：医療・介護の動向 55

（1）【医療動向】特殊機能指定状況 56

（2）【医療動向】5疾病4事業に対する動向と計画 57

（3）【医療動向】医療計画での豊能医療圏課題事項 59

（4）地域包括ケアシステムの概念 59

（5）【介護動向】算面市民の要介護推移と原因疾患 60

（6）【介護動向】第7期算面市高齢者保健福祉計画・ 61

介護保険事業計画における今後の課題

（7）在宅医療の動向 62

～第3章 医療・介護の行政動向 まとめ～ 63

第4章 診療機能の状況

第1項：診療科別の稼働状況 65

（1）ベンチマーク病院の設定方法 65

（2）診療科別の稼働状況(患者数・収入) 66

（3）診療科別の稼働状況のまとめ 81

第2項：医療機能別の稼働状況 82

（1）救急機能の稼働状況 82

（2）手術の稼働状況 83

第3項：来院患者の満足度状況 84

（1）算面市立病院を選んだ理由 84

（2）病院を選ぶ際に重視する事項 85

～第4章 診療機能の状況 まとめ～ 86

参考資料 88

I. 近隣公的・公立病院等の個室状況 89

II. 全室個室による新病院整備事例 90

III. 放射線治療の採算シミュレーション 93

はじめに 本報告書の全体構成

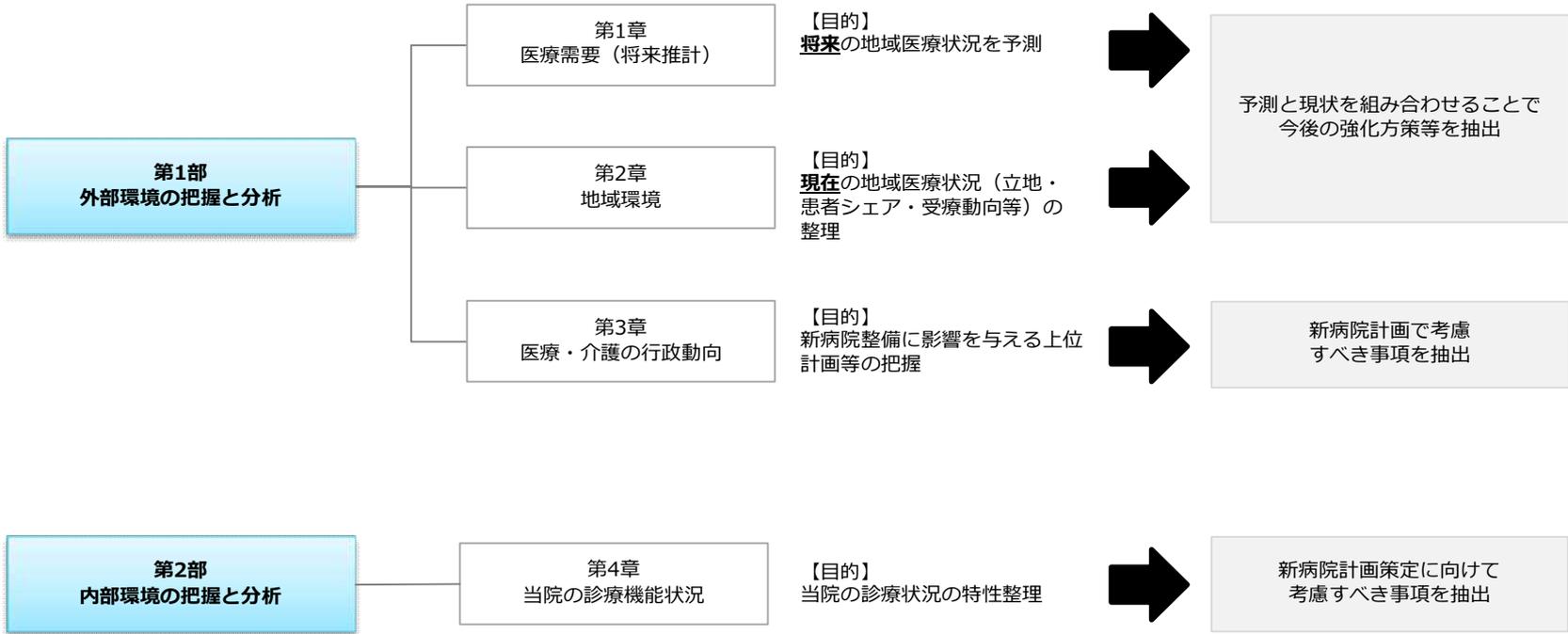
本業務の目的と実施内容

【本業務の目的】

- 新箕面市立病院（以下、新病院）の規模（病床数・診療科目）や機能（急性期、回復期等の病床機能と、放射線治療などの医療機能）を検討するために必要な情報の収集・分析を実施
- 上記検討材料に資する将来予測の実施

上記に掲げる本業務の目的に対して、本報告書では下記の構成により報告を行うものである。

本報告書の全体構成



第1部 外部環境の把握と分析

- 第1章 医療需要（将来推計）
- 第2章 地域環境
- 第3章 医療・介護の行政動向

調査概要

地域の将来医療需要を予測するため、下記の流れで分析を実施する。

第1項：将来人口推計

- 1. 箕面市の将来人口推計
※箕面市の人口推計は下記の2パターンがあり、それぞれの推計内容を整理する。
 - ① 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）データ
 - ② 人口ビジョンデータ
- 2. 箕面市以外の豊能医療圏内各市町の将来人口推計
- 3. 1・2の推計値を基に、豊能医療圏内の将来人口推計を行う。

第2項：将来医療需要推計

- 4. 3の推計値に、人口当たり患者発生率（年齢男女別）を掛け合わせ、将来医療需要推計を行う。
※人口当たり患者発生率設定に活用できるデータは下記の2つがあり、それぞれを活用した推計内容を整理する。
 - ① DPCデータ（DPC疾病区分）
 - ② 患者調査データ（ICD疾病区分）

～第1章 医療需要（将来推計）のまとめ～

- 5. 1～4で策定した推計から、医療圏内の需要分析を行う。

第1項 将来人口推計

(1) 人口推計の方法

本報告書の調査対象となる豊能医療圏及び箕面市の将来的な人口推計を策定するに当たり、参考となる推計が大きく下記の2種類ある。
本報告に当たっては、2種類のデータをパターン別に活用し、将来的な地域内の医療需要を予測する。それぞれの概要は下記のとおり。

【パターンA】 社人研データをベースに策定

- 全国的な市区町村別の将来推計人口を、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」)が推計・公表しており、全市区町村について統一の手法・区分・期間にて推計が行われている。2018年3月30日時点では「日本の地域別将来推計人口2018年3月推計」が公表されており、2015年の国勢調査を基に2045年までの市区町村別推計が行われている。
- 2045年より先の推計は社人研では行われていないため（2018年2月に社人研へ確認）、本報告書では2045年までは社人研公表データを使用し、2046年から2060年までは2045年の仮定値（*）の設定がその後も維持されることと仮定した上で、将来人口を推計する。
*仮定値：各年齢階級別・男女別の「生存率」「純移動率」および「子ども女性比」「0～4歳性比」
- 豊能医療圏全体の人口推計（社人研データをベース）は、上記方法で豊能医療圏各市町の人口推計を行ったものを合計したものとす。

【パターンB】 人口ビジョン(箕面市のみ) をベースに策定

- 人口ビジョンは、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき各市町村で独自に策定されている人口推計である。人口ビジョンは各市町村における将来的な施策内容や目指す姿を反映したものであり、上記の社人研データとは性格が異なるものである。
- 本報告書では、全国統一手法による社人研データだけでなく、各市町村の事情等を反映した人口ビジョンも合わせて確認する。
- 豊能医療圏（箕面市・吹田市・豊中市・池田市・豊能町・能勢町）に属する市町村で策定されている推計の概要は下記のとおり。

自治体名	策定時期	人口推計期間	推計内容
箕面市	2015.10	2060年まで	性別5歳階級別人口（町別）
吹田市	2016.3	2060年まで	年齢3区分別人口
豊中市	2015.10	2040年まで	年齢3区分別人口
池田市	2016.2	2040年まで	年齢3区分別人口
豊能町	2016.3	2060年まで	総人口
能勢町	2016.3	2060年まで	総人口

*年齢3区分別：年少人口（0～14歳） 生産年齢人口（15～64歳） 老年人口（65歳以上）

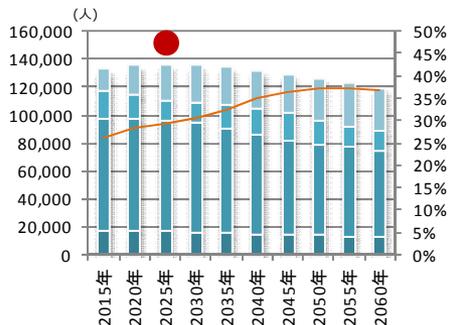
- 上記のとおり、豊能医療圏各市町の人口ビジョンは推計区分・期間に差があるため、豊能医療圏全体の人口推計（人口ビジョンをベース）を算出するにあたり、各市町のデータを単純に合算して算出することはできない。そのためパターンBにおいては、箕面市人口のみ人口ビジョンの推計データを反映し、その他市町については社人研データを使用することとする。なお、箕面市人口ビジョンでは3パターンの推計が策定されているが、現在事業進行中の北大阪急行線延伸による人口増効果を加味した「推計Ⅱ」を用いる。（詳細は次頁参照）

* 「社人研」「人口ビジョン」に関する詳細説明は右頁「DPC」「ICD」に関する詳細説明はP.6で記載

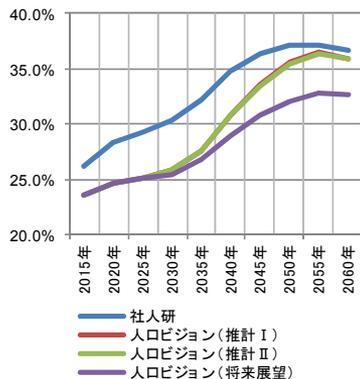
(2) 箕面市人口推計

【パターンA】 社人研ベース

▼社人研推計

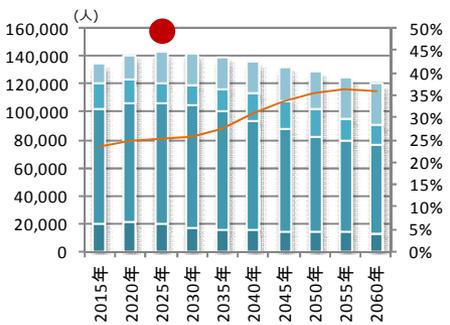


▼各パターンの高齢化率推移

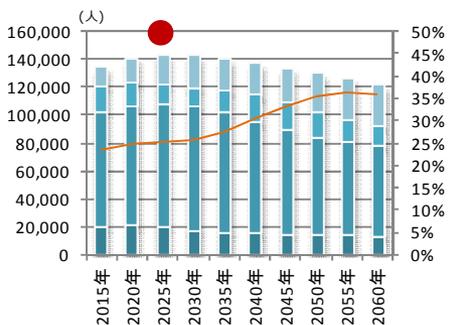


【パターンB】 人口ビジョンベース

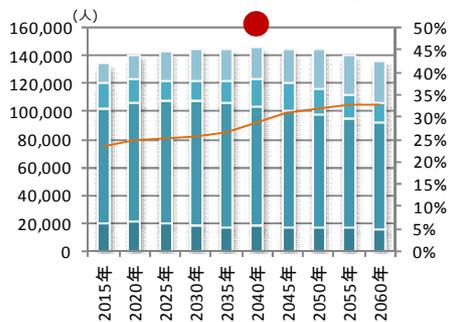
▼箕面市人口ビジョン（※推計Ⅰ）



▼箕面市人口ビジョン（※推計Ⅱ）



▼箕面市人口ビジョン（※将来展望）



- ※箕面市の人口ビジョンのパターン別条件
- 推計Ⅰ：新市街地の人口定着見通しを加味（彩都・小野原西・森町）
 - 推計Ⅱ：Ⅰに加えて北大阪急行延伸による効果を加味
 - 将来展望：Ⅱに加えて子育て支援策充実による効果を加味

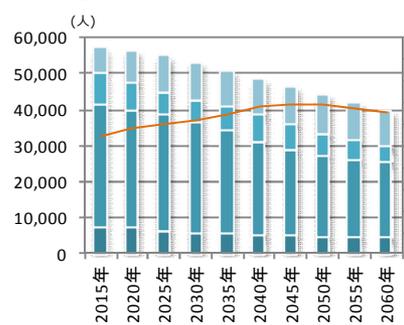
箕面市人口ビジョンについては【パターンA】社人研ベースと、現在事業進行中の北大阪急行線延伸による人口増効果を加味した「推計Ⅱ」を【パターンB】の代表として設定する。

●：総人口が最大値になる年を示している。

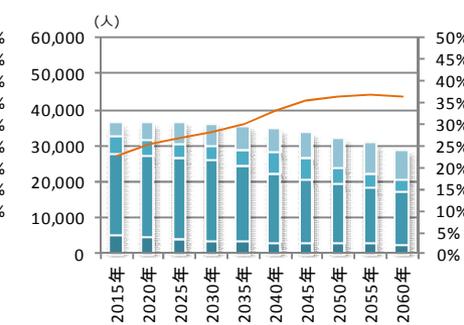
(3) 箕面市人口推計（地区別）

箕面市人口ビジョン（推計Ⅱ）における地区別人口推計

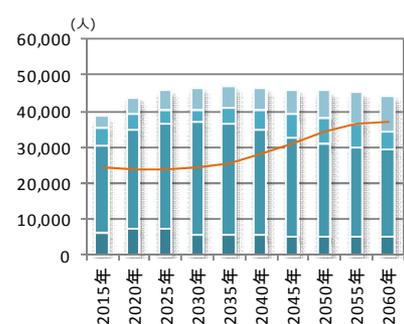
▼西部地区



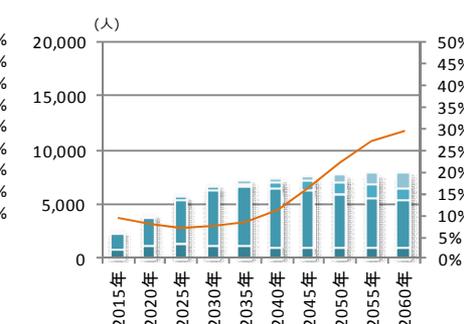
▼中部地区



▼東部地区



▼北部地区



<※注釈>中央山間地域は、住宅地域でないため、省略。



■特に東部地区（小野原・彩都周辺）と北部地区（森町周辺）は、今後継続して人口増加が予測される一方、2040年ごろから急激に高齢化率が上昇することが予測される。

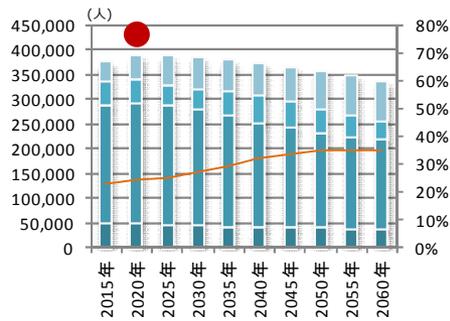
■中部地区は2035年ごろまでは一定程度人口は維持される一方、2035年ごろから急激に高齢化率が上昇することが予測される。

■西部地区は現状でも比較的高齢化率が高く、今後人口は漸減していくことが予測される。

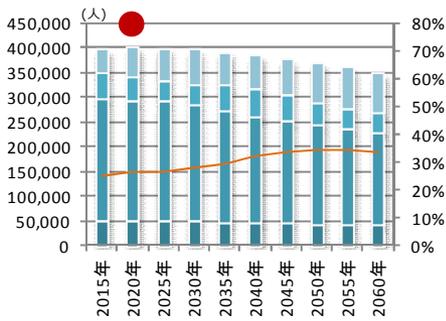
(4) 豊能医療圏他市町人口推計

箕面市以外の周辺人口（社人研ベース）

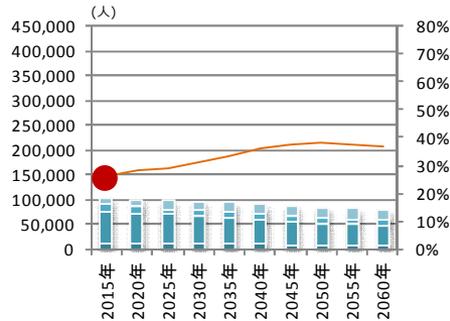
▼吹田市



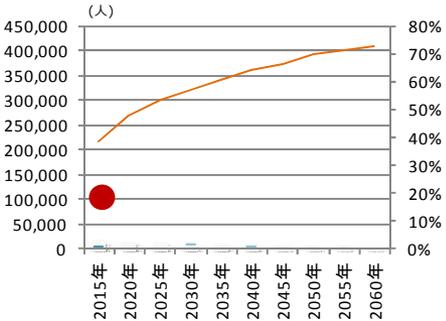
▼豊中市



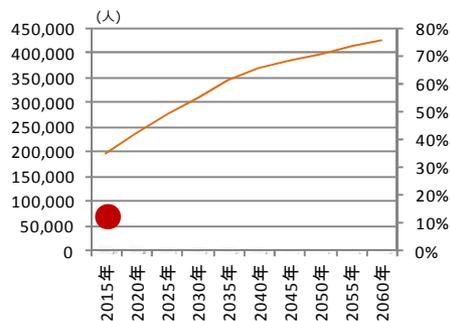
▼池田市



▼豊能町



▼能勢町

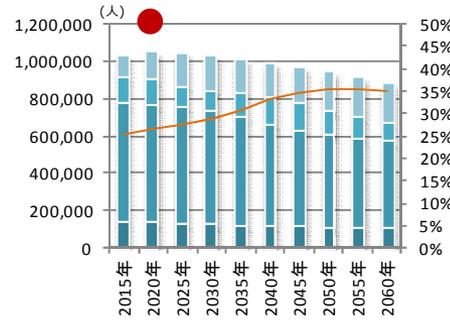


●：総人口が最大値になる年を示している。

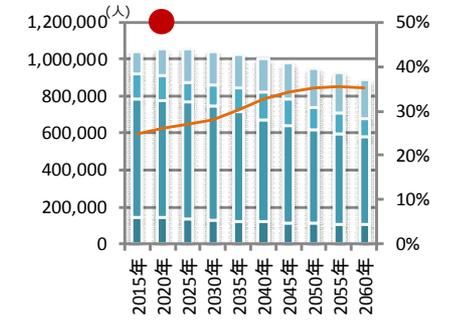
■ 0～14歳 ■ 15～64歳
■ 65～74歳 ■ 75歳～
— 高齢化率

(5) 豊能医療圏全体人口推計

【パターンA】社人研ベース



【パターンB】人口ビジョンベース



		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターンA	0～14歳	139,502	138,817	133,920	127,874	123,397	121,211	118,213	114,268	110,161	106,185
	15～64歳	637,399	632,762	625,420	609,732	581,846	543,211	516,883	497,798	483,817	470,225
	65～74歳	140,100	131,488	107,621	110,619	129,015	145,678	139,975	120,610	107,689	99,773
	75歳～	119,616	149,665	180,391	186,801	182,982	185,570	197,704	216,886	220,413	213,180
	合計	1,036,617	1,052,732	1,047,352	1,035,026	1,017,240	995,670	972,775	949,562	922,080	889,362
	高齢化率	25.1%	26.7%	27.5%	28.7%	30.7%	33.3%	34.7%	35.5%	35.6%	35.2%
パターンB	0～14歳	141,250	141,086	135,615	127,728	122,951	120,431	117,069	113,007	108,977	105,008
	15～64歳	640,241	639,436	634,675	621,230	592,989	552,938	524,643	503,386	487,547	473,369
	65～74歳	138,629	130,177	106,911	109,664	128,071	145,574	141,207	122,949	109,927	100,402
	75歳～	118,149	147,269	176,982	183,357	179,501	181,887	193,999	213,545	218,200	212,237
	合計	1,038,269	1,057,968	1,054,183	1,041,978	1,023,511	1,000,829	976,918	952,887	924,651	891,016
	高齢化率	24.7%	26.2%	26.9%	28.1%	30.1%	32.7%	34.3%	35.3%	35.5%	35.1%



■ パターンA、Bともに豊能医療圏の総人口は、2020年をピークに、減少していくことが予想される。

■ パターンA、Bともに高齢化率のピークは2055年と予測される。2015年と比べ、高齢者数は約1.3倍になると予想される。

(1) 医療需要推計の策定方法

第1項で挙げた人口予測推計と患者データを組み合わせ、豊能医療圏の医療需要を推計する。本報告書では、疾病区分や集計対象が異なる2種類の患者データを用いている。それぞれのデータの概要・特徴は下記のとおり。

① DPCデータ（疾病区分：DPC疾病区分）

- DPC制度とは、2003年に導入された急性期入院医療を対象とした診療報酬の包括評価制度である。入院期間中に医療資源を最も投入した「傷病名」と入院期間中に提供される手術、処置、化学療法などの「診療行為」の組み合わせにより分類された患者群に基づき、1日当たりの包括点数が設定されている。
- DPCは14桁のコードで構成され、大きく分けて3層構造で構成されている。1層目は「傷病名」に基づく層（上6桁、うち上2桁はMDC（Major Diagnostic Category；主要診断群）コード、2層目は「手術」の有無に基づく層（9・10桁目）、3層目（11～14桁目）は「処置」、「副傷病名」、「重症度」等が含まれる。（1層目と2層目の間の7・8桁目は、病態等分類と年齢・出生時体重等を示す。）

＜出典＞厚生労働省保険局 2016年4月「DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト」

- 本報告書では、厚生労働省中央社会保険医療協議会（中医協）DPC評価分科会が発表している、各医療機関から提出されるDPCデータを集計・分析されたものを使用している。最新データとして、2018年3月6日DPC評価分科会で公表されている2016年4月から2017年3月に退院または転棟された患者のデータを使用している。
- 本データは「DPCデータを提出している病院（主に急性期）の入院患者」が対象であり、データで示される「件数」は、年間の実患者発生件数を示している。

【推計の考え方】

1. 同資料内の「診断群分類別の集計」に掲載されている、診断群分類別における全国における患者総件数と、その内訳に当たる男女別割合、年齢階級別割合のデータを用い、「全国における男女別・年齢階級別患者件数」を推計する。
2. 推計されたデータを、各男女・年齢階級別の全国人口で除し、診断群分類別×男女別×年齢階級別の人口あたりの患者発生率を算出する。
3. 算出された「患者発生率」を、第1項で算出した豊能医療圏の人口推計（男女別×年齢階級別）に乘じ、各年における診断群分類別の推計患者発生数を推計する。

② 患者調査データ（疾病区分：ICD疾病区分）

- ICDとは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類である。最新の分類は、ICDの第10回目の改訂版として、1990年の第43回世界保健総会において採択されたものであり、ICD-10（1990年版）と呼ばれている。
- 現在我が国では、WHOが策定したICD-10（1990年版）に準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」を独自に作成しており、最新版は「ICD-10（2013年版）準拠」となっている。これは、統計法に基づく統計調査に使用される他、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されている。
- 疾病分類表は、わが国の疾病罹患の状況を概括できるように推定患者数を基準にして、大分類、中分類及び小分類がそれぞれ独立し、分類表としての形式を統一したものである。＜出典＞厚生労働省ホームページ「疾病、傷害及び死因の統計分類」
- 「患者調査」は統計法（第2条第4項）に基づき、全国の医療機関を受診する患者を対象として、3年に1回実施される調査であり、無作為抽出された医療機関において、調査日（特定の1日）における患者の動向等を調査するものである。
- 本報告書では、「患者調査」の調査結果のうち、「推計患者数（施設の種類・性別・年齢階級別、傷病分類別、在宅医療、入院（重症度等）」）を使用し、疾病分類別（ICD-10別）の将来患者を推計している。本報告書では、2018年3月時点での最新内容として、2014年10月に医療機関を受診した患者のデータを使用している。
- 本データは「全病床（一般病床、療養病床、感染症病床、結核病床、精神病床）の入院患者」及び「病院、一般診療所、歯科診療所を受診した外来患者」が対象であり、データで示される「件数」は、調査日1日における受診患者数を示している。

【推計の考え方】

1. ICD疾病別・性別・年齢階級別の推計患者数を性別・年齢階級別の全国人口で除し、ICD分類別×男女別×年齢階級別の人口あたりの患者発生率を算出する。
2. 算出された「患者発生率」を、第1項で算出した豊能医療圏の人口推計（男女別×年齢階級別）に乘じ、各年における推定発生数を推計する。

両データの違いに関する留意事項

- 本報告書で使用するデータは、データの定義が異なるため、両者の評価においては下記の内容に留意が必要である。

【入院】

- ①DPCデータは「年間実患者発生件数」を示していることから、平均在院日数の長短により影響されるものではない。
- ②患者調査データは「調査日1日における受診患者数」を示していることから、平均在院日数が短くなると患者推計値は理論上小さくなる。

本報告書における入院医療推計では、平均在院日数は今後も変化しないと仮定して算出している。

- 【外来】①DPCデータは入院医療を対象としたデータであり、外来データを対象としていないため、外来データを含む②患者調査データを用いて需要推計を行う。

(1) 医療需要推計の策定方法

使用するデータおよび疾病分類の違いについて（疾病分類の内容）

▼DPC疾病分類

コード	【大分類】DPC（診断群分類）
01	神経系疾患
02	眼科系疾患
03	耳鼻咽喉科系疾患
04	呼吸器系疾患
05	循環器系疾患
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患
07	筋骨格系疾患
08	皮膚・皮下組織の疾患
09	乳房の疾患
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患
12	女性生殖系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
14	新生児疾患、先天性奇形
15	小児疾患
16	外傷・熱傷・中毒
17	精神疾患
18	その他

▼ICD疾病分類

章	コード	【大分類】ICD
1	A00-B99	感染症及び寄生虫症
2	C00-D48	新生物
3	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
4	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患
5	F00-F99	精神および行動の障害
6	G00-G99	神経系の疾患
7	H00-H59	眼および付属器の疾患
8	H60-H95	耳および乳様突起の疾患
9	I00-I99	循環器系の疾患
10	J00-J99	呼吸器系の疾患
11	K00-K93	消化器系の疾患
12	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患
13	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患
14	N00-N99	尿路器系の疾患
15	O00-O99	妊娠、分娩および産褥
16	P00-P96	周産期に発生した病態
17	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常
18	R00-R99	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
19	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響
20	V00-Y98	傷病および死亡の外因
21	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用
22	U00-U99	特殊目的用コード

<出典> 厚生労働省保険局 2016年4月「DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト」

【疾病区分に関する留意点】

- 両データは疾病区分の定義が異なるため、名称が類似する区分であってもその中に含まれる疾患内容には違いがある。
 - (例) ・新生物（がん）は、ICD疾病区分には「2 新生物」の区分にまとめて含まれているが、DPC疾病区分では、各疾病区分に分かれて含まれている（肺の悪性腫瘍：ICD疾病区分では「2 新生物」に含まれているが、DPC疾病区分では「04 呼吸器系疾患」に含まれている）
 - ・ICD疾病区分での「循環器系」には、脳血管疾患や肺循環器疾患が含まれるが、DPC疾病区分では、それらは「神経系」「呼吸器系」に含まれている

(2) (DPC疾病区分) 大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計

【パターンA】 社人研ベース

入院

パターンA	件数									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①神経系	5,412	5,814	6,143	6,483	6,568	6,486	6,470	6,523	6,555	6,369
②眼科系	4,222	4,516	4,780	5,063	5,223	5,217	5,211	5,216	5,186	5,035
③耳鼻咽喉科系	3,593	3,651	3,630	3,613	3,593	3,541	3,469	3,382	3,274	3,155
④呼吸器系	10,388	11,282	12,037	12,951	13,159	12,943	12,959	13,201	13,445	13,100
⑤循環器系	9,245	10,042	10,750	11,490	11,766	11,675	11,692	11,815	11,887	11,549
⑥消化器系	19,525	20,635	21,495	22,351	22,782	22,668	22,548	22,423	22,132	21,410
⑦筋骨格系	4,307	4,502	4,633	4,751	4,812	4,781	4,736	4,682	4,593	4,443
⑧皮膚系	1,479	1,563	1,620	1,685	1,687	1,656	1,642	1,649	1,653	1,606
⑨乳房系	1,263	1,296	1,291	1,258	1,233	1,219	1,193	1,157	1,111	1,068
⑩内分泌系	2,722	2,891	3,012	3,130	3,143	3,096	3,073	3,081	3,081	2,992
⑪腎尿路系	6,549	6,991	7,367	7,767	7,940	7,885	7,864	7,876	7,845	7,605
⑫女性生殖系	4,312	4,300	4,202	4,076	3,962	3,849	3,719	3,592	3,454	3,323
⑬血液系	1,990	2,124	2,234	2,351	2,397	2,377	2,370	2,377	2,372	2,302
⑭新生児系	1,839	1,789	1,670	1,643	1,618	1,575	1,523	1,466	1,416	1,366
⑮小児系	1,529	1,553	1,540	1,561	1,545	1,506	1,477	1,461	1,447	1,403
⑯外傷系	6,104	6,600	7,031	7,471	7,514	7,356	7,332	7,453	7,585	7,404
⑰精神系	183	188	190	193	191	186	183	181	179	173
⑱その他	1,513	1,619	1,703	1,795	1,818	1,794	1,788	1,801	1,808	1,757
合計	86,175	91,355	95,327	99,631	100,951	99,810	99,250	99,335	99,024	96,059

【パターンB】 人口ビジョンベース

入院

パターンB	件数									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①神経系	5,386	5,781	6,107	6,440	6,530	6,454	6,443	6,499	6,535	6,350
②眼科系	4,191	4,477	4,736	5,017	5,181	5,186	5,191	5,203	5,175	5,020
③耳鼻咽喉科系	3,598	3,655	3,640	3,625	3,604	3,550	3,478	3,391	3,282	3,158
④呼吸器系	10,351	11,188	11,929	12,819	13,030	12,830	12,855	13,105	13,355	13,022
⑤循環器系	9,177	9,955	10,654	11,387	11,675	11,605	11,637	11,772	11,850	11,511
⑥消化器系	19,419	20,520	21,382	22,243	22,696	22,614	22,522	22,420	22,133	21,386
⑦筋骨格系	4,289	4,486	4,621	4,740	4,802	4,776	4,735	4,684	4,598	4,443
⑧皮膚系	1,478	1,559	1,616	1,678	1,680	1,649	1,636	1,642	1,647	1,601
⑨乳房系	1,260	1,298	1,298	1,268	1,243	1,228	1,200	1,164	1,120	1,076
⑩内分泌系	2,714	2,881	3,003	3,119	3,133	3,086	3,064	3,072	3,075	2,986
⑪腎尿路系	6,511	6,943	7,316	7,714	7,895	7,853	7,842	7,862	7,831	7,585
⑫女性生殖系	4,333	4,342	4,253	4,131	4,027	3,908	3,771	3,638	3,489	3,353
⑬血液系	1,980	2,111	2,220	2,335	2,382	2,366	2,361	2,370	2,366	2,296
⑭新生児系	1,866	1,784	1,670	1,644	1,612	1,565	1,512	1,457	1,406	1,354
⑮小児系	1,540	1,554	1,541	1,559	1,541	1,500	1,470	1,453	1,439	1,395
⑯外傷系	6,079	6,574	7,000	7,429	7,466	7,311	7,288	7,408	7,543	7,372
⑰精神系	183	188	191	193	191	186	183	181	179	173
⑱その他	1,507	1,610	1,693	1,783	1,807	1,785	1,780	1,794	1,802	1,751
合計	85,861	90,907	94,869	99,126	100,497	99,450	98,968	99,116	98,825	95,831

パターンA	増減率									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①神経系	100%	107%	113%	120%	121%	120%	120%	121%	121%	118%
②眼科系	100%	107%	113%	120%	124%	124%	123%	124%	123%	119%
③耳鼻咽喉科系	100%	102%	101%	101%	100%	99%	97%	94%	91%	88%
④呼吸器系	100%	109%	116%	125%	127%	125%	125%	127%	129%	126%
⑤循環器系	100%	109%	116%	124%	127%	126%	126%	128%	129%	125%
⑥消化器系	100%	106%	110%	114%	117%	116%	115%	115%	113%	110%
⑦筋骨格系	100%	105%	108%	110%	112%	111%	110%	109%	107%	103%
⑧皮膚系	100%	106%	110%	114%	114%	112%	111%	111%	112%	109%
⑨乳房系	100%	103%	102%	100%	98%	97%	94%	92%	88%	85%
⑩内分泌系	100%	106%	111%	115%	115%	114%	113%	113%	113%	110%
⑪腎尿路系	100%	107%	112%	119%	121%	120%	120%	120%	120%	116%
⑫女性生殖系	100%	100%	97%	95%	92%	89%	86%	83%	80%	77%
⑬血液系	100%	107%	112%	118%	120%	119%	119%	119%	119%	116%
⑭新生児系	100%	97%	91%	89%	88%	86%	83%	80%	77%	74%
⑮小児系	100%	102%	101%	102%	101%	99%	97%	96%	95%	92%
⑯外傷系	100%	108%	115%	122%	123%	121%	120%	122%	124%	121%
⑰精神系	100%	103%	104%	106%	104%	102%	100%	99%	98%	95%
⑱その他	100%	107%	113%	119%	120%	119%	118%	119%	119%	116%

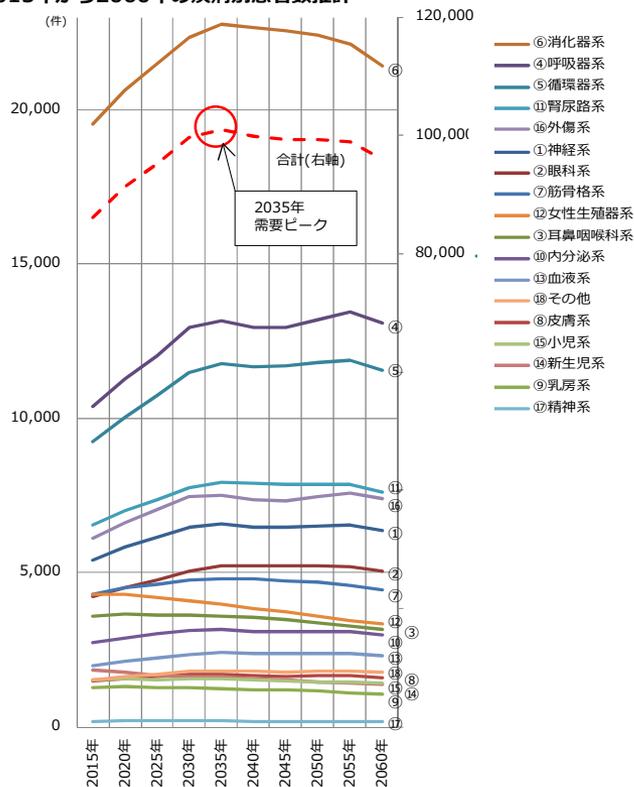
パターンB	増減率									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①神経系	100%	107%	113%	120%	121%	120%	120%	121%	121%	118%
②眼科系	100%	107%	113%	120%	124%	124%	124%	124%	123%	120%
③耳鼻咽喉科系	100%	102%	101%	101%	100%	99%	97%	94%	91%	88%
④呼吸器系	100%	108%	115%	124%	126%	124%	124%	127%	129%	126%
⑤循環器系	100%	108%	116%	124%	127%	126%	127%	128%	129%	125%
⑥消化器系	100%	106%	110%	115%	117%	116%	116%	115%	114%	110%
⑦筋骨格系	100%	105%	108%	111%	112%	111%	110%	109%	107%	104%
⑧皮膚系	100%	105%	109%	114%	114%	112%	111%	111%	111%	108%
⑨乳房系	100%	103%	103%	101%	99%	97%	95%	92%	89%	85%
⑩内分泌系	100%	106%	111%	115%	115%	114%	113%	113%	113%	110%
⑪腎尿路系	100%	107%	112%	118%	121%	121%	120%	121%	120%	116%
⑫女性生殖系	100%	100%	98%	95%	93%	90%	87%	84%	81%	77%
⑬血液系	100%	107%	112%	118%	120%	119%	119%	120%	120%	116%
⑭新生児系	100%	96%	90%	88%	86%	84%	81%	78%	75%	73%
⑮小児系	100%	101%	100%	101%	100%	97%	95%	94%	93%	91%
⑯外傷系	100%	108%	115%	122%	123%	120%	120%	122%	124%	121%
⑰精神系	100%	103%	105%	106%	105%	102%	100%	99%	98%	95%
⑱その他	100%	107%	112%	118%	120%	118%	118%	119%	120%	116%

(2) (DPC疾病区分) 大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計

○ : 需要ピーク時

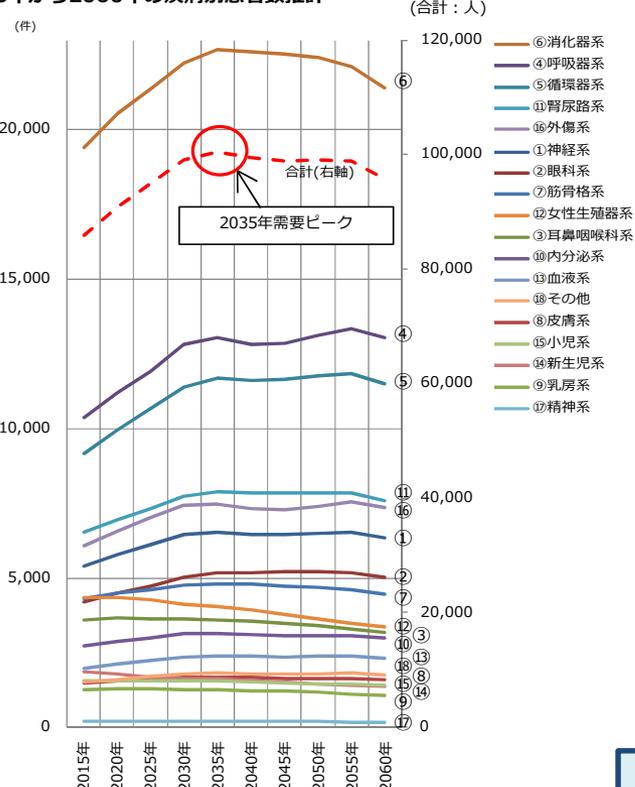
【パターンA】 社人研ベース

2015年から2060年の疾病別患者数推計

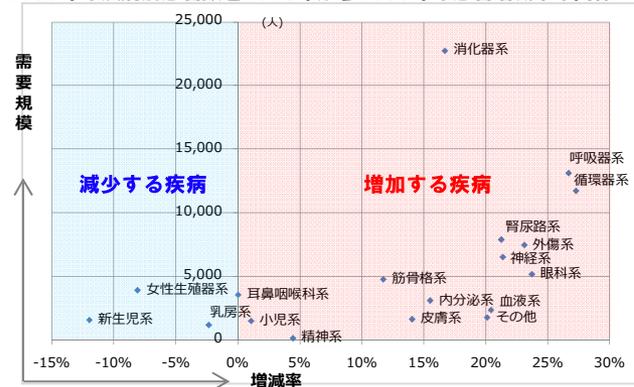


【パターンB】 人口ビジョンベース

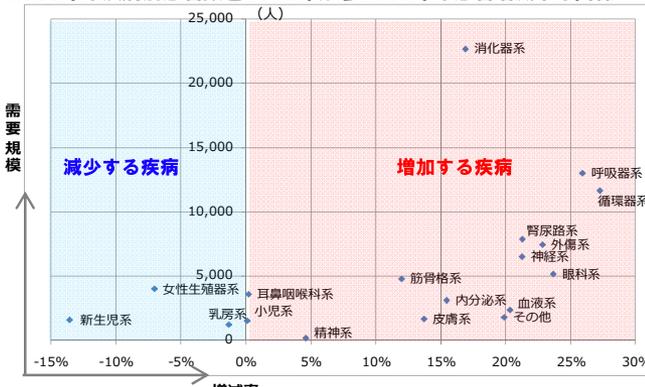
2015年から2060年の疾病別患者数推計



2035年の疾病別患者数と2015年から2035年の患者増減率の関係



2035年の疾病別患者数と2015年から2035年の患者増減率の関係



■ 豊能医療圏の総人口ピークは、2020年と考えられる(第1項参照)が、医療需要のピークは2035年になると予測される。

- 医療需要量の高いものとして、
- ・ ⑥ 消化器系疾患
- ・ ④ 呼吸器系疾患
- ・ ⑤ 循環器系疾患 が挙げられる。

また、上記疾患のいずれも、現時点より需要は伸びる兆しにある。特に呼吸器系疾患、循環器系疾患の増加率は、他の疾患に比べて、高い傾向にある。

第2項 将来医療需要推計と現状分析

（3）（ICD疾病区分）大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計

【パターンA】社人研ベース

入院

【パターンB】人口ビジョンベース

入院

パターンA・入院	件数									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	160	184	204	219	228	227	228	235	242	241
②新生物	1,123	1,227	1,294	1,335	1,355	1,370	1,387	1,393	1,371	1,317
③血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	48	55	61	66	69	69	69	71	73	72
④内分泌、栄養及び代謝疾患	251	291	327	353	369	367	368	380	391	390
⑤精神及び行動の障害	2,074	2,185	2,260	2,308	2,329	2,308	2,272	2,236	2,187	2,121
⑥神経系の疾患	927	1,075	1,200	1,288	1,330	1,324	1,335	1,384	1,422	1,412
⑦眼及び付属器の疾患	88	98	104	105	105	107	110	112	110	104
⑧耳及び乳様突起の疾患	18	20	21	21	20	20	21	21	20	19
⑨循環器系の疾患	1,780	2,132	2,442	2,695	2,865	2,863	2,867	2,979	3,095	3,122
⑩呼吸器系の疾患	672	829	969	1,089	1,174	1,164	1,162	1,222	1,292	1,319
⑪消化器系の疾患	503	568	620	657	676	677	681	696	705	694
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	79	92	104	113	119	118	118	123	127	127
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	532	610	671	710	730	734	743	764	773	760
⑭腎尿路生殖器系の疾患	358	414	460	494	515	517	522	538	550	546
⑮妊娠、分娩及び産じょく	152	141	135	134	131	128	123	117	112	108
⑯周産期に発生した病態	58	56	51	51	50	49	47	45	44	42
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	47	47	45	43	43	41	40	38	37	35
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	118	142	165	184	197	196	195	203	213	217
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	985	1,155	1,303	1,419	1,485	1,478	1,481	1,535	1,588	1,591
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	75	82	88	92	94	93	92	94	95	94
合計	10,049	11,404	12,525	13,376	13,884	13,849	13,858	14,186	14,445	14,332

パターンB・入院	件数									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	159	182	202	216	225	224	225	233	239	239
②新生物	1,115	1,217	1,283	1,325	1,346	1,363	1,382	1,390	1,369	1,316
③血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	48	55	61	65	68	68	68	70	72	72
④内分泌、栄養及び代謝疾患	249	288	322	348	364	363	364	376	387	388
⑤精神及び行動の障害	2,066	2,178	2,257	2,307	2,330	2,311	2,277	2,240	2,191	2,123
⑥神経系の疾患	920	1,064	1,186	1,272	1,313	1,308	1,319	1,369	1,409	1,403
⑦眼及び付属器の疾患	87	97	102	104	104	106	110	112	110	104
⑧耳及び乳様突起の疾患	18	20	21	21	20	20	21	21	20	19
⑨循環器系の疾患	1,763	2,101	2,403	2,651	2,818	2,818	2,825	2,938	3,059	3,093
⑩呼吸器系の疾患	666	816	952	1,068	1,150	1,141	1,141	1,201	1,272	1,303
⑪消化器系の疾患	499	563	614	650	670	670	675	691	701	691
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	78	91	103	112	117	117	117	121	126	126
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	528	603	663	701	721	725	736	757	768	756
⑭腎尿路生殖器系の疾患	355	409	454	488	508	510	516	533	546	542
⑮妊娠、分娩及び産じょく	154	144	138	135	134	131	126	120	113	109
⑯周産期に発生した病態	58	55	51	51	50	48	47	45	43	42
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	48	47	45	44	43	41	40	38	37	35
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	117	140	162	181	193	192	192	200	210	215
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	976	1,141	1,286	1,400	1,464	1,457	1,461	1,516	1,571	1,579
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	75	82	88	92	94	93	92	93	95	94
合計	9,979	11,293	12,392	13,232	13,731	13,707	13,731	14,063	14,337	14,249

パターンA・入院	割合									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	100%	115%	128%	137%	143%	142%	143%	147%	151%	151%
②新生物	100%	109%	115%	119%	121%	122%	123%	124%	122%	117%
③血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	100%	115%	128%	137%	143%	143%	143%	147%	151%	150%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	100%	116%	130%	141%	147%	146%	147%	152%	156%	156%
⑤精神及び行動の障害	100%	105%	109%	111%	112%	111%	110%	108%	105%	102%
⑥神経系の疾患	100%	116%	129%	139%	143%	143%	144%	149%	153%	152%
⑦眼及び付属器の疾患	100%	111%	118%	120%	119%	122%	126%	128%	125%	118%
⑧耳及び乳様突起の疾患	100%	109%	113%	114%	112%	112%	113%	113%	111%	105%
⑨循環器系の疾患	100%	120%	137%	151%	161%	161%	161%	167%	174%	175%
⑩呼吸器系の疾患	100%	123%	144%	162%	175%	173%	173%	182%	192%	196%
⑪消化器系の疾患	100%	113%	123%	131%	135%	135%	135%	139%	140%	138%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	100%	117%	132%	143%	150%	150%	150%	155%	161%	161%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	100%	115%	126%	133%	137%	138%	140%	144%	145%	143%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	100%	116%	128%	138%	144%	145%	146%	150%	154%	153%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	100%	93%	89%	88%	86%	84%	81%	77%	73%	71%
⑯周産期に発生した病態	100%	97%	89%	88%	87%	85%	82%	79%	76%	73%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	100%	98%	94%	92%	90%	87%	84%	81%	78%	75%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	100%	121%	140%	156%	167%	166%	166%	173%	181%	185%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	100%	117%	132%	144%	151%	150%	150%	156%	161%	162%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	100%	109%	117%	123%	125%	123%	122%	125%	126%	125%
合計	100%	113%	125%	133%	138%	138%	138%	141%	144%	143%

パターンB・入院	割合									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	100%	115%	127%	137%	142%	141%	142%	147%	151%	151%
②新生物	100%	109%	115%	119%	121%	122%	124%	125%	123%	118%
③血液及び造血器の疾患並びに 免疫機構の障害	100%	115%	127%	136%	142%	142%	142%	147%	151%	151%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	100%	116%	130%	140%	146%	146%	146%	151%	156%	156%
⑤精神及び行動の障害	100%	105%	109%	112%	113%	112%	110%	108%	106%	103%
⑥神経系の疾患	100%	116%	129%	138%	143%	142%	143%	149%	153%	152%
⑦眼及び付属器の疾患	100%	111%	118%	120%	119%	122%	126%	129%	126%	119%
⑧耳及び乳様突起の疾患	100%	109%	113%	115%	113%	112%	113%	114%	112%	106%
⑨循環器系の疾患	100%	119%	136%	150%	160%	160%	160%	167%	174%	175%
⑩呼吸器系の疾患	100%	123%	143%	161%	173%	171%	171%	180%	191%	196%
⑪消化器系の疾患	100%	113%	123%	130%	134%	134%	135%	138%	140%	138%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	100%	117%	131%	143%	149%	149%	149%	155%	160%	161%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	100%	114%	126%	133%	137%	137%	139%	143%	145%	143%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	100%	115%	128%	138%	143%	144%	145%	150%	154%	153%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	100%	94%	89%	88%	87%	85%	82%	77%	73%	71%
⑯周産期に発生した病態	100%	95%	88%	87%	85%	83%	80%	77%	74%	71%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	100%	98%	94%	91%	89%	86%	83%	80%	77%	74%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	100%	120%	139%	155%	166%	165%	164%	171%	180%	184%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	100%	117%	132%	143%	150%	149%	150%	155%	161%	162%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び 保健サービスの利用	100%	109%	116%	122%	125%	123%	122%	124%	126%	125%
合計	100%	113%	124%	133%	138%	138%	138%	141%	144%	144%

第2項 将来医療需要推計と現状分析

(3) (ICD疾病区分) 大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計

【パターンA】社人研ベース

外来

パターンA・外来	件数									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	1,411	1,450	1,446	1,429	1,412	1,401	1,386	1,357	1,313	1,257
②新生物	1,842	1,952	1,999	2,008	2,002	2,017	2,031	2,014	1,952	1,855
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	179	185	184	181	176	174	173	172	168	161
④内分泌、栄養及び代謝疾患	3,433	3,627	3,726	3,755	3,764	3,792	3,797	3,738	3,606	3,433
⑤精神及び行動の障害	2,083	2,120	2,114	2,089	2,049	1,998	1,947	1,903	1,857	1,796
⑥神経系の疾患	1,351	1,491	1,596	1,654	1,668	1,657	1,665	1,695	1,705	1,667
⑦眼及び付属器の疾患	2,693	2,872	2,944	2,952	2,945	2,967	2,999	2,985	2,904	2,771
⑧耳及び乳様突起の疾患	819	848	848	844	838	837	836	823	798	762
⑨循環器系の疾患	7,161	7,980	8,565	8,908	9,080	9,185	9,317	9,440	9,369	9,059
⑩呼吸器系の疾患	5,566	5,611	5,483	5,378	5,291	5,207	5,111	4,987	4,830	4,643
⑪消化器系の疾患	10,530	10,819	10,826	10,713	10,610	10,533	10,393	10,126	9,739	9,308
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	2,348	2,398	2,380	2,351	2,317	2,287	2,254	2,210	2,143	2,059
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	6,883	7,543	7,897	7,954	7,897	8,024	8,239	8,306	8,099	7,672
⑭腎尿路生殖器系の疾患	2,259	2,355	2,396	2,399	2,378	2,371	2,366	2,341	2,273	2,169
⑮妊娠、分娩及び産じょく	120	112	107	106	104	101	97	92	88	85
⑯周産期に発生した病態	26	25	24	23	23	22	22	21	20	19
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	120	119	115	112	110	108	105	101	97	94
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	620	649	660	660	654	650	649	644	629	602
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,481	2,563	2,580	2,560	2,528	2,494	2,462	2,423	2,359	2,275
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,913	6,092	6,101	6,080	6,051	6,040	5,999	5,889	5,696	5,452
合計	57,839	60,812	61,993	62,158	61,897	61,866	61,849	61,268	59,644	57,139

【パターンB】人口ビジョンベース

外来

パターンB・外来	件数									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	1,412	1,454	1,449	1,432	1,415	1,403	1,388	1,359	1,314	1,257
②新生物	1,833	1,943	1,993	2,004	2,000	2,017	2,032	2,018	1,958	1,861
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	179	186	186	182	177	174	174	173	169	162
④内分泌、栄養及び代謝疾患	3,414	3,609	3,711	3,746	3,760	3,794	3,803	3,748	3,618	3,443
⑤精神及び行動の障害	2,087	2,133	2,131	2,107	2,066	2,012	1,959	1,914	1,866	1,804
⑥神経系の疾患	1,345	1,484	1,587	1,644	1,658	1,647	1,654	1,685	1,698	1,662
⑦眼及び付属器の疾患	2,682	2,861	2,933	2,943	2,937	2,959	2,993	2,983	2,907	2,775
⑧耳及び乳様突起の疾患	820	847	847	843	836	835	834	822	798	761
⑨循環器系の疾患	7,099	7,897	8,474	8,820	8,998	9,115	9,260	9,395	9,340	9,042
⑩呼吸器系の疾患	5,600	5,642	5,505	5,392	5,296	5,205	5,105	4,983	4,825	4,633
⑪消化器系の疾患	10,518	10,839	10,855	10,751	10,656	10,581	10,441	10,175	9,785	9,343
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	2,353	2,405	2,390	2,361	2,325	2,292	2,258	2,213	2,147	2,061
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	6,832	7,484	7,838	7,901	7,852	7,984	8,208	8,290	8,103	7,687
⑭腎尿路生殖器系の疾患	2,254	2,355	2,398	2,402	2,383	2,378	2,374	2,350	2,283	2,177
⑮妊娠、分娩及び産じょく	122	114	109	107	105	103	100	94	90	86
⑯周産期に発生した病態	27	25	23	23	23	22	21	21	20	19
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	121	120	115	112	110	108	105	101	97	93
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	619	649	660	660	653	650	649	644	629	603
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,481	2,570	2,591	2,569	2,534	2,498	2,465	2,425	2,362	2,277
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,915	6,093	6,104	6,083	6,056	6,047	6,008	5,901	5,709	5,460
合計	57,713	60,710	61,899	62,081	61,840	61,825	61,831	61,296	59,718	57,209

パターンA・外来	割合									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	100%	103%	102%	101%	100%	99%	98%	96%	93%	89%
②新生物	100%	106%	109%	109%	109%	109%	110%	109%	106%	101%
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	100%	103%	103%	101%	98%	97%	97%	96%	94%	90%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	100%	106%	109%	109%	110%	110%	111%	109%	105%	100%
⑤精神及び行動の障害	100%	102%	101%	100%	98%	96%	93%	91%	89%	86%
⑥神経系の疾患	100%	110%	118%	122%	124%	123%	126%	126%	123%	124%
⑦眼及び付属器の疾患	100%	107%	109%	110%	109%	110%	111%	111%	108%	103%
⑧耳及び乳様突起の疾患	100%	104%	104%	103%	102%	102%	102%	101%	97%	93%
⑨循環器系の疾患	100%	111%	120%	124%	127%	128%	130%	132%	131%	127%
⑩呼吸器系の疾患	100%	101%	99%	97%	95%	94%	92%	90%	87%	83%
⑪消化器系の疾患	100%	103%	103%	102%	101%	100%	99%	96%	92%	88%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	100%	102%	101%	100%	99%	97%	96%	94%	91%	88%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	100%	110%	115%	116%	115%	117%	120%	121%	118%	111%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	100%	104%	106%	106%	105%	105%	105%	104%	101%	96%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	100%	93%	89%	88%	86%	84%	80%	77%	73%	71%
⑯周産期に発生した病態	100%	97%	90%	88%	87%	85%	82%	79%	76%	74%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	100%	99%	96%	93%	91%	90%	87%	84%	81%	78%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	100%	105%	106%	106%	105%	105%	105%	104%	101%	97%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	100%	103%	104%	103%	102%	101%	99%	98%	95%	92%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	100%	103%	103%	103%	102%	102%	101%	100%	96%	92%
合計	100%	105%	107%	107%	107%	107%	107%	106%	103%	99%

パターンB・外来	割合									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
①感染症及び寄生虫症	100%	103%	103%	101%	100%	99%	98%	96%	93%	89%
②新生物	100%	106%	109%	109%	109%	110%	111%	110%	107%	102%
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	100%	104%	103%	101%	99%	97%	97%	96%	94%	90%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	100%	106%	109%	110%	110%	111%	111%	110%	106%	101%
⑤精神及び行動の障害	100%	102%	102%	101%	99%	96%	94%	92%	89%	86%
⑥神経系の疾患	100%	110%	118%	122%	123%	122%	123%	125%	126%	124%
⑦眼及び付属器の疾患	100%	107%	109%	110%	110%	110%	112%	111%	108%	103%
⑧耳及び乳様突起の疾患	100%	103%	103%	103%	102%	102%	102%	100%	97%	93%
⑨循環器系の疾患	100%	111%	119%	124%	127%	128%	130%	132%	132%	127%
⑩呼吸器系の疾患	100%	101%	98%	96%	95%	93%	91%	89%	86%	83%
⑪消化器系の疾患	100%	103%	103%	102%	101%	101%	99%	97%	93%	89%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	100%	102%	102%	100%	99%	97%	96%	94%	91%	88%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	100%	110%	115%	116%	115%	117%	120%	121%	119%	113%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	100%	104%	106%	107%	106%	105%	105%	104%	101%	97%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	100%	93%	89%	88%	86%	85%	82%	77%	73%	71%
⑯周産期に発生した病態	100%	95%	88%	87%	86%	83%	80%	77%	74%	72%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	100%	99%	95%	93%	91%	89%	86%	83%	80%	77%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	100%	105%	107%	107%	106%	105%	105%	104%	102%	97%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	100%	104%	104%	104%	102%	101%	99%	98%	95%	92%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	100%	103%	103%	103%	102%	102%	100%	97%	92%	92%
合計	100%	105%	107%	108%	107%	107%	107%	106%	103%	99%

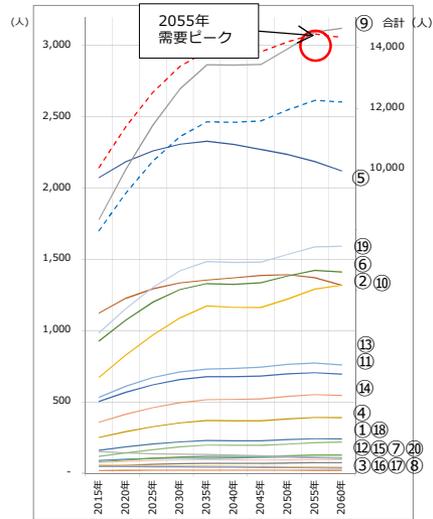
第2項 将来医療需要推計と現状分析

(3) (ICD疾病区分) 大分類別 豊能医療圏 発生患者数の予測推計

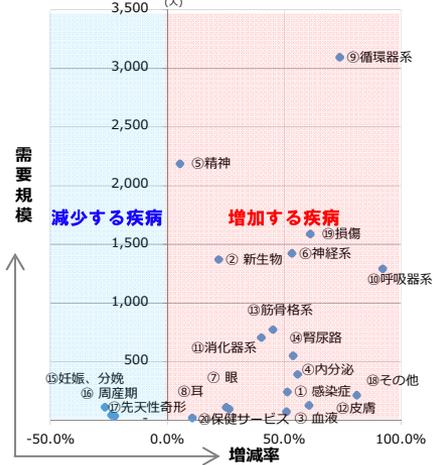
○：需要ピーク時

【パターンA】 社人研ベース

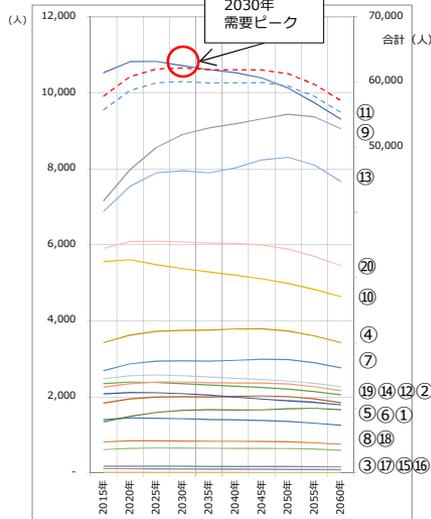
2015年から2060年の疾病別入院患者数推計



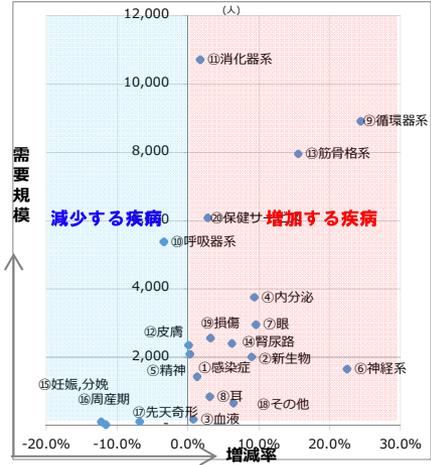
2055年の疾病別患者数と 2015年から2055年の患者増減率の関係



2015年から2060年の疾病別外来患者数推計

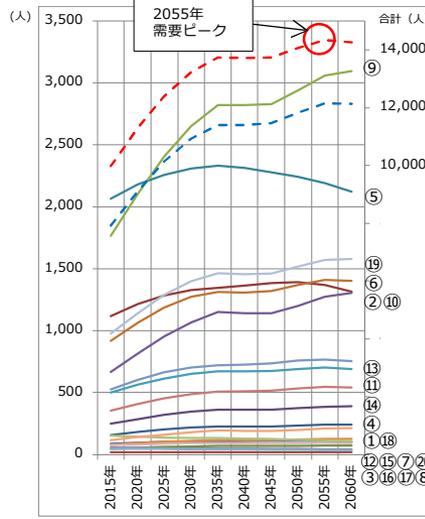


2030年の疾病別患者数と 2015年から2030年の患者増減率の関係

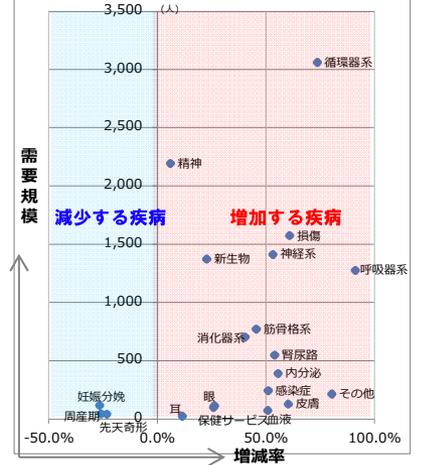


【パターンB】 人口ビジョンベース

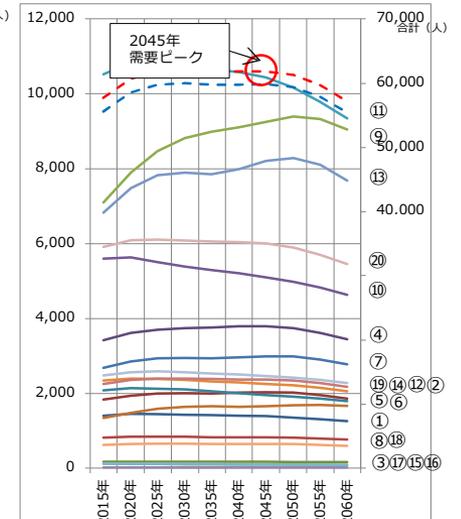
2015年から2060年の疾病別入院患者数推計



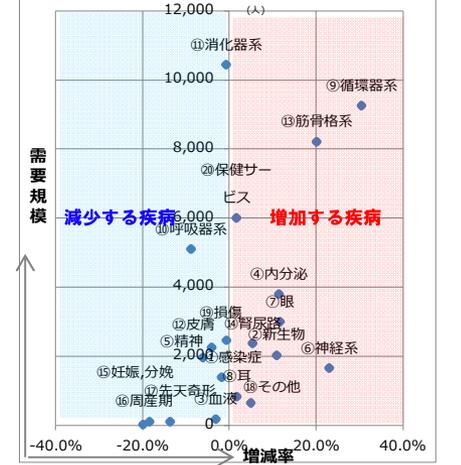
2055年の疾病別患者数と 2015年から2055年の患者増減率の関係



2015年から2060年の疾病別外来患者数推計



2045年の疾病別患者数と 2015年から2045年の患者増減率の関係



- <凡例>
- ①感染症及び寄生虫症
 - ②新生物
 - ③血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害
 - ④内分泌、栄養及び代謝疾患
 - ⑤精神及び行動の障害
 - ⑥神経系の疾患
 - ⑦眼及び付属器の疾患
 - ⑧耳及び乳突突起の疾患
 - ⑨循環器系の疾患
 - ⑩呼吸器系の疾患
 - ⑪消化器系の疾患
 - ⑫皮膚及び皮下組織の疾患
 - ⑬筋骨格系及び結合組織の疾患
 - ⑭腎泌尿生殖器系の疾患
 - ⑮妊娠、分娩及び産じょく
 - ⑯周産期に発生した病態
 - ⑰先天奇形、変形及び染色体異常
 - ⑱損傷、中毒及びその他の外因の影響
 - ⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
 - ㉑妊娠、分娩及び産じょく
 - ㉒周産期に発生した病態
 - ㉓先天奇形、変形及び染色体異常
 - ㉔損傷、中毒及びその他の外因の影響
 - ㉕健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
 - ㉖合計(右軸)
 - ㉗合計(精神疾患以外)(右軸)
 - ㉘症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

■ 入院患者予測
 ⑨循環器系の疾患が急激に増え、医療需要全体の推移も右肩上がりとなっている。

■ 外来患者予測
 ⑨循環器系の疾患は、入院同様増える一方、医療需要全体の推移は、徐々に逓減していくことが予測される。

第2項 将来医療需要推計と現状分析

(4) ピーク時点における患者増減数 豊能医療圏

2015年に対する患者増減予測
+：増加 -：減少

2015年に対する2035年の患者増減数（2035年：DPC疾病区分にて入院需要がピークと予測される年（P.9参照））

DPC疾病分類	入院（人）			
	パターン A	増減	パターン B	増減
1 神経系	1,156	+	1,144	+
2 眼科系	1,001	+	991	+
3 耳鼻咽喉科系	0		7	+
4 呼吸器系	2,771	+	2,679	+
5 循環器系	2,521	+	2,498	+
6 消化器系	3,257	+	3,277	+
7 筋骨格系	505	+	513	+
8 皮膚系	208	+	202	+
9 乳房系	-30	-	-17	-
10 内分泌系	422	+	419	+
11 腎尿路系	1,391	+	1,384	+
12 女性生殖系	-350	-	-306	-
13 血液系	406	+	402	+
14 新生児系	-221	-	-253	-
15 小児系	16	+	1	+
16 外傷系	1,410	+	1,387	+
17 精神系	8	+	8	+
18 その他	304	+	299	+
合計	14,775	+	14,636	+

ICDの疾病分類	入院（人）				外来（人）			
	パターン A	増減	パターン B	増減	パターン A	増減	パターン B	増減
1 感染症及び寄生虫症	68	+	66	+	2	+	2	+
2 新生物	232	+	231	+	160	+	167	+
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	21	+	20	+	-3	-	-3	-
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	118	+	115	+	331	+	347	+
5 精神及び行動の障害	255	+	265	+	-34	-	-22	-
6 神経系の疾患	402	+	392	+	318	+	313	+
7 眼及び付属器の疾患	17	+	17	+	251	+	255	+
8 耳及び乳突突起の疾患	2	+	2	+	19	+	17	+
9 循環器系の疾患	1,085	+	1,055	+	1,918	+	1,899	+
10 呼吸器系の疾患	502	+	484	+	-276	-	-303	-
11 消化器系の疾患	174	+	170	+	80	+	138	+
12 皮膚及び皮下組織の疾患	40	+	39	+	-31	-	-27	-
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	198	+	194	+	1,015	+	1,019	+
14 腎尿路生殖系の疾患	158	+	154	+	119	+	129	+
15 妊娠、分娩及び産じょく	-21	-	-21	-	-17	-	-17	-
16 周産期に発生した病態	-7	-	-9	-	-3	-	-4	-
17 先天奇形	-5	-	-5	-	-10	-	-11	-
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	79	+	77	+	34	+	34	+
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	500	+	487	+	47	+	53	+
20 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	19	+	18	+	138	+	141	+
合計	3,835	+	3,752	+	4,058	+	4,128	+

2015年に対する2055年の患者増減数（2055年：ICD疾病区分にて入院需要がピークと予測される年（P.12参照））

DPCの疾病分類	入院（人）			
	パターン A	増減	パターン B	増減
1 神経系	1,143	+	1,149	+
2 眼科系	964	+	984	+
3 耳鼻咽喉科系	-319	-	-316	-
4 呼吸器系	3,057	+	3,004	+
5 循環器系	2,642	+	2,673	+
6 消化器系	2,607	+	2,714	+
7 筋骨格系	287	+	309	+
8 皮膚系	174	+	169	+
9 乳房系	-152	-	-140	-
10 内分泌系	359	+	360	+
11 腎尿路系	1,296	+	1,320	+
12 女性生殖系	-858	-	-843	-
13 血液系	382	+	386	+
14 新生児系	-422	-	-460	-
15 小児系	-82	-	-101	-
16 外傷系	1,481	+	1,464	+
17 精神系	-4	-	-4	-
18 その他	295	+	295	+
合計	12,849	+	12,963	+

ICDの疾病分類	入院（人）				外来（人）			
	パターン A	増減	パターン B	増減	パターン A	増減	パターン B	増減
1 感染症及び寄生虫症	82	+	81	+	-98	-	-98	-
2 新生物	247	+	254	+	109	+	125	+
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	25	+	24	+	-11	-	-11	-
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	140	+	138	+	173	+	204	+
5 精神及び行動の障害	113	+	125	+	-226	-	-221	-
6 神経系の疾患	495	+	489	+	355	+	353	+
7 眼及び付属器の疾患	22	+	23	+	211	+	225	+
8 耳及び乳突突起の疾患	2	+	2	+	-21	-	-22	-
9 循環器系の疾患	1,315	+	1,296	+	2,207	+	2,241	+
10 呼吸器系の疾患	620	+	607	+	-736	-	-775	-
11 消化器系の疾患	202	+	202	+	-791	-	-733	-
12 皮膚及び皮下組織の疾患	48	+	47	+	-205	-	-206	-
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	241	+	240	+	1,216	+	1,271	+
14 腎尿路生殖系の疾患	193	+	191	+	14	+	29	+
15 妊娠、分娩及び産じょく	-41	-	-41	-	-32	-	-33	-
16 周産期に発生した病態	-14	-	-15	-	-6	-	-7	-
17 先天奇形	-11	-	-11	-	-23	-	-24	-
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	95	+	94	+	9	+	10	+
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	603	+	594	+	-122	-	-119	-
20 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	20	+	19	+	-217	-	-206	-
合計	4,397	+	4,359	+	1,805	+	2,005	+

(4) ピーク時点における患者増減数 豊能医療圏

2015年に対する患者増減予測

+：増加 -：減少

2015年に対する2060年の患者増減数 (2060年：患者推計最終の年)

DPCの疾病分類	入院 (人)			
	パターン A	増減	パターン B	増減
1 神経系	957	+	964	+
2 眼科系	813	+	829	+
3 耳鼻咽喉科系	-438	-	-440	-
4 呼吸器系	2,712	+	2,671	+
5 循環器系	2,303	+	2,334	+
6 消化器系	1,885	+	1,968	+
7 筋骨格系	136	+	154	+
8 皮膚系	127	+	123	+
9 乳房系	-195	-	-184	-
10 内分泌系	270	+	272	+
11 腎尿路系	1,056	+	1,074	+
12 女性生殖器系	-990	-	-980	-
13 血液系	312	+	316	+
14 新生児系	-472	-	-512	-
15 小児系	-126	-	-145	-
16 外傷系	1,301	+	1,293	+
17 精神系	-9	-	-10	-
18 その他	243	+	244	+
合計	9,884	+	9,969	+

ICDの疾病分類	入院 (人)				外来 (人)			
	パターン A	増減	パターン B	増減	パターン A	増減	パターン B	増減
1 感染症及び寄生虫症	81	+	80	+	-154	-	-155	-
2 新生物	194	+	201	+	13	+	28	+
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	24	+	24	+	-18	-	-17	-
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	140	+	139	+	-0	-	29	+
5 精神及び行動の障害	47	+	57	+	-287	-	-283	-
6 神経系の疾患	485	+	483	+	316	+	318	+
7 眼及び付属器の疾患	16	+	17	+	78	+	93	+
8 耳及び乳様突起の疾患	1	+	1	+	-57	-	-59	-
9 循環器系の疾患	1,341	+	1,331	+	1,898	+	1,943	+
10 呼吸器系の疾患	647	+	637	+	-923	-	-967	-
11 消化器系の疾患	192	+	192	+	-1,222	-	-1,175	-
12 皮膚及び皮下組織の疾患	48	+	48	+	-289	-	-292	-
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	228	+	229	+	789	+	855	+
14 腎尿路生殖器系の疾患	188	+	187	+	-90	-	-76	-
15 妊娠、分娩及び産じょく	-44	-	-45	-	-35	-	-36	-
16 周産期に発生した病態	-15	-	-17	-	-7	-	-8	-
17 先天奇形	-12	-	-13	-	-27	-	-28	-
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	99	+	98	+	-17	-	-16	-
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	606	+	602	+	-206	-	-204	-
20 健康状態に影響を及ぼす要員及び保健サービスの利用	19	+	19	+	-461	-	-454	-
合計	4,283	+	4,270	+	-700	-	-503	-

■ DPC疾病分類とICD疾病分類の比較から

- 区分の定義が異なるため単純比較を行うことができないが、疾病ごとの増減傾向は、概ね両データとも近い傾向がみられる。
 - ・新生児系（周産期系）疾患・耳鼻系疾患は、横ばいもしくは減少が予測される。
 - ・眼科系疾患・循環器系疾患・呼吸器系疾患・外傷系疾患は増加が予測される。
- 一方、両データでみられる傾向の違いについて、主なものは下記のとおり
 - ・入院需要全体のピークは、ICD疾病分類よりもDPC疾病分類の方が早く到来する。
 - ・疾病分類間での予測患者数の比率は、疾病区分ごとで異なる。
 区分定義が異なること（例えば、ICD疾病分類では新生物は個別区分であるが、DPC疾病区分は各疾病に分散しているなど）や、データ範囲が異なること（DPCは主に急性期患者を対象にしているなど）が、それらの違いの背景に挙げられる。

■ 入院と外来の比較から

- 全体的には、外来需要は多くの疾病領域で今後減少することが予測される。
- 外来需要は全体的な減少傾向の中で、新生物・神経系・眼及び付属器・循環器系・筋骨格系は今後も継続した需要増加が予測される。

【本報告書における両データの活用・展開方針】

DPC疾病区分データ：将来当院規模目安の推定

ICD疾病区分データ：箕面市在住患者受療動向分析（第2章）で挙げられるICD疾病区分別受療先データ（箕面市から流出している疾病領域の特徴など）と組み合わせ考察し、今後箕面市で充実が求められる診療領域を考察する材料として使用

第2項 将来医療需要推計と現状分析

(5) 上位疾病別患者数予測

2015年から2060年における患者数予測（上位5疾病）

* 順位は2060年時点のもの

 疾患及び人口動態別予測患者数ピーク年を示す

患者数が多い上位5疾病について、疾病ごとの患者数予測ピーク年次を整理すると下記のとおりと異なる。診療領域により患者数がピークになる年次は異なり、例えば、DPC疾病区分では、消化器系や腎尿路系は2035年ごろにピークを迎えるが、呼吸器系・循環器系・外傷系はその後も患者数増加が予測される。疾病ごとのピーク年次が異なることも踏まえた上で、新病院計画でどの機能を強化するか等について検討する必要がある。

(人)

種類	順位	番号	分類	人口動態	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
DPC 入院	1	⑥	消化器系	パターンA	19,525	20,635	21,495	22,351	22,782	22,668	22,548	22,423	22,132	21,410
				パターンB	19,419	20,520	21,382	22,243	22,696	22,614	22,522	22,420	22,133	21,386
	2	④	呼吸器系	パターンA	10,388	11,282	12,037	12,951	13,159	12,943	12,959	13,201	13,445	13,100
				パターンB	10,351	11,188	11,929	12,819	13,030	12,830	12,855	13,105	13,355	13,022
	3	⑤	循環器系	パターンA	9,245	10,042	10,750	11,490	11,766	11,675	11,692	11,815	11,887	11,549
				パターンB	9,177	9,955	10,654	11,387	11,675	11,605	11,637	11,772	11,850	11,511
	4	⑪	腎尿路系	パターンA	6,549	6,991	7,367	7,767	7,940	7,885	7,864	7,876	7,845	7,605
				パターンB	6,511	6,943	7,316	7,714	7,895	7,853	7,842	7,862	7,831	7,585
	5	⑯	外傷系	パターンA	6,104	6,600	7,031	7,471	7,514	7,356	7,332	7,453	7,585	7,404
				パターンB	6,079	6,574	7,000	7,429	7,466	7,311	7,288	7,408	7,543	7,372
ICD 入院	1	⑨	循環器系の疾患	パターンA	1,780	2,132	2,442	2,695	2,865	2,863	2,867	2,979	3,095	3,122
				パターンB	1,763	2,101	2,403	2,651	2,818	2,818	2,825	2,938	3,059	3,093
	2	⑤	精神および行動の障害	パターンA	2,074	2,185	2,260	2,308	2,329	2,308	2,272	2,236	2,187	2,121
				パターンB	2,066	2,178	2,257	2,307	2,330	2,311	2,277	2,240	2,191	2,123
	3	⑲	損傷、中毒およびその他の外 因の影響	パターンA	985	1,155	1,303	1,419	1,485	1,478	1,481	1,535	1,588	1,591
				パターンB	976	1,141	1,286	1,400	1,464	1,457	1,461	1,516	1,571	1,579
	4	⑥	神経系の疾患	パターンA	927	1,075	1,200	1,288	1,330	1,324	1,335	1,384	1,422	1,412
				パターンB	920	1,064	1,186	1,272	1,313	1,308	1,319	1,369	1,409	1,403
	5	②	新生物	パターンA	1,123	1,227	1,294	1,335	1,355	1,370	1,387	1,393	1,371	1,317
				パターンB	1,115	1,217	1,283	1,325	1,346	1,363	1,382	1,390	1,369	1,316
ICD 外来	1	⑭	消化器系の疾患	パターンA	10,530	10,819	10,826	10,713	10,610	10,533	10,393	10,126	9,739	9,308
				パターンB	10,518	10,839	10,855	10,751	10,656	10,581	10,441	10,175	9,785	9,343
	2	⑨	循環器系の疾患	パターンA	7,161	7,980	8,565	8,908	9,080	9,185	9,317	9,440	9,369	9,059
				パターンB	7,099	7,897	8,474	8,820	8,998	9,115	9,260	9,395	9,340	9,042
	3	⑬	筋骨格および結合組織の疾患	パターンA	6,883	7,543	7,897	7,954	7,897	8,024	8,239	8,306	8,099	7,672
				パターンB	6,832	7,484	7,838	7,901	7,852	7,984	8,208	8,290	8,103	7,687
	4	⑳	健康状態に影響をおよぼす要 因および保健サービスの利用	パターンA	5,913	6,092	6,101	6,080	6,051	6,040	5,999	5,889	5,696	5,452
				パターンB	5,915	6,093	6,104	6,083	6,056	6,047	6,008	5,901	5,709	5,460
	5	⑩	呼吸器系の疾患	パターンA	5,566	5,611	5,483	5,378	5,291	5,207	5,111	4,987	4,830	4,643
				パターンB	5,600	5,642	5,505	5,392	5,296	5,205	5,105	4,983	4,825	4,633

(6) (DPC疾病区分) 上位3分類の内訳 (2016年実績)

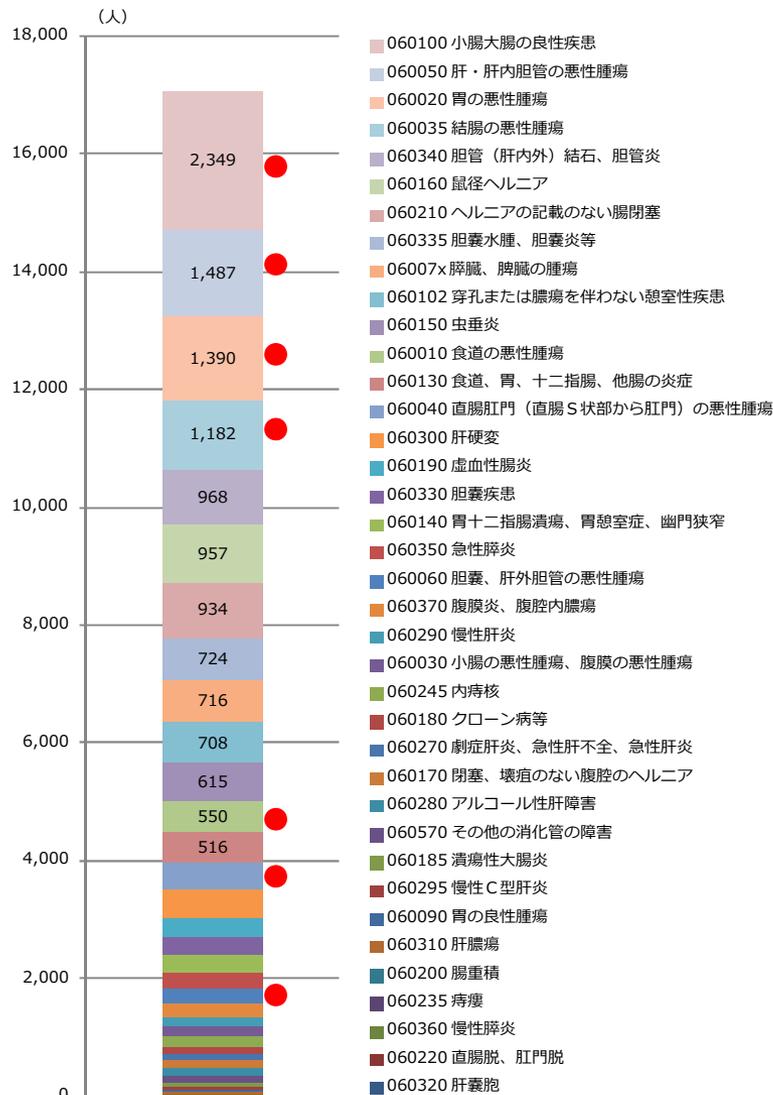
豊能医療圏
大分類別患者数

	件数	割合
消化器系	17,062	21.3%
呼吸器系	11,292	14.1%
循環器系	10,771	13.4%
腎尿路系	6,210	7.7%
眼科系	5,553	6.9%
神経系	5,496	6.9%
女性生殖系	4,290	5.3%
外傷系	4,238	5.3%
新生児系	2,577	3.2%
内分泌系	2,440	3.0%
筋骨格系	2,058	2.6%
耳鼻咽喉科系	2,002	2.5%
血液系	1,680	2.1%
乳房系	1,342	1.7%
小児系	1,248	1.6%
その他	1,203	1.5%
皮膚系	725	0.9%
精神系	45	0.1%
計	80,232	100.0%

大分類別患者件数上位3分類における中分類別患者数
消化器系

消化器系	件数
060100 小腸大腸の良性疾病	2,349
060050 肝・肝内胆管の悪性腫瘍	1,487
060020 胃の悪性腫瘍	1,390
060035 結腸の悪性腫瘍	1,182
060340 胆管（肝内外）結石、胆管炎	968
060160 鼠径ヘルニア	957
060210 ヘルニアの記載のない腸閉塞	934
060335 胆嚢水腫、胆嚢炎等	724
06007x 脾臓、脾臓の腫瘍	716
060102 穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾病	708
060150 虫垂炎	615
060010 食道の悪性腫瘍	550
060130 食道、胃、十二指腸、他腸の炎症	516
060040 直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	473
060300 肝硬変	468
060190 虚血性腸炎	330
060330 胆嚢疾患	309
060140 胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄	305
060350 急性膵炎	263
060060 胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	243
060370 腹膜炎、腹腔内膿瘍	211
060290 慢性肝炎	172
060030 小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	168
060245 内痔核	160
060180 クロウン病等	133
060270 劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	130
060170 閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	128
060280 アルコール性肝障害	122
060570 その他の消化管の障害	101
060185 潰瘍性大腸炎	66
060295 慢性C型肝炎	60
060090 胃の良性腫瘍	44
060310 肝膿瘍	27
060200 腸重積	11
060235 痔瘻	11
060360 慢性膵炎	11
060220 直腸脱、肛門脱	10
060320 肝嚢胞	10

● 腫瘍系疾患を示す



■ 消化器系は腫瘍系疾患が多くを占めている。

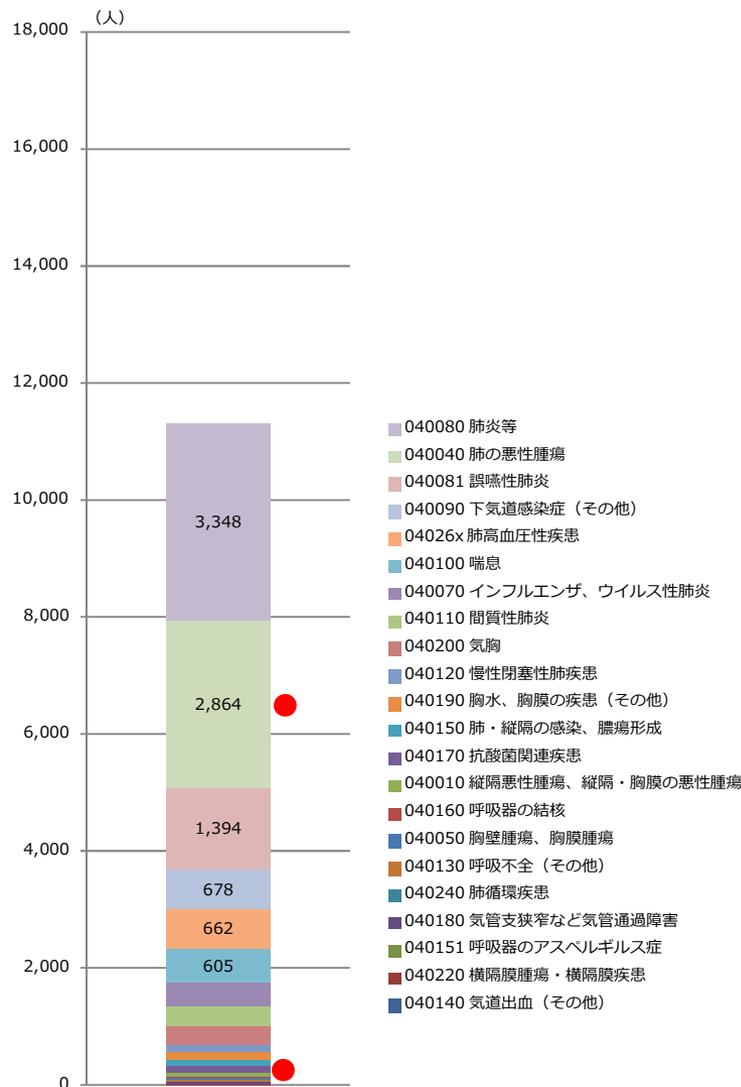
(6) (DPC疾病区分) 上位3分類の内訳 (2016年実績)

豊能医療圏
大分類別患者数

	件数	割合
消化器系	17,062	21.3%
呼吸器系	11,292	14.1%
循環器系	10,771	13.4%
腎尿路系	6,210	7.7%
眼科系	5,553	6.9%
神経系	5,496	6.9%
女性生殖器系	4,290	5.3%
外傷系	4,238	5.3%
新生児系	2,577	3.2%
内分泌系	2,440	3.0%
筋骨格系	2,058	2.6%
耳鼻咽喉科系	2,002	2.5%
血液系	1,680	2.1%
乳房系	1,342	1.7%
小児系	1,248	1.6%
その他	1,203	1.5%
皮膚系	725	0.9%
精神系	45	0.1%
計	80,232	100.0%

大分類別患者件数上位3分類における中分類別患者数 ● 腫瘍系疾患を示す
呼吸器系

呼吸器系	件数
040080 肺炎等	3,348
040040 肺の悪性腫瘍	2,864
040081 誤嚥性肺炎	1,394
040090 下気道感染症（その他）	678
04026x 肺高血圧性疾患	662
040100 喘息	605
040070 インフルエンザ、ウイルス性肺炎	401
040110 間質性肺炎	330
040200 気胸	306
040120 慢性閉塞性肺疾患	135
040190 胸水、胸膜の疾患（その他）	128
040150 肺・縦隔の感染、膿瘍形成	106
040170 抗酸菌関連疾患	101
040010 縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	64
040160 呼吸器の結核	36
040050 胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	32
040130 呼吸不全（その他）	30
040240 肺循環疾患	20
040180 気管支狭窄など気管通過障害	16
040151 呼吸器のアスペルギルス症	13
040220 横隔膜腫瘍・横隔膜疾患	12
040140 気道出血（その他）	11



■呼吸器系は、肺炎と肺の悪性腫瘍で約7割を占めている。

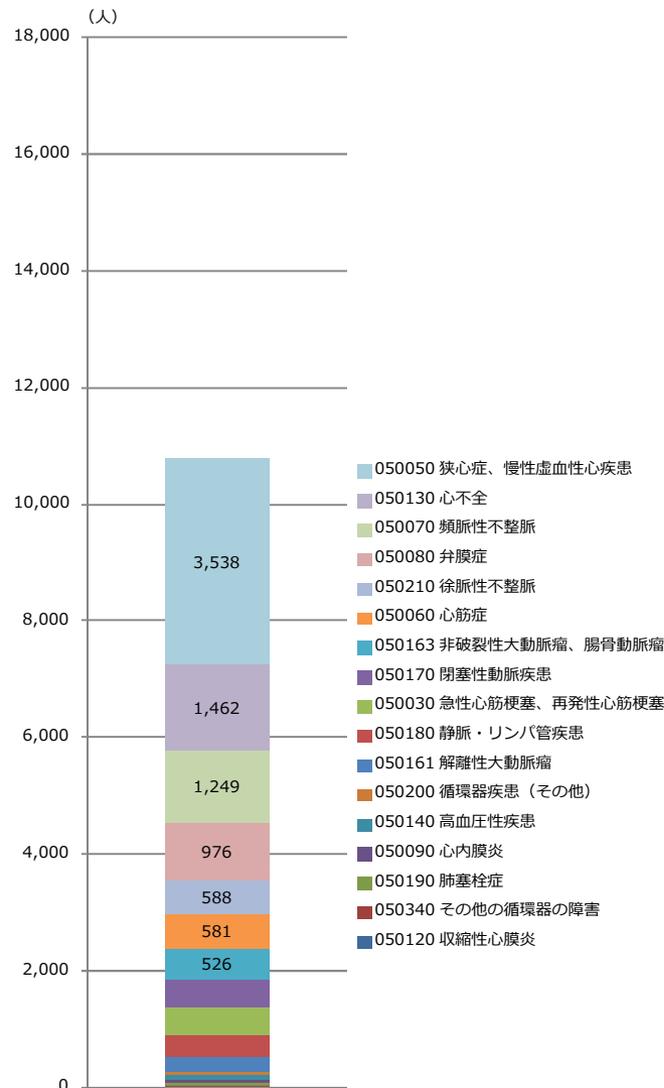
(6) (DPC疾病区分) 上位3分類の内訳 (2016年実績)

豊能医療圏
大分類別患者数

	件数	割合
消化器系	17,062	21.3%
呼吸器系	11,292	14.1%
循環器系	10,771	13.4%
腎尿路系	6,210	7.7%
眼科系	5,553	6.9%
神経系	5,496	6.9%
女性生殖系	4,290	5.3%
外傷系	4,238	5.3%
新生児系	2,577	3.2%
内分泌系	2,440	3.0%
筋骨格系	2,058	2.6%
耳鼻咽喉科系	2,002	2.5%
血液系	1,680	2.1%
乳房系	1,342	1.7%
小児系	1,248	1.6%
その他	1,203	1.5%
皮膚系	725	0.9%
精神系	45	0.1%
計	80,232	100.0%

大分類別患者件数上位3分類における中分類別患者数
循環器系

循環器系	件数
050050 狭心症、慢性虚血性心疾患	3,538
050130 心不全	1,462
050070 頻脈性不整脈	1,249
050080 弁膜症	976
050210 徐脈性不整脈	588
050060 心筋症	581
050163 非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	526
050170 閉塞性動脈疾患	490
050030 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞	472
050180 静脈・リンパ管疾患	361
050161 解離性大動脈瘤	237
050200 循環器疾患（その他）	77
050140 高血圧性疾患	70
050090 心内膜炎	53
050190 肺塞栓症	53
050340 その他の循環器の障害	27
050120 収縮性心膜炎	11



■ 循環器系は、狭心症が多く、心不全、不整脈も高い割合を占めている。

医療需要（将来推計）の実手順

第1章では、医療需要の将来推計の分析を、下記のとおり行った。

1. 将来人口推計

- 豊能医療圏の将来人口推計（2060年まで）を実施

【パターンA】社人研データをベースに策定

* 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が、国の社会保障制度の中・長期計画及び各種施策立案の基礎資料とするため推計・公表している全国的な市区町村別の将来人口推計データを基に、豊能医療圏内の各市町の2060年までの将来人口推計を本計画において推計

【パターンB】箕面市人口ビジョンをベースに策定（他市は社人研データを採用）

* 箕面市人口ビジョン（2015年10月策定）では、3パターン（人口推計Ⅰ、人口推計Ⅱ、将来展望）の推計を策定しているが、いずれも社人研データよりも、将来人口が多く推移しているため、上述のパターンAとは別に、箕面市のみ人口ビジョンを採用したパターンBを策定する。なお、その3パターンの中で、現在事業進行中の北大阪急行線延伸による人口増効果を加味した「人口推計Ⅱ」を採用。（「人口推計Ⅰ」は実績値に基づいた「素の人口推計」、「将来展望」は人口推計Ⅱに子育て支援策のさらなる充実による人口増効果を加味したものの）

* 豊能医療圏内の箕面市以外の各市町（吹田市・豊中市・池田市・豊能町・能勢町）の人口ビジョンについては、推計区分や期間に差があり、単純な合算による推計ができないため、箕面市以外の各市町については、社人研データを採用する。

2. 将来医療需要推計と現状分析

- 「1. 将来人口推計」を基に、人口あたり患者発生率をかけ合わせ、豊能医療圏の将来医療需要を推計。なお、患者発生率設定には下記データを使用

① DPCデータ（疾病区分：DPC疾病区分）

* DPCデータ：入院医療費の算定に用いる「診断群分類別包括支払い制度（DPC制度）」に基づくデータで、制度導入の評価や見直しに資するために厚生労働省が収集・分析し、毎年公表されている。

* データの対象：DPCデータを提出している病院（主に急性期）の入院患者のみ

* データで示される件数：年間の実患者発生件数

* データ元：DPC評価分科会公表（2018年3月6日）の2016年4月から2017年3月に退院又は転院した患者のデータ

② ICDデータ（疾病区分：ICD疾病区分）

* ICDデータ：ICD（異なる国や地域の疾病データを比較・分析するためにWHOが作成した国際的な疾病区分）に準拠して作成された統計データで、統計法に基づく「患者調査」として3年に1回厚生労働省により実施・公表されている。

* データの対象：全病床（一般、療養、感染症、結核、精神）の入院患者及び病院、一般診療所、歯科診療所を受診した外来患者

* データで示される件数：調査日1日における受診患者数

* データ元：厚生労働省公表の2014年10月に医療機関を受診した患者のデータ

- ①と②のデータ使用においては、下記の違いがある。

【疾病区分】 ■ 両データは疾病区分の定義が異なるため、名称が類似する区分であってもその中に含まれる疾患内容には違いがある。

（例）・新生物（がん）は、ICD疾病区分では「新生物」の区分に含まれているが、DPC疾病区分では、「消化器系」「呼吸器系」などの各疾病区分に分かれて含まれている。
・ICD疾病区分での「循環器系」には、脳血管疾患や肺循環器疾患が含まれるが、DPC疾病区分では、それらは「神経系」「呼吸器系」に含まれている。

【入院】 ■ DPCデータは「年間実患者発生件数」を示していることから、平均在院日数の長短により影響されるものではない。

■ ICDデータは「調査日1日における受診患者数」を示していることから、平均在院日数の長短により数値が変化するためである。

■ 本報告書では、平均在院日数は今後も変化しないと仮定して算出している。

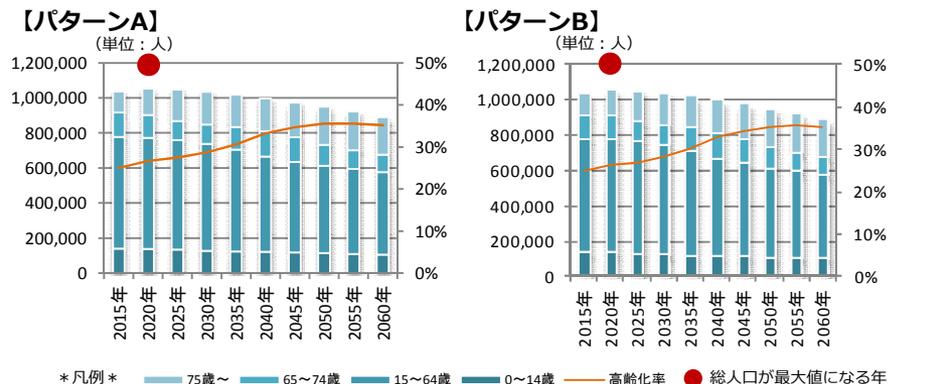
【外来】 ■ DPCデータは入院医療のみを対象としたデータであるため、外来に関する分析はICDデータのみで行う。

3. 医療需要（将来推計）のまとめ

- 上記、「1. 将来人口推計」「2. 将来医療需要推計と現状分析」で分析した内容から、豊能医療圏の医療需要推計を実施

1. 将来人口推計

豊能医療圏のパターン別の人口推計は下図のとおり。



* 凡例 * 75歳～ 65～74歳 15～64歳 0～14歳 高齢化率 ● 総人口が最大値になる年

(単位：人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	
パターンA	0～14歳	139,502	138,817	133,920	127,874	123,397	121,211	118,213	114,268	110,161	106,185
	15～64歳	637,399	632,762	625,420	609,732	581,846	543,211	516,883	497,798	483,817	470,225
	65～74歳	140,100	131,488	107,621	110,619	129,015	145,678	139,975	120,610	107,689	99,773
	75歳～	119,616	149,665	180,391	186,801	182,982	185,570	197,704	216,886	220,413	213,180
	合計	1,036,617	1,052,732	1,047,352	1,035,026	1,017,240	995,670	972,775	949,562	922,080	889,362
	高齢化率	25.1%	26.7%	27.5%	28.7%	30.7%	33.3%	34.7%	35.5%	35.6%	35.2%
パターンB	0～14歳	141,250	141,086	135,615	127,728	122,951	120,431	117,069	113,007	108,977	105,008
	15～64歳	640,241	639,436	634,675	621,230	592,989	552,938	524,643	503,386	487,547	473,369
	65～74歳	138,629	130,177	106,911	109,664	128,071	145,574	141,207	122,949	109,927	100,402
	75歳～	118,149	147,269	176,982	183,357	179,501	181,887	193,999	213,545	218,200	212,237
	合計	1,038,269	1,057,968	1,054,183	1,041,978	1,023,511	1,000,829	976,918	952,887	924,651	891,016
	高齢化率	24.7%	26.2%	26.9%	28.1%	30.1%	32.7%	34.3%	35.3%	35.5%	35.1%

考察

- 豊能医療圏の総人口は、パターンA・Bともに2020年をピークに減少していくことが予測される。

- 高齢化率のピークは、パターンA・Bともに2055年、高齢者数のピークは、パターンAは2045年、パターンBは2050年と予測される。

2. 将来医療需要推計と現状分析

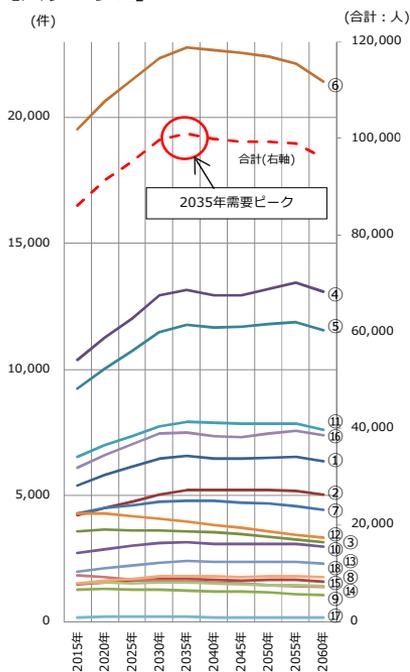
豊能医療圏の患者数予測を2種類のデータを用いて行った。

なお、データで示される人数は、DPCデータは「年間の実患者発生件数」、ICDデータは「調査日1日の総患者数」のため、グラフ上の需要規模の総数はそれぞれで大きく異なる。

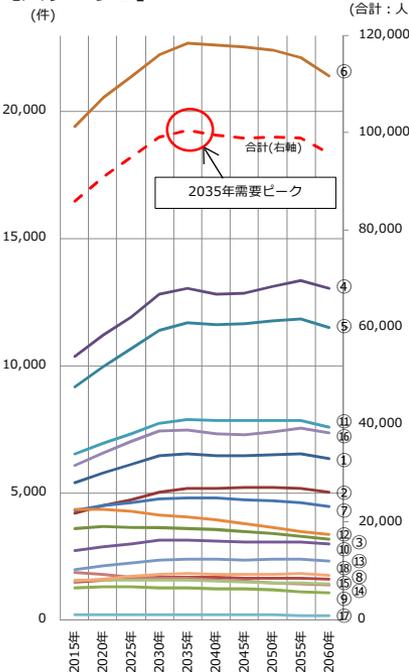
(1) DPCデータによる入院患者数予測

- DPCデータにおける、2015年から2060年の疾病別患者推計は下図のとおり。
- 主に急性期の入院患者を対象としたDPCデータにおいて、疾病別患者数の合計が最も多くなる時期（需要ピーク時）は、パターンA・Bともに2035年

【パターンA】



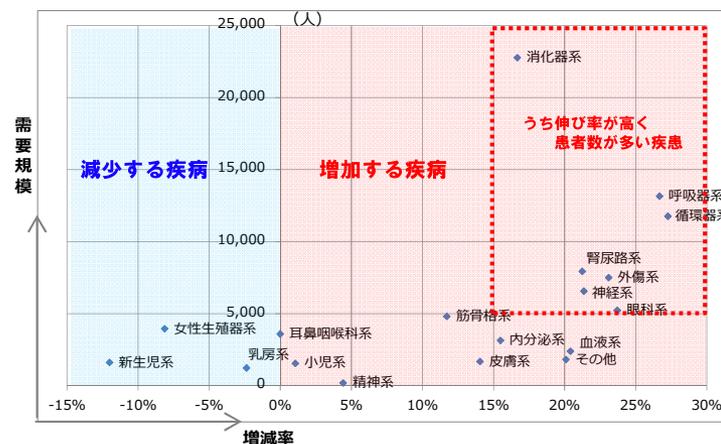
【パターンB】



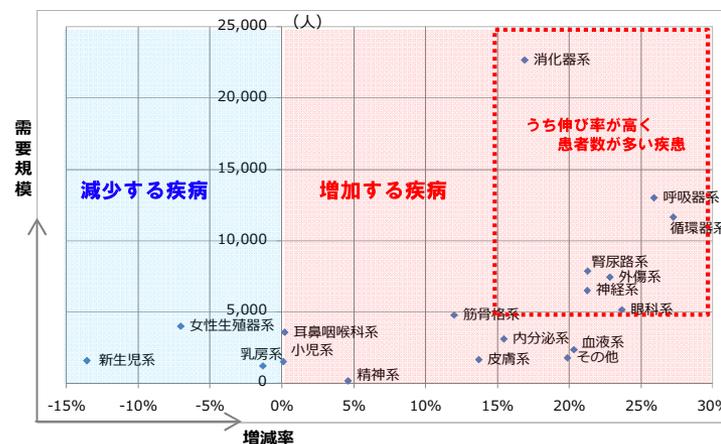
- <凡例>
- ①神経系
 - ②眼科系
 - ③耳鼻咽喉科系
 - ④呼吸器系
 - ⑤循環器系
 - ⑥消化器系
 - ⑦筋骨格系
 - ⑧皮膚系
 - ⑨乳房系
 - ⑩内分泌系
 - ⑪腎尿路系
 - ⑫女性生殖器官系
 - ⑬血液系
 - ⑭新生児系
 - ⑮小児系
 - ⑯外傷系
 - ⑰精神系
 - ⑱その他

- 需要ピーク時（2035年）の需要規模（疾病別患者数）と、2015年から2035年の増減率の関係は下図のとおり。

【パターンA】



【パターンB】



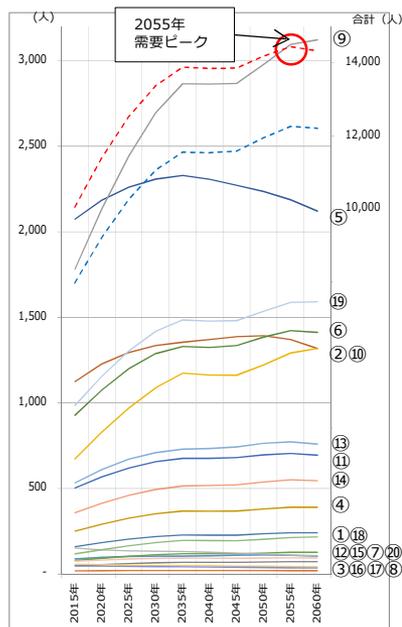
考察

- 急性期の入院患者において、今後豊能医療圏で増加率が高く、かつ患者数が多いと予測される疾病区分
 消化器系 呼吸器系 循環器系 腎尿路系 外傷系 神経系 眼科系
- 急性期の入院患者において、今後豊能医療圏で減少することが予測される疾病区分
 新生児系 女性生殖器官系 乳房系

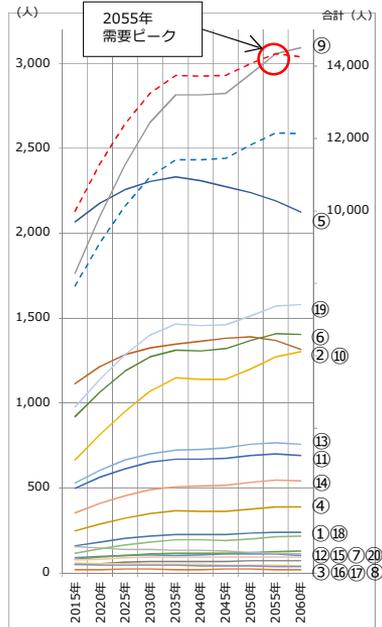
（2）ICDデータによる入院患者数予測

- ICDデータ（入院のみ）における、2015年から2060年の疾病別患者推計は下図のとおり。
- 慢性期や回復期も含めた全入院患者を対象としたICDデータにおいて、疾病別患者数の合計が最も多くなる時期（需要ピーク時）は、パターンA・Bともに2055年

【パターンA】



【パターンB】

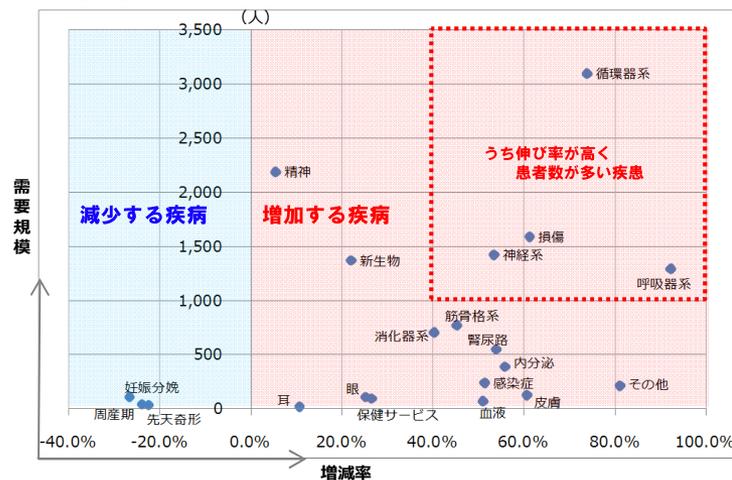


<凡例>

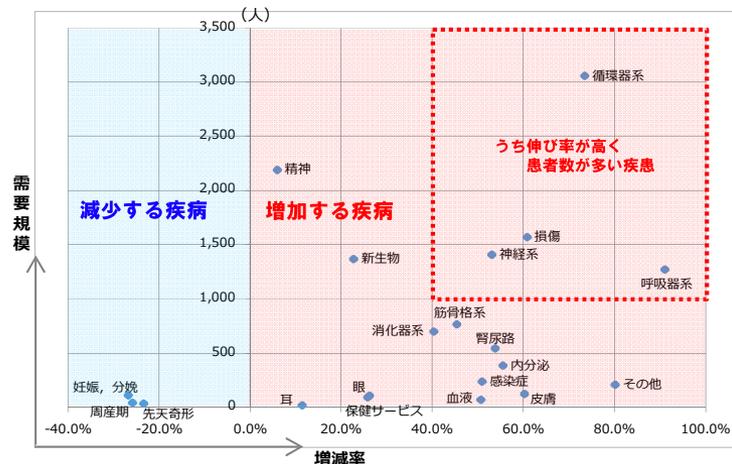
- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| ① 感染症及び寄生虫症 | ⑬ 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| ② 新生物 | ⑭ 腎尿路生殖器系の疾患 |
| ③ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | ⑮ 妊娠、分娩及び産じょく |
| ④ 内分泌、栄養及び代謝疾患 | ⑯ 周産期に発生した病態 |
| ⑤ 精神及び行動の障害 | ⑰ 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| ⑥ 神経系の疾患 | ⑱ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| ⑦ 眼及び付属器の疾患 | ⑲ 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| ⑧ 耳及び乳様突起の疾患 | ⑳ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| ⑨ 循環器系の疾患 | ① 合計(右軸) |
| ⑩ 呼吸器系の疾患 | ① 合計(精神疾患以外)(右軸) |
| ⑪ 消化器系の疾患 | |
| ⑫ 皮膚及び皮下組織の疾患 | |

- 需要ピーク時（2055年）の需要規模（疾病別患者数）と、2015年から2055年の増減率の関係は下図のとおり。

【パターンA】



【パターンB】



考察

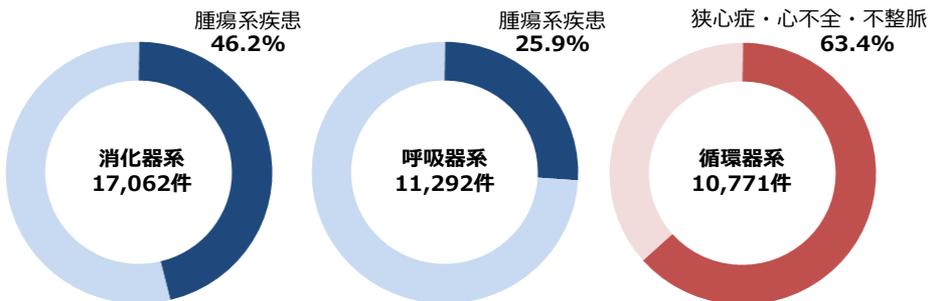
- 慢性期や回復期も含めた全入院患者において、今後豊能医療圏で増加率が高く、かつ患者数が多いと予測される疾病区分
循環器系 呼吸器系 損傷 神経系
- 慢性期や回復期も含めた全入院患者において、今後豊能医療圏で減少することが予測される疾病区分
周産期 先天奇形 妊娠分娩

（3）豊能医療圏における疾病別患者数の現状について

- 豊能医療圏における疾病別患者数の現状を、DPCデータを基に分析すると、下表のとおり。（大分類別でみた場合の疾病区分上位3位までを赤囲み（ピンク色部分）で表示）

	件数	割合		件数	割合
消化器系	17,062	21.3%	内分泌系	2,440	3.0%
呼吸器系	11,292	14.1%	筋骨格系	2,058	2.6%
循環器系	10,771	13.4%	耳鼻咽喉科系	2,002	2.5%
腎尿路系	6,210	7.7%	血液系	1,680	2.1%
眼科系	5,553	6.9%	乳房系	1,342	1.7%
神経系	5,496	6.9%	小児系	1,248	1.6%
女性生殖器系	4,290	5.3%	その他	1,203	1.5%
外傷系	4,238	5.3%	皮膚系	725	0.9%
新生児系	2,577	3.2%	精神系	45	0.1%
			計	80,232	100.0%

- 豊能医療圏では、**消化器系・呼吸器系・循環器系**の患者が全体の約半数を占めている。また、それらの疾病は、医療需要推計でも、今後豊能医療圏での増加率が高い疾病としても挙げられている。
- DPC大分類別疾病の上位3分類中、さらに中分類内訳において分析すると、下図のような傾向がみられる。
- 疾病区分別患者数の割合が全体の約半数を占める3疾病のうち、消化器系の約5割、呼吸器系の約3割は**腫瘍系疾患**、循環器系の約6割は**狭心症・心不全・不整脈**が占める。



3. 医療需要（将来推計）のまとめ

「1.将来人口推計」と「2.将来医療需要推計と現状分析」の結果より、以下のとおり考察を行った。

- 豊能医療圏における将来人口の総数は、2020年にピークを迎える。一方で、高齢化率はその後も伸び続け、2055年にピークを迎える。なお、高齢者数のピークは、パターンAで2045年、パターンBで2050年となる。
- 豊能医療圏における患者数予測は下表のとおり。

	急性期入院患者 (DPCデータ)	全入院患者 (ICDデータ)
需要ピーク	2035年	2055年
今後豊能医療圏での増加率が高いと予測され、かつ患者数が多い疾病区分	<ul style="list-style-type: none"> ■消化器系 ■呼吸器系 ■循環器系 ■腎尿路系 ■眼科系 ■神経系 ■外傷系 	<ul style="list-style-type: none"> ■循環器系 ■呼吸器系 ■損傷 ■神経系
今後豊能医療圏で減少することが予測される疾病区分	<ul style="list-style-type: none"> ■新生児系 ■女性生殖器系 ■乳房系 	<ul style="list-style-type: none"> ■周産期 ■先天奇形 ■妊娠分娩

- 急性期の入院患者（DPCデータ）において、豊能医療圏における入院患者の内、全体の約半数を消化器系・呼吸器系・循環器系が占める。そのうち、消化器系の約5割、呼吸器系の約3割は腫瘍系疾患、循環器系の約6割が狭心症・心不全・不整脈が占める。
- 入院需要推計において、予測対象としている患者層は、DPC疾病区分は主に急性期患者、ICD疾病区分は慢性期等を含めた全患者と異なるものである。そのため、特に急性期領域を中心とした検討を行う際はDPC疾病区分による推計を活用する方が、より実態に近いものになる。

調査概要

地域環境を整理するに当たり、下記の流れで分析を実施する。

第1項：地域医療機関の立地状況

- 1. 豊能医療圏における病院の整備状況並びに立地状況について整理する。

第2項：豊能医療圏の病床稼働状況

- 2. 豊能医療圏における病床の整備状況並びに将来的な病床数計画について整理する。

第3項：患者受療状況

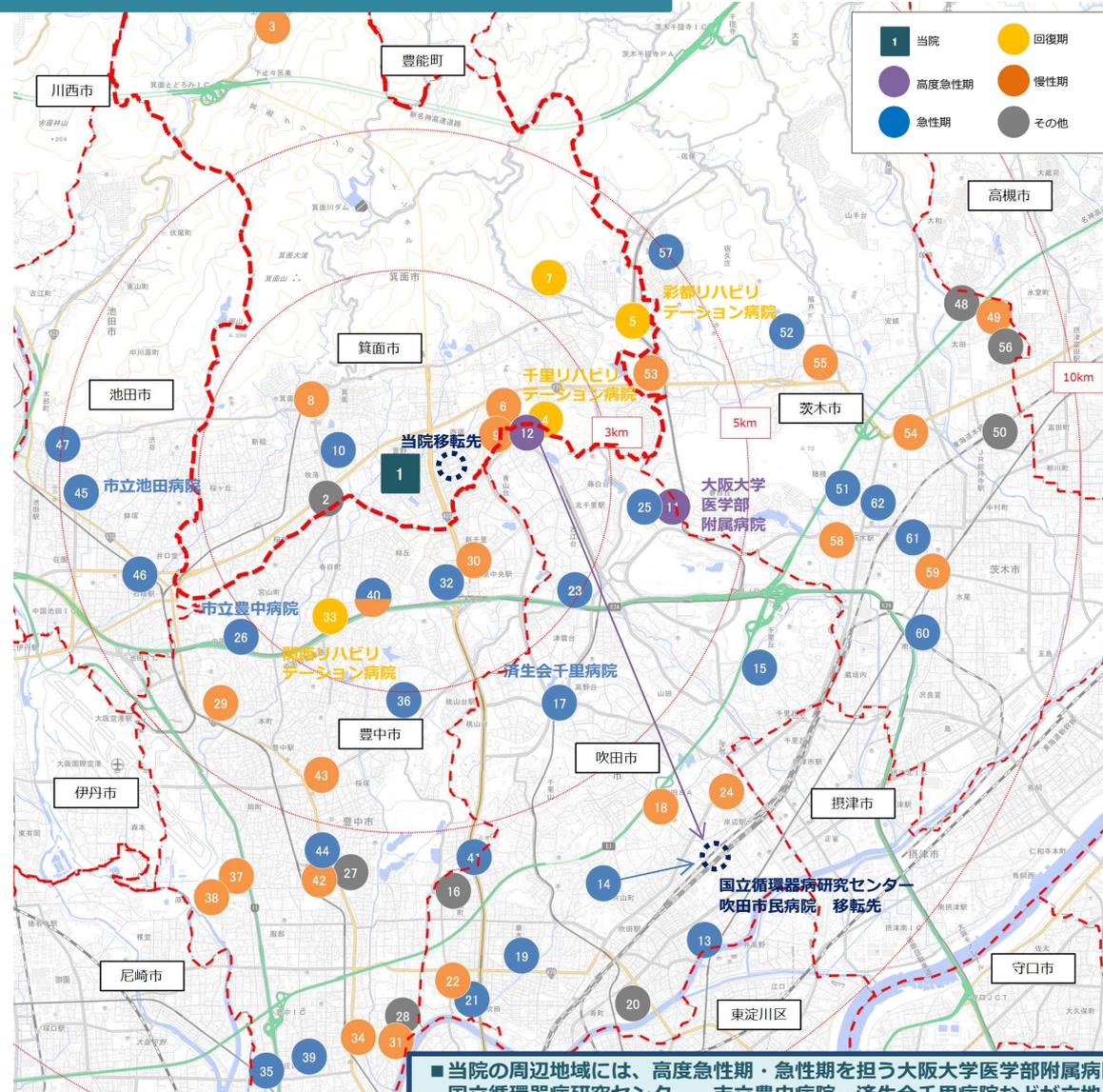
- 3. 地域における患者受療状況を整理する。
※患者の受療状況を把握するために活用できるデータは下記の2つがあり、それぞれの観点から整理を行う。
 - ① DPCデータ（疾病区分：DPC疾病区分）
地域内各医療機関における対応患者数を整理
 - ② 箕面市国民健康保険データ・後期高齢者保険データ
（疾病区分：ICD疾病区分）
箕面市在住患者の受療先医療機関の選択状況を整理

第4項：豊能医療圏の医療機能等の状況

- 4. 豊能医療圏における特筆すべき医療機能についての概論を整理する。
 - ① 施設基準取得状況
 - ② がん診療実施状況
 - ③ 救急診療実施状況
 - ④ 回復期リハビリテーション実施状況
 - ⑤ 高額医療機器導入状況

(1) 豊能医療圏 医療機関立地状況

* マップ内プロットの色は、機能別病床数が最も大きい領域の色を採用している。



- 当院の周辺地域には、高度急性期・急性期を担う大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センター、市立豊中病院・済生会千里病院などが立地
- 回復期リハビリ病棟を有する病院として、関西リハビリテーション病院・彩都リハビリテーション病院・千里リハビリテーション病院などが立地
- 当院は、箕面市内において200床以上を有する唯一の急性期病院として、地域の急性期医療を支える重要な役割を担っている。

<出典> 厚生労働省 2016年度「大阪府病床機能報告」

病院名	許可病床数 (床)					
	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他
箕面市	317	13	254	50		345
吹田市	4,661	1,719	1,754	167	525	496
豊中市	4,074	38	1,115	544	1,249	1,128
池田市	501	2	499	0	0	0
茨木市	3,458	4	1,250	250	788	1,166
豊能医療圏 (+茨木市) 計	14,216	1,776	4,903	1,396	3,006	3,135

(1) 豊能医療圏 病床数と将来構想

<注釈> 「基準病床数」・地域医療構想内での「必要病床数」の違いについて
各都道府県医療計画および地域医療構想において、医療圏・圏域ごとの病床数について下記の内容が言及されている。
* 基準病床数：病床の地域的偏在を是正し、全国的に一定水準以上の医療を確保するために設けられ、各都道府県医療計画内で記載される。「既存病床数」が「基準病床数」を超える地域（病床過剰地域）では、都道府県は病院開設・増床を許可しないことができる。
* 必要病床数：地域における病床の機能の分化及び連携を推進するために設けられ、各都道府県地域医療構想内で記載される。現在の医療需要と将来の推計人口から、将来的な医療需要を病床の機能区分ごとに推計し、当該地域の将来的な医療体制のあり姿を示す目安となるものである。

医療計画における一般病床及び療養病床の基準病床数と既存病床数との比較

	基準病床数 (①)	既存病床数 (②)	過剰病床数 (②-①)
豊能医療圏	6,711床	9,194床	2,483床

<出典> 大阪府「第7次大阪府保健医療計画」
* 既存病床数：2017年6月30日時点

地域医療構想における構想区域必要病床数と既存病床数との比較

(床)

病床機能	必要病床数				病床機能報告 ⑤2016年	2025年へ向けた 病床増減数 ①-⑤	2030年へ向けた 病床増減数 ②-⑤	2035年へ向けた 病床増減数 ③-⑤	2040年へ向けた 病床増減数 ④-⑤
	①2025年	②2030年	③2035年	④2040年					
高度急性期	1,436	1,454	1,442	1,425	1,775	-339	-321	-333	-350
急性期	4,044	4,198	4,189	4,146	3,990	54	208	199	156
回復期	3,577	3,758	3,760	3,726	966	2,611	2,792	2,794	2,760
慢性期	2,421	2,631	2,631	2,585	2,057	364	574	574	528
合計	11,478	12,041	12,022	11,882	8,788	2,690	3,253	3,234	3,094

<出典> 大阪府「第7次大阪府保健医療計画」

■ 豊能医療圏は、基準病床数が既存病床数を下回っており、病床許可基準上は「病床過剰地域」の位置づけである。そのため、現状当院の許可病床数317床を超えて新病院整備が可能かどうかについては、大阪府との十分な協議が必要である。

■ 一方、地域医療構想における必要病床数推計内容からは、下記の内容が考察される。

- 高度急性期病床は今後約350床程度過剰となる。
- 急性期・回復期・慢性期の病床は不足しており、特に回復期病床は約2,500床以上不足と予測される。

■ 今後、新病院病床数および病床機能を検討するにあたり、地域医療構想で述べられている機能別推計内容を踏まえつつ、大阪府との協議を進めながら検討を進めていく必要がある。

(1) (DPC疾病区分) 豊能医療圏各医療機関患者数

豊能医療圏の各病院が、疾病ごとにどの程度の実患者数に対応しているかを整理している。疾病領域ごとに病院間の患者数シェアを見ることで、地域における当該病院の強み・特徴等を大まかに確認することができる。

	全体 件数	箕面市 立病院	シェア	大阪大 学医学 部附属 病院	国立循 環器病 研究セ ンター	済生会 吹田病 院	吹田市 民病院	吹田徳 洲会病 院	済生会 千里病 院	協和会 病院	井上病 院	市立豊 中病院	刀根山 病院	関西メ ディカ ル病院	大阪脳 神経外 科病院	豊中 緑ヶ丘 病院	豊中若 葉会病 院	上田病 院	市立池 田病院	巽病院	池田回 生病院	ガラシ ア病院
許可病床数(床)	6,242	317	5.1%	1,024	604	500	431	365	343	301	127	599	410	225	122	60	115	94	366	75	60	104
01 神経系	5,496	119	2.2%	966	2,028	295	182	274	98	-	-	647	-	29	722	-	-	-	115	11	10	-
02 眼科系	5,553	994	17.9%	2,080	-	571	366	-	-	-	39	820	-	338	-	-	-	-	345	-	-	-
03 耳鼻咽喉科系	2,002	138	6.9%	657	109	171	232	58	30	-	-	170	35	89	30	-	-	10	191	82	-	-
04 呼吸器系	11,292	1,081	9.6%	778	689	1,825	1,341	345	779	26	148	1,552	864	441	-	37	55	87	1,086	92	66	-
05 循環器系	10,771	51	0.5%	1,713	4,747	517	359	663	975	-	151	963	-	61	-	-	-	31	361	179	-	-
06 消化器系	17,062	1,684	9.9%	2,414	31	2,014	1,458	470	2,330	33	33	3,074	-	320	-	451	10	246	2,343	104	47	-
07 筋骨格系	2,058	43	2.1%	804	50	174	89	-	186	143	15	248	-	54	33	-	-	12	196	11	-	-
08 皮膚系	725	157	21.7%	98	-	93	48	13	27	-	10	116	-	25	-	-	-	-	125	-	13	-
09 乳房系	1,342	28	2.1%	573	-	47	66	10	198	-	-	112	-	129	-	-	-	-	179	-	-	-
10 内分泌系	2,440	139	5.7%	842	258	133	171	28	113	-	12	374	-	23	-	-	-	-	347	-	-	-
11 腎尿路系	6,210	722	11.6%	920	87	815	394	213	514	-	394	1,250	-	117	-	-	13	36	669	48	18	-
12 女性生殖系	4,290	334	7.8%	1,315	119	500	186	339	615	-	-	733	-	-	-	-	-	-	149	-	-	-
13 血液系	1,680	156	9.3%	265	-	28	223	12	27	13	-	469	-	15	-	-	-	-	472	-	-	-
14 新生児系	2,577	102	4.0%	730	941	380	26	38	107	-	-	150	-	-	-	-	-	-	103	-	-	-
15 小児系	1,248	221	17.7%	17	10	197	166	45	78	-	10	257	-	57	-	21	13	31	125	-	-	-
16 外傷系	4,238	212	5.0%	212	79	544	374	63	826	40	-	483	-	405	267	13	73	42	175	405	25	-
17 精神系	45	-	0.0%	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18 その他	1,203	90	7.5%	398	73	56	110	-	106	-	60	122	-	22	12	-	-	-	144	10	-	-
全体	80,232	6,271	7.8%	14,827	9,221	8,360	5,791	2,571	7,009	255	872	11,540	899	2,125	1,064	522	164	495	7,125	942	179	0

15%超 5%超15%以下 5%以下

<出典>2016年度DPC導入の影響に係る調査「退院患者調査」のうち、参考資料2(8)(9)(10)から抽出できる患者数を合計して算出

豊能医療圏内における当院の患者数シェア状況を整理している。
その中で考察される主な特徴は下記のとおり

- 当院の豊能医療圏内DPCデータ提出病院内における全体シェアは7.8%
- 当院が比較的患者数シェアを有している診療領域(15%超)
 - ▶ 眼科系 皮膚系 小児系
- 当院が一定程度患者数シェアを有している診療領域(5%超 15%以下)
 - ▶ 耳鼻咽喉科系 呼吸器系 消化器系 内分泌系 腎尿路系 女性生殖系 血液系
その他
- 当院シェアが低い診療領域(5%以下)
 - ▶ 神経系 循環器系 筋骨格系 乳房系 新生児系 外傷系 精神系

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (データ説明)

地域の患者受療動向を把握するための別の手法として、箕面市国民健康保険・後期高齢者医療保険のデータを確認することで、箕面市在住患者がどの医療機関を受診しているかを把握することができる。前ページまでの整理は、箕面市在住者以外も含めて、各医療機関がどの程度の患者に対応しているかを把握していたが、本データを使用することで、箕面市在住者の動向に限定して状況を把握することができる。

ただし、データの性質上、疾病区分はICD疾病区分であること、国民健康保険・後期高齢者医療保険以外に加入している住民の動向は抽出できないことが、制約条件である。

国民健康保険加入患者 (入院・外来患者)

- **対象** 箕面市の住民であり、国保加入者（0歳以上75歳未満）
- **集計期間**： 2016年4月～2017年9月の計18ヶ月間
- **内容**： 箕面市在住の国保加入患者がどのような医療機関を受診しているのか、下記項目の算出
 箕面市の町別分析：①受診件数・②人口に対する箕面市立病院の受診率
 ICD疾患別分析：①受診件数・②疾病ごとの受診総件数に対する箕面市立病院の受診率
- **留意事項**： 元データに患者の個別IDがなく、且つ同一患者において月をまたぐごとにレセプトが追加で発行される。
 ⇒同一患者における重複データの発生
 ※補正方法
 1. 独自の患者IDを作成（患者住所の郵便番号＋入院年月日＋医療機関番号）
 2. 作成した患者IDをベースとして、同一IDの患者は同一人物と考え、表を再集計
 3. 受診件数は、患者IDを集計しているため、「実患者数（人）」を表している。

後期高齢者医療保険加入患者 (入院・外来患者)

- **対象** 箕面市の住民であり、後期高齢者保険加入者（75歳以上）
- **集計期間**： 2016年4月～2017年9月の計18ヶ月間
- **内容**： 箕面市在住の後期高齢者医療保健加入者がどのような医療機関を受診しているのか、下記項目の算出
 箕面市の町別分析：①受診件数・②人口に対する箕面市立病院の受診率
 ICD疾患別分析：①受診件数・②疾患ごとの受診総件数に対する箕面市立病院の受診率
- **留意事項**： 元データに患者の個別IDがなく、且つ同一患者において月をまたぐごとにレセプトが追加で発行される。
 ⇒同一患者における重複データの発生
 ※補正方法
 1. 独自の患者IDを作成（患者住所の郵便番号＋医療機関番号＋疾患コード）
 2. 作成した患者IDをベースとして、同一IDの患者は同一人物と考え、表を再集計
 3. 受診件数は、患者IDを集計しているため、「実患者数（人）」を表している。

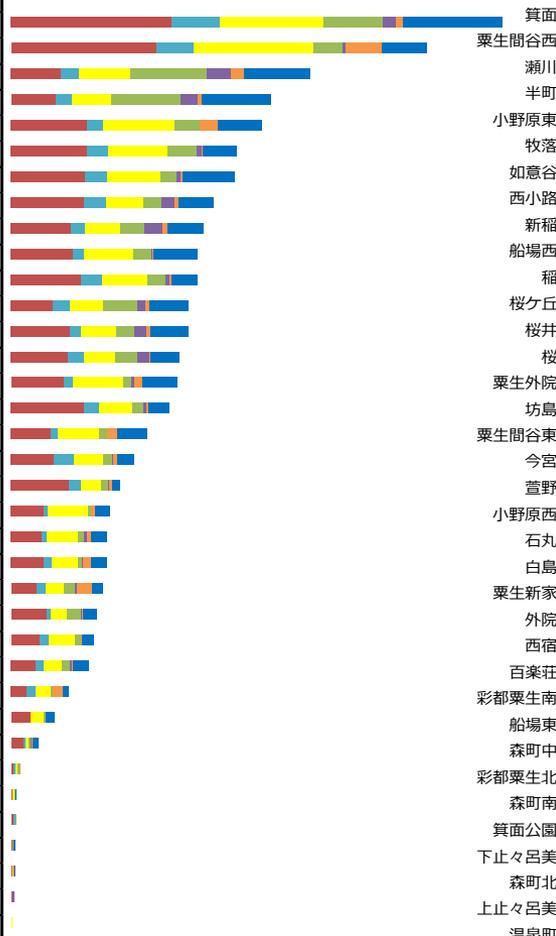
*なお、データ入手が困難であるため、本報告においては社会保険加入者に対する分析は行っていない。
 *外来患者のデータ分析の際には、診療所・薬局・整形外科等の医療機関も含まれる。

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (入院・国保・町別)

町	町人口	市立病院 箕面	他医療機関 箕面市内	豊能医療圏内 箕面市外			豊能医療圏外 茨木市	その他豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市			
箕面市全域	136,658	1,759	465	1,279	624	173	197	981	5,478
箕面	11,228	178	54	115	66	15	7	110	545
粟生間谷西	8,105	162	41	133	32	3	41	50	462
瀬川	7,468	55	20	58	85	26	15	73	332
半町	6,343	50	18	43	77	19	5	76	288
小野原東	9,183	85	17	80	27	0	20	49	278
牧落	6,115	85	23	66	32	6	1	37	250
如意谷	5,621	82	24	60	18	4	2	58	248
西小路	4,176	81	24	42	20	15	4	39	225
新稲	6,362	67	15	39	27	20	6	40	214
船場西	5,598	69	12	55	20	1	1	49	207
稲	5,598	78	23	50	21	4	2	28	206
桜ヶ丘	5,317	65	12	39	21	13	5	42	197
桜井	4,376	46	19	38	37	9	5	43	197
桜	4,278	63	18	35	24	13	2	32	187
粟生外院	5,058	59	10	55	9	4	9	39	185
坊島	4,177	81	17	36	13	3	2	23	175
粟生間谷東	3,658	44	8	45	10	0	11	33	151
今宮	3,322	47	23	33	9	1	4	19	136
萱野	2,376	64	14	22	8	1	3	8	120
小野原西	4,447	36	5	44	4	0	5	16	110
石丸	2,029	37	8	29	5	1	8	18	106
白島	1,954	34	6	34	7	3	5	17	106
粟生新家	3,188	29	10	20	12	2	17	12	102
外院	2,499	40	4	18	15	2	1	15	95
西宿	2,139	32	10	29	6	0	2	13	92
百楽荘	1,458	27	9	21	8	2	1	18	86
彩都粟生南	5,481	17	11	16	2	0	11	6	63
船場東	1,197	22	0	14	2	1	0	9	48
森町中	2,117	14	2	4	2	1	1	6	30
彩都粟生北	300	3	2	2	2	0	1	0	10
森町南	546	3	2	0	1	0	0	0	6
箕面公園	27	1	1	2	1	0	0	1	6
下止々呂美	231	1	1	1	0	2	0	0	5
森町北	318	1	1	0	1	0	0	2	5
上止々呂美	115	1	1	0	0	2	0	0	4
温泉町	253	0	0	1	0	0	0	0	1

町別
医療機関受診患者数 (人)

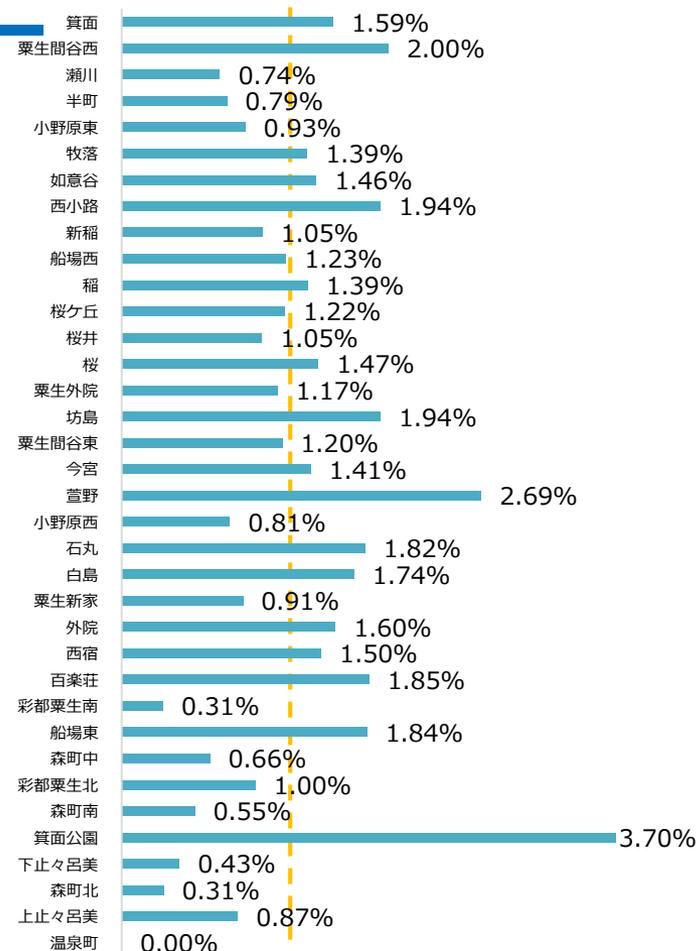
*色の内訳：左表に対応



--- : 箕面市内全域の箕面市立病院シェア比率 (1.29%)
表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙

町別
箕面市立病院受診患者数の
箕面市内人口に対する比率 (%)

* 箕面市立病院受診患者数(人) / 該当町内人口 (%)



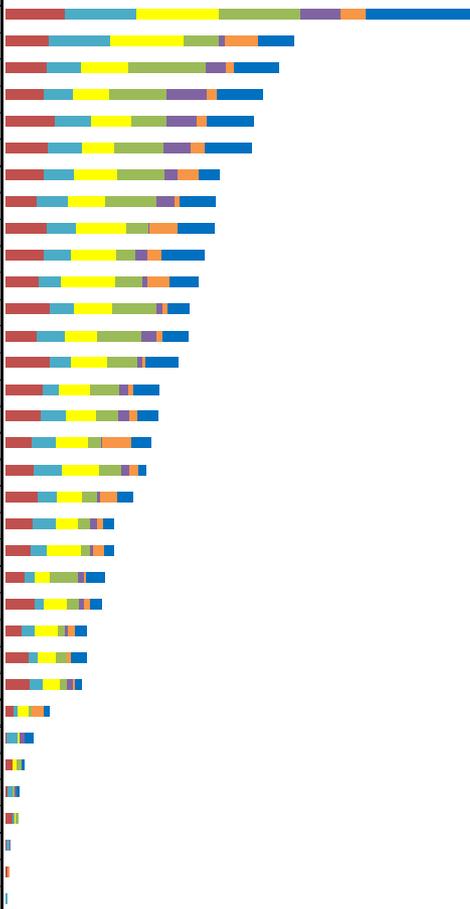
患者居住地別に受診医療機関(地域)を整理しており、そこから考察される主な特徴は下記のとおり
 ■患者数が比較的多い地域である「瀬川」や「半町」のシェア率が著しく低い。
 (立地場所として、箕面市立病院より市立豊中病院の方が近いため、患者流出傾向が強いことが予測される)

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (入院・後期高齢者・町別)

町	町人口	市立病院 箕面	他医療機関 箕面市内	豊能医療圏内 医療機関			豊能医療圏外 医療機関	その他豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市			
箕面市全域	136,658	852	655	896	755	286	296	705	4,445
箕面	11,228	55	65	76	75	37	23	101	432
粟生間谷西	8,105	40	56	68	32	6	30	33	265
半町	6,343	38	31	44	71	19	7	41	251
瀬川	7,468	35	27	33	53	37	9	42	236
新稲	6,362	45	34	36	33	28	9	43	228
桜ヶ丘	5,317	39	31	30	45	25	13	43	226
牧落	6,115	35	28	40	43	12	19	19	196
桜井	4,376	29	28	34	48	16	5	33	193
小野原東	9,183	38	27	46	20	1	26	34	192
如意谷	5,621	35	25	42	17	12	12	39	182
粟生外院	5,058	30	21	50	25	4	21	26	177
稲	5,598	41	22	35	41	5	5	20	169
桜	4,278	29	26	29	40	15	5	24	168
船場西	5,598	41	19	34	27	5	3	30	159
坊島	4,177	34	15	29	26	9	4	24	141
西小路	4,176	32	24	27	20	11	7	19	140
粟生間谷東	3,658	24	22	30	12	1	27	18	134
今宮	3,322	26	26	34	20	8	8	7	129
粟生新家	3,188	30	17	24	13	3	16	14	117
白島	1,954	25	21	20	12	6	6	10	100
小野原西	4,447	23	15	31	9	2	10	9	99
百楽荘	1,458	17	10	14	26	5	2	17	91
西宿	2,139	27	8	21	12	4	5	11	88
外院	2,499	15	12	21	7	2	7	11	75
石丸	2,029	21	9	16	11	0	3	14	74
萱野	2,376	22	12	16	6	6	2	6	70
彩都粟生南	5,481	7	4	10	3	0	11	5	40
下止々呂美	231	1	10	2	0	4	0	8	25
船場東	1,197	6	1	3	5	0	0	2	17
上止々呂美	115	2	5	0	1	2	0	2	12
森町中	2,117	7	1	1	2	0	0	0	11
箕面公園	27	1	2	0	0	1	0	0	4
温泉町	253	2	0	0	0	0	1	0	3
森町北	318	0	1	0	0	0	0	0	1

町別
医療機関受診患者数 (人)

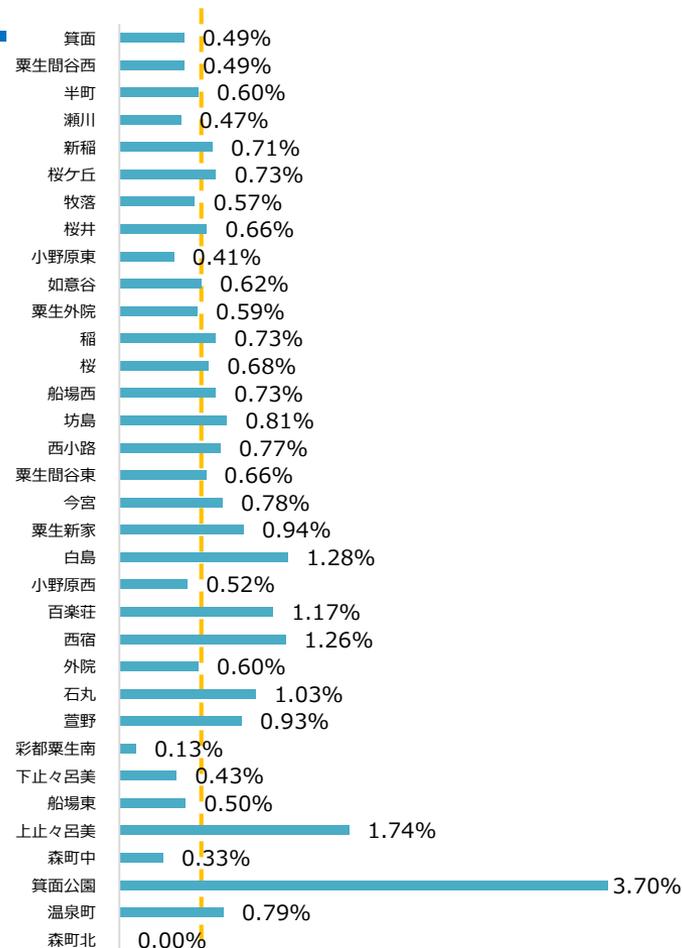
*色の内訳：左表に対応



--- : 箕面市内全域の箕面市立病院シェア比率 (0.63%)
表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙

町別
箕面市立病院受診患者数の
箕面市内人口に対する比率 (%)

*箕面市立病院受診患者数(人) / 該当町内人口 (%)



患者居住地別に受診医療機関 (地域) を整理しており、そこから考察される主な特徴は下記のとおり
 ■前頁の国保患者に比べ、全体的に当院受診シェア率が低い。
 また、患者数が多い地域(箕面、粟生間谷西等)の当院受診シェア率が平均値よりも低い。

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (入院・国保・疾病別)

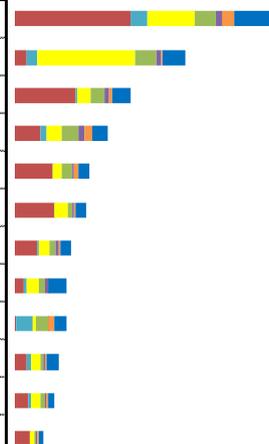
*町名データあり・疾患名データなしのデータが存在しているため、P.28の合計値とは一致しない。

---: 全疾患における箕面市立病院シェア比率 (33.9%)
表: 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙

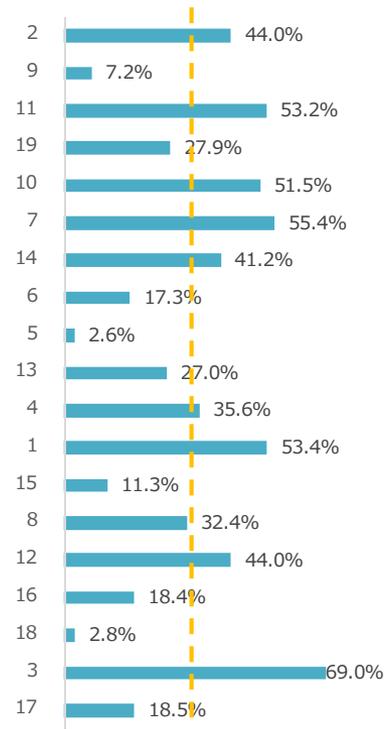
章番号	ICD疾患 (大分類)	市立病院 箕面	他医療機関 箕面市内	豊能医療圏内 医療機関			豊能医療圏外 医療機関	その他豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市			
	全疾患合計	1,748	374	1,167	588	162	193	899	5,131
2	新生物	518	78	215	95	28	49	194	1,177
9	循環器系の疾患	55	52	435	95	18	10	102	767
11	消化器系の疾患	276	5	62	65	20	9	82	519
19	損傷, 中毒及びその他の外因の影響	117	26	68	76	30	30	72	419
10	呼吸器系の疾患	172	1	41	49	8	19	44	334
7	眼及び付属器の疾患	180	1	58	25	3	11	47	325
14	腎尿路生殖器系の疾患	106	6	47	27	14	10	47	257
6	神経系の疾患	41	14	57	25	12	5	83	237
5	精神及び行動の障害	6	75	14	58	1	22	55	231
13	筋骨格系及び結合組織の疾患	54	22	40	18	6	8	52	200
4	内分泌, 栄養及び代謝疾患	64	10	46	16	6	8	30	180
1	感染症及び寄生虫症	70	1	22	3	6	6	23	131
15	妊娠, 分娩及び産じょく	12	68	10	6	0	0	10	106
8	耳及び乳様突起の疾患	22	0	16	16	3	1	10	68
12	皮膚及び皮下組織の疾患	22	1	9	1	5	1	11	50
16	周産期に発生した病態	7	13	4	4	0	0	10	38
18	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	1	1	6	1	4	22	36
3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	20	0	6	1	1	0	1	29
17	先天奇形	5	0	16	2	0	0	4	27

ICD疾患別
医療機関受診患者数 (人)

*色の内訳: 左表に対応

ICD疾患別
箕面市立病院受診患者数の疾患別
受診総件数に対する比率 (%)

*箕面市立病院受診患者数(人) / 疾患別受診総患者数(人)



疾患ごとに受診医療機関 (地域) を整理している。

うち患者数が多い上位10疾患について、考察される主な特徴は下記のとおり

■ 当院を受診する割合が高いのは 新生物・消化器系・呼吸器系・眼科系・腎尿路系

■ 当院を受診する割合が低いのは 循環器系・神経系・筋骨格系

循環器系については、受診先として多くの割合を占めているのは吹田市、神経系については、受診先として多くの割合を占めているのは豊能医療圏外である。

■ 特に患者数が多い循環器系の市外受診先は、国立循環器病研究センター (43.2%)、大阪大学医学部附属病院 (6.9%) 関西リハビリテーション病院 (7.2%) 市立豊中病院 (6.6%) が上位であり、特に国立循環器病研究センターへの受診比率が高い傾向がみられる。

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (入院・後期高齢者・疾病別)

* 町名データあり・疾患名データなしのデータが存在しているため、P.29の合計値とは一致しない。

----- : 全疾患における箕面市立病院シェア比率 (19.2%)
表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙

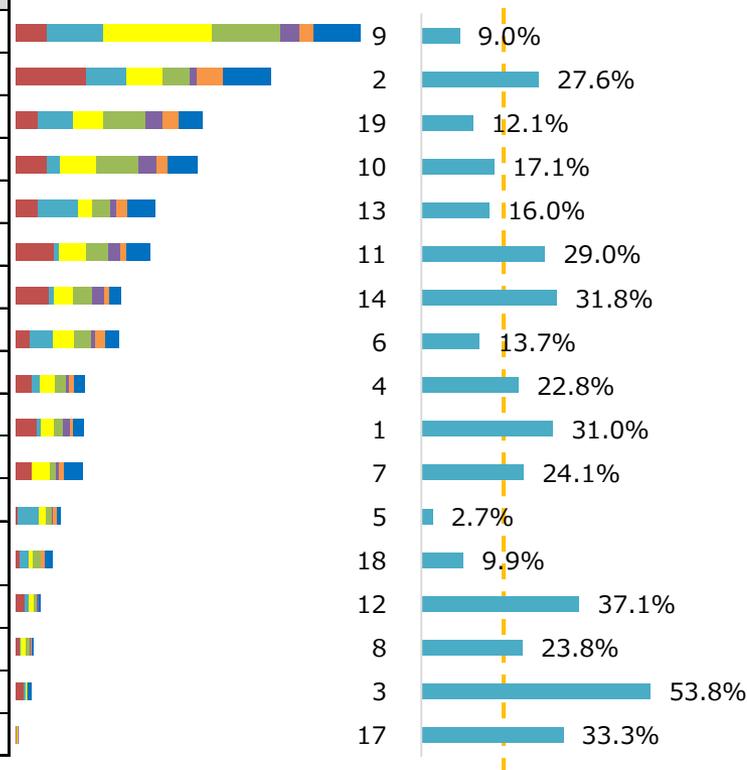
章番号	ICD疾患 (大分類)	市立病院	箕面市内 他医療機関	豊能医療圏内 豊能医療圏外			豊能医療圏外 医療機関	その他豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市			
	全疾患合計	852	655	896	755	286	296	704	4,444
9	循環器系の疾患	77	139	269	170	47	34	117	853
2	新生物	174	99	91	65	20	64	117	630
19	損傷、中毒及びその他の外因の影響	56	85	76	104	44	38	60	463
10	呼吸器系の疾患	77	34	88	105	45	27	74	450
13	筋骨格系及び結合組織の疾患	55	100	33	46	14	27	69	344
11	消化器系の疾患	96	10	67	56	30	14	58	331
14	腎尿路生殖器系の疾患	83	11	48	47	30	13	29	261
6	神経系の疾患	35	56	53	43	11	23	34	255
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	39	21	36	27	9	12	27	171
1	感染症及び寄生虫症	52	9	33	22	19	6	27	168
7	眼及び付属器の疾患	40	0	44	16	6	14	46	166
5	精神及び行動の障害	3	54	17	16	1	11	10	112
18	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9	23	11	18	1	9	20	91
12	皮膚及び皮下組織の疾患	23	9	12	7	5	1	5	62
8	耳及び乳様突起の疾患	10	2	13	11	1	2	3	42
3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	21	3	2	2	2	1	8	39
17	先天奇形	2	0	3	0	1	0	0	6

ICD疾患別
医療機関受診患者数 (人)

* 色の内訳: 左表に対応

ICD疾患別
箕面市立病院受診患者数の疾患別
受診総件数に対する比率 (%)

* 箕面市立病院受診患者数(人) / 疾患別受診総患者数(人)



疾患ごとに受診医療機関 (地域) を整理している。
うち患者数が多い上位10疾患について、考察される主な特徴は下記のとおり

- 国保患者の傾向と基本的に類似した傾向である。
- 循環器系・呼吸器系の疾患に関して、箕面市内・豊中市・吹田市の他医療機関へ流出している傾向がみられる。

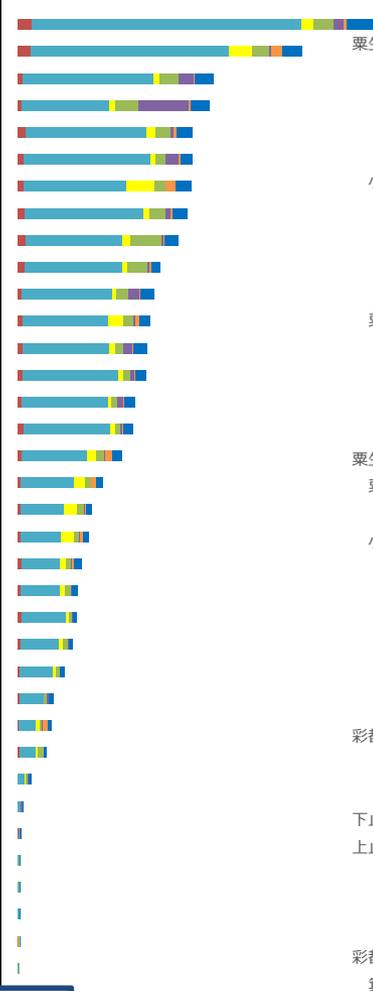
(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (外来・国保・町別)

----- : 箕面市内全域の箕面市立病院シェア比率 (21.7%)
 表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙
 医療機関 : 病院、診療所、薬局、整骨院 等

町	町人口	箕面市立病院	他医療機関 箕面市内	豊能医療圏内 箕面市外					豊能医療圏外 医療機関	その他 豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市	豊能町	能勢町			
箕面市全域	136,658	29,627	510,107	48,040	64,576	32,539	1,019	256	15,974	66,346	768,484
箕面	11,228	3,129	58,351	2,716	4,313	2,273	6	25	651	7,281	78,745
粟生間谷西	8,105	2,735	43,165	5,058	3,595	475	19	1	2,446	4,194	61,688
半町	6,343	1,074	28,460	1,184	4,155	3,347	18	20	197	3,976	42,431
瀬川	7,468	938	18,894	1,306	5,122	10,739	55	32	494	4,087	41,667
如意谷	5,621	1,649	26,311	1,910	3,368	676	7	0	511	3,472	37,904
新稲	6,362	1,278	27,494	1,207	2,090	2,806	0	23	377	2,593	37,868
小野原東	9,183	1,210	22,306	6,236	2,203	154	8	9	2,182	3,395	37,703
牧落	6,115	1,500	25,724	1,255	3,647	1,058	0	20	423	3,030	36,657
船場西	5,598	1,608	21,096	1,881	6,564	350	2	9	420	3,027	34,957
稲	5,598	1,483	21,108	1,190	4,202	625	0	21	441	1,801	30,871
桜井	4,376	796	19,665	862	2,692	2,304	0	2	207	2,964	29,493
粟生外院	5,058	1,056	18,627	3,093	2,389	227	0	0	985	2,416	28,793
桜ヶ丘	5,317	959	18,960	1,145	1,833	1,983	0	38	237	2,933	28,088
西小路	4,176	1,055	20,877	900	1,611	815	0	18	216	2,252	27,744
桜	4,278	925	18,637	741	1,319	1,255	36	0	132	2,292	25,337
坊島	4,177	1,225	18,807	1,009	1,227	500	3	2	161	2,034	24,968
粟生間谷東	3,658	769	14,195	2,148	1,570	248	0	4	1,523	2,051	22,508
粟生新家	3,188	688	11,530	2,429	1,244	121	0	0	861	1,449	18,322
今宮	3,322	698	9,365	2,703	1,647	131	3	0	330	1,159	16,036
小野原西	4,447	509	8,994	2,598	1,293	58	0	0	605	1,249	15,306
石丸	2,029	723	8,409	1,291	1,139	222	0	0	448	1,529	13,761
外院	2,499	664	8,408	1,223	1,146	169	0	0	217	1,227	13,054
萱野	2,376	757	9,803	523	709	146	0	19	85	700	12,742
西宿	2,139	691	8,198	901	1,181	60	6	0	132	851	12,020
白島	1,954	389	7,199	573	832	203	1	0	91	860	10,148
百楽荘	1,458	251	5,225	237	542	418	0	0	107	1,018	7,798
彩都粟生南	5,481	230	3,612	809	580	55	0	0	1,287	794	7,367
船場東	1,197	378	3,472	440	1,358	39	0	11	49	544	6,291
森町中	2,117	143	1,317	215	518	104	452	2	48	570	3,369
下止々呂美	231	40	477	44	100	489	110	0	25	42	1,327
上止々呂美	115	13	229	22	6	389	135	0	13	81	888
森町南	546	15	163	58	177	35	59	0	2	131	640
森町北	318	22	179	67	110	28	99	0	7	125	637
温泉町	253	16	340	26	15	29	0	0	8	94	528
彩都粟生北	300	8	270	21	12	0	0	0	48	119	478
箕面公園	27	3	240	19	67	8	0	0	8	6	351

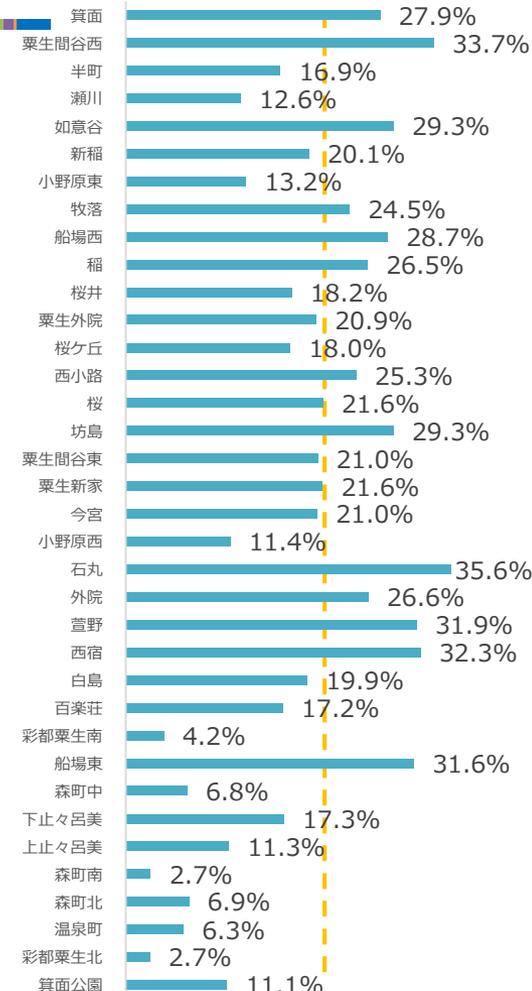
町別
医療機関受診患者数 (人)

* 色の内訳 : 左表に対応



町別
箕面市立病院受診患者数の
箕面市内人口に対する比率 (%)

* 箕面市立病院受診患者数(人) / 該当町内人口 (%)



患者居住地別に受診医療機関(地域)を整理しており、そこから考察される主な特徴は下記のとおり
 ■ 患者数が比較的多い地域である「瀬川」「半町」「小野原東」「小野原西」のシェア率が低い。
 (立地場所として、豊中市や吹田市に近い場所であるため、患者流出傾向が強いことが予測される)

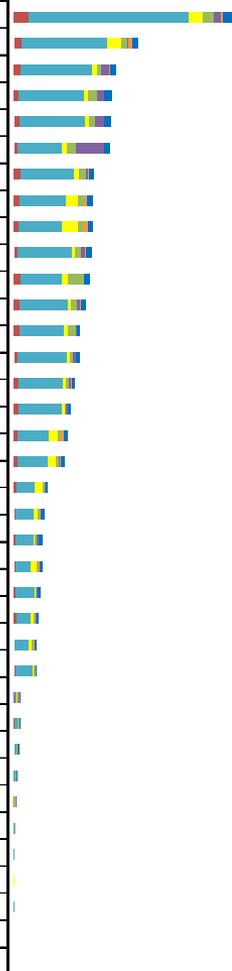
(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (外来・後期高齢者・町別)

----- : 箕面市内全域の箕面市立病院シェア比率 (20.9%)
 表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙
 医療機関 : 病院、診療所、薬局、整骨院 等

町	町人口	箕面市立病院	他 箕面市内 医療機関	箕面市外 医療機関					豊能医療圏外 医療機関	その他 豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市	豊能町	能勢町			
箕面市全域	136,658	28,542	290,281	36,022	34,077	20,527	309	58	6,456	27,980	444,252
箕面	11,228	3,581	39,853	3,231	2,682	1,940	29	0	418	3,756	55,490
粟生間谷西	8,105	2,014	21,083	3,535	1,454	209	20	0	952	1,491	30,758
新稲	6,362	1,691	17,680	1,127	1,139	1,888	0	0	204	1,385	25,114
半町	6,343	1,101	16,373	887	2,192	1,692	7	6	98	1,908	24,264
桜ヶ丘	5,317	1,439	16,212	1,051	1,508	2,048	13	0	165	1,661	24,097
瀬川	7,468	962	11,027	1,001	2,467	6,888	0	0	103	1,361	23,809
如意谷	5,621	1,577	13,352	1,126	1,790	457	5	0	301	1,050	19,658
粟生外院	5,058	1,328	11,512	3,139	1,575	112	0	0	449	1,455	19,570
小野原東	9,183	1,018	10,736	4,162	1,399	61	0	0	905	1,064	19,345
桜井	4,376	946	13,397	829	1,417	1,141	0	0	64	1,315	19,109
船場西	5,598	1,480	10,520	1,487	3,757	113	16	0	151	1,220	18,744
牧落	6,115	1,249	12,177	763	1,546	617	2	12	186	1,129	17,681
稲	5,598	1,385	11,063	942	1,902	274	11	0	83	721	16,381
桜	4,278	934	12,192	683	868	624	0	0	87	909	16,297
西小路	4,176	1,016	11,127	799	792	387	0	0	62	713	14,896
坊島	4,177	1,102	10,616	699	534	270	6	0	37	645	13,909
粟生間谷東	3,658	760	7,917	2,099	888	72	0	0	633	775	13,144
粟生新家	3,188	834	7,556	1,933	909	105	0	0	380	770	12,487
今宮	3,322	645	4,587	1,805	701	63	0	0	79	449	8,329
外院	2,499	491	4,563	765	593	85	0	0	123	815	7,435
百楽荘	1,458	416	4,524	238	606	322	0	0	24	809	6,939
小野原西	4,447	516	3,734	1,367	359	29	0	6	319	537	6,867
白島	1,954	402	4,692	253	379	110	0	0	60	580	6,476
西宿	2,139	579	3,677	541	728	48	0	0	156	352	6,081
石丸	2,029	279	3,452	555	679	24	0	0	84	488	5,561
萱野	2,376	517	4,038	238	249	131	0	0	54	163	5,390
彩都粟生南	5,481	44	440	437	135	38	0	0	260	159	1,513
船場東	1,197	112	648	169	447	2	0	0	4	71	1,453
下止々呂美	231	36	665	42	50	467	64	0	7	67	1,398
上止々呂美	115	26	344	11	62	267	35	34	0	51	830
森町中	2,117	50	224	37	93	18	59	0	6	31	518
森町北	318	3	81	41	156	21	32	0	0	27	361
温泉町	253	7	116	9	14	0	0	0	1	7	154
森町南	546	1	35	17	5	4	10	0	0	27	99
箕面公園	27	1	56	4	2	0	0	0	0	19	82
彩都粟生北	300	0	12	0	0	0	0	0	1	0	13

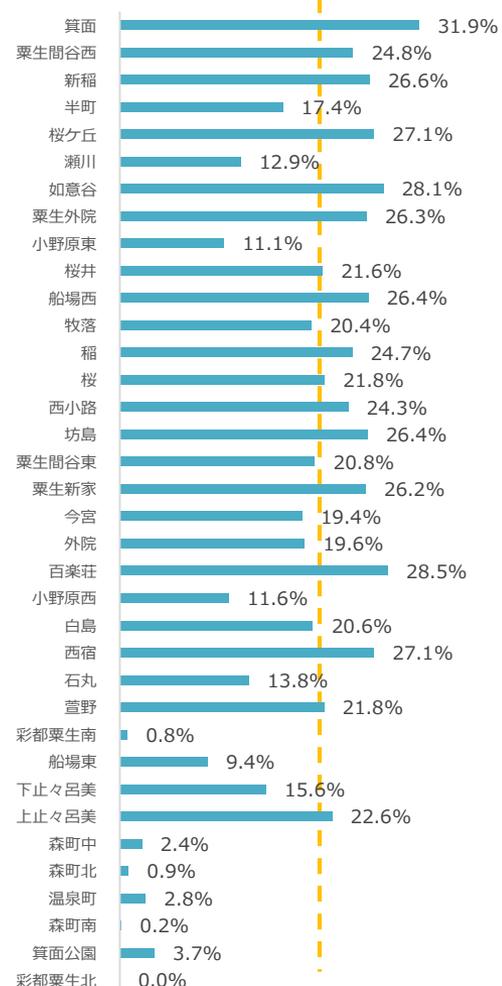
町別
医療機関受診患者数 (人)

*色の内訳：左表に対応



町別
箕面市立病院受診患者数の
箕面市内人口に対する比率 (%)

*箕面市立病院受診患者数(人) / 該当町内人口 (%)



患者居住地別に受診医療機関 (地域) を整理しており、そこから考察される主な特徴は下記のとおり
 ■患者数が比較的多い地域である「瀬川」「半町」「小野原東」「小野原西」のシェア率が低い。
 (立地場所として、豊中市や吹田市に近い場所であるため、患者流出傾向が強いことが予測される)

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (外来・国保・疾病別)

----- : 全疾患における箕面市立病院シェア比率 (6.0%)

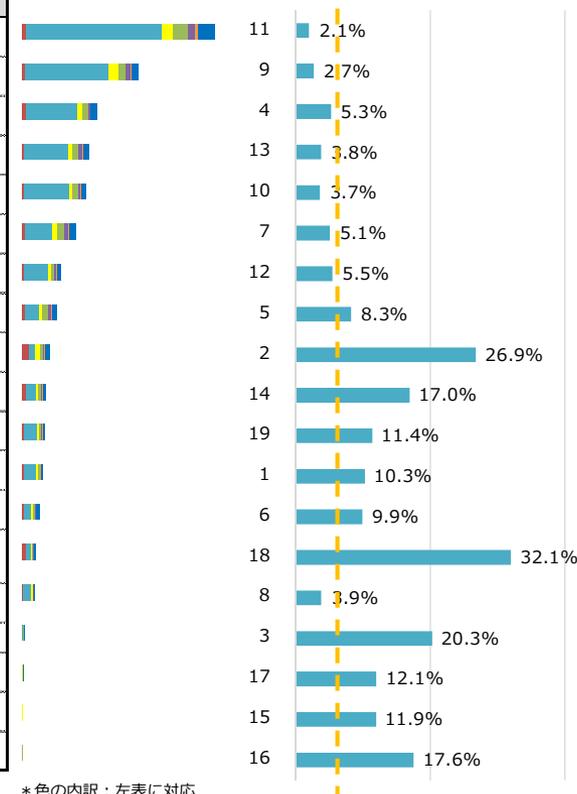
表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙
医療機関: 病院、診療所、薬局、整骨院 等

ICD疾患別 医療機関受診患者数 (人)

章番号	ICD疾患 (大分類)	箕面市立病院	他 箕面市内 医療機関	箕面市外 豊能医療圏内 医療機関					豊能医療圏外 医療機関	その他 豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市	豊能町	能勢町			
	全疾患合計	29,565	303,653	37,799	43,493	21,334	607	197	8,855	44,187	489,690
11	消化器系の疾患	2,535	84,356	7,241	8,975	4,479	187	30	1,982	10,634	120,419
9	循環器系の疾患	1,975	51,934	6,063	4,696	2,713	56	11	1,018	3,957	72,423
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	2,466	31,713	3,370	3,642	1,051	18	9	668	3,780	46,717
13	筋骨格系及び結合組織の疾患	1,592	27,097	2,754	3,582	2,294	27	1	918	3,134	41,399
10	呼吸器系の疾患	1,457	28,178	1,739	3,384	1,574	158	15	489	2,608	39,602
7	眼及び付属器の疾患	1,715	17,205	2,716	4,754	2,427	60	2	462	4,142	33,483
12	皮膚及び皮下組織の疾患	1,334	15,039	1,434	2,485	1,182	3	3	351	2,302	24,133
5	精神及び行動の障害	1,806	8,876	2,216	3,277	1,990	0	1	559	3,027	21,752
2	新生物	4,646	3,510	3,065	2,095	475	0	0	882	2,629	17,302
14	腎尿路生殖器系の疾患	2,464	6,246	1,526	1,616	684	0	1	382	1,613	14,532
19	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,632	7,787	1,223	1,230	741	11	8	504	1,148	14,284
1	感染症及び寄生虫症	1,324	7,538	1,119	1,055	407	8	2	110	1,251	12,814
6	神経系の疾患	1,122	4,661	1,110	1,117	630	49	81	257	2,299	11,326
18	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,681	2,928	775	707	307	3	0	134	829	8,364
8	耳及び乳様突起の疾患	314	5,454	778	546	342	27	0	127	411	7,999
3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	285	474	288	162	22	0	0	4	168	1,403
17	先天奇形	119	213	329	105	16	0	33	7	163	985
15	妊娠、分娩及び産じょく	73	390	38	54	0	0	0	1	55	611
16	周産期に発生した病態	25	54	15	11	0	0	0	0	37	142

ICD疾患別
箕面市立病院受診患者数の疾患別
受診総件数に対する比率 (%)

* 箕面市立病院受診患者数(人) / 疾患別受診総患者数(人)



* 色の内訳: 左表に対応

- 患者数が多い疾患について (消化器系・循環器系・内分泌系等) は、箕面市立病院に対するシェア率は低い傾向にある。
- 新生物、その他分類、血液系などは、箕面市立病院に対するシェア率が高い傾向にある。

(2) (ICD疾病区分) 箕面市在住患者受療動向 (外来・後期高齢者・疾病別)

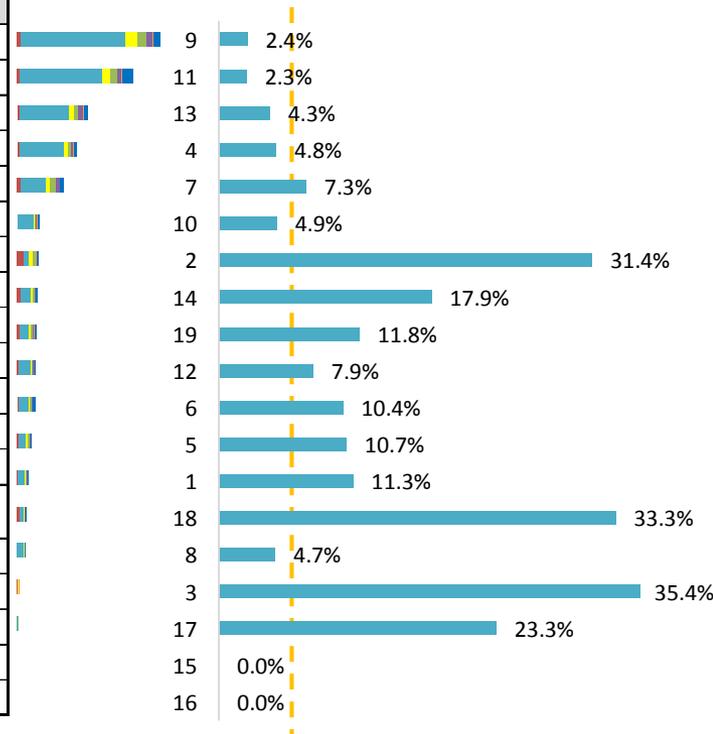
----- : 全疾患における箕面市立病院シェア比率 (6.6%)
 表 : 受診患者数 (人) の合計値が大きい順に列挙
 医療機関 : 病院、診療所、薬局、整形外科 等

ICD疾患別 医療機関受診患者数 (人)

章番号	ICD疾患 (大分類)	箕面市立病院	他医療機関 箕面市内	豊能医療圏内 箕面市外 医療機関					豊能医療圏外 茨木市	その他 豊能医療圏外 医療機関	合計
				吹田市	豊中市	池田市	豊能町	能勢町			
	全疾患合計	28,747	282,710	36,007	33,389	20,388	305	58	6,407	27,575	435,586
9	循環器系の疾患	2,456	75,559	9,393	6,722	3,666	59	6	1,212	4,270	103,343
11	消化器系の疾患	1,958	59,521	5,724	5,413	2,693	109	29	1,165	7,320	83,932
13	筋骨格系及び結合組織の疾患	2,176	35,879	2,901	3,639	3,292	9	21	708	2,405	51,030
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	2,071	31,678	3,224	2,198	1,456	6	0	396	2,115	43,144
7	眼及び付属器の疾患	2,491	18,023	3,200	4,195	2,992	31	0	443	2,616	33,991
10	呼吸器系の疾患	781	10,852	811	1,253	879	44	0	221	1,192	16,033
2	新生物	5,007	3,820	2,488	1,879	504	0	0	744	1,520	15,962
14	腎尿路生殖器系の疾患	2,619	7,325	1,534	1,316	674	1	0	432	762	14,663
19	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,596	7,191	1,346	1,267	810	14	2	383	938	13,547
12	皮膚及び皮下組織の疾患	1,054	8,785	728	1,235	730	0	0	182	594	13,308
6	神経系の疾患	1,386	6,731	1,297	1,148	970	23	0	102	1,647	13,304
5	精神及び行動の障害	1,126	5,547	1,122	1,248	694	0	0	133	654	10,524
1	感染症及び寄生虫症	910	4,424	831	726	410	3	0	98	668	8,070
18	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,289	2,548	658	421	304	0	0	112	533	6,865
8	耳及び乳様突起の疾患	293	4,345	462	499	286	6	0	70	239	6,200
3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	424	249	249	176	22	0	0	4	73	1,197
17	先天奇形	110	232	39	54	6	0	0	2	29	472
15	妊娠、分娩及び産じょく	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
16	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ICD疾患別
箕面市立病院受診患者数の疾患別
受診総件数に対する比率 (%)

* 箕面市立病院受診患者数(人) / 疾患別受診総患者数(人)



* 色の内訳 : 左表に対応

- 循環器系、消化器系疾患患者が後期高齢者に多いが、箕面市立病院に対するシェア率は低い傾向にある。
- 新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害等については、箕面市立病院に対するシェア率が高い傾向にある。

(2) 周辺医療機関の入退院ルート

<出典> 2016年度「大阪府病床機能報告」
(2016年6月における各医療機関の調査結果)

 : 地域内の主な急性期病院を示す

* ピンク色 : 80%以上を示す

入院前の場所

所在地	医療機関名	入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況 【2016年6月の1ヶ月間】										
		実数										割合
		外部からの入院患者合計	入棟前の場所					入棟前の場所				
家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院		介護施設・福祉施設からの入院	院内の出生	その他	家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院	介護施設・福祉施設からの入院	院内の出生	その他		
箕面市	箕面市立病院	775	689	15	52	19	0	89%	2%	7%	2%	0%
	照葉の里箕面病院	23	2	14	7	0	0	9%	61%	30%	0%	0%
	千里リハビリテーション病院	45	0	45	0	0	0	0%	100%	0%	0%	0%
	彩都リハビリテーション病院	53	0	53	0	0	0	0%	100%	0%	0%	0%
	箕今宮病院	17	3	14	0	0	0	18%	82%	0%	0%	0%
	ガラシア病院	57	23	31	3	0	0	40%	54%	5%	0%	0%
	箕面正井病院	3	0	3	0	0	0	0%	100%	0%	0%	0%
	ためなか温泉病院	3	1	2	0	0	0	33%	67%	0%	0%	0%
	相原病院	44	44	0	0	0	0	100%	0%	0%	0%	0%
吹田市	大阪大学医学部附属病院	1,706	1,591	49	2	33	31	93%	3%	0%	2%	2%
	国立循環器病研究センター	1,025	995	25	4	1	0	97%	2%	0%	0%	0%
	済生会吹田病院	980	959	9	12	0	0	98%	1%	1%	0%	0%
	吹田市民病院	753	704	14	29	5	1	93%	2%	4%	1%	0%
	吹田徳洲会病院	316	268	23	18	6	1	85%	7%	6%	2%	0%
	済生会千里病院	834	771	26	14	21	2	92%	3%	2%	3%	0%
	協和会病院	174	120	34	20	0	0	69%	20%	11%	0%	0%
	大和病院	102	40	35	27	0	0	39%	34%	26%	0%	0%
	皐月病院	0	0	0	0	0	0					
	井上病院	171	146	8	17	0	0	85%	5%	10%	0%	0%
	大阪市立済濟院附属病院	30	7	3	20	0	0	23%	10%	67%	0%	0%
	平海病院	28	0	23	5	0	0	0%	82%	18%	0%	0%
大阪大学歯学部附属病院	103	101	2	0	0	0	98%	2%	0%	0%	0%	

所在地	医療機関名	入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況 【2016年6月の1ヶ月間】										
		実数										割合
		外部からの入院患者合計	入棟前の場所					入棟前の場所				
家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院		介護施設・福祉施設からの入院	院内の出生	その他	家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院	介護施設・福祉施設からの入院	院内の出生	その他		
豊中市	市立豊中病院	1,374	1,240	26	42	66	0	90%	2%	3%	5%	0%
	刀根山病院	350	348	2	0	0	0	99%	1%	0%	0%	0%
	千里中央病院	74	16	57	1	0	0	22%	77%	1%	0%	0%
	坂本病院	23	3	18	2	0	0	13%	78%	9%	0%	0%
	関西メディカル病院	290	225	33	32	0	0	78%	11%	11%	0%	0%
	関西リハビリテーション病院	68	2	66	0	0	0	3%	97%	0%	0%	0%
	坂本病院分院	2	0	2	0	0	0	0%	100%	0%	0%	0%
	大脳脳神経外科病院	119	100	10	9	0	0	84%	8%	8%	0%	0%
	豊中若葉会病院	48	35	7	6	0	0	73%	15%	13%	0%	0%
	豊中平成病院	26	5	18	3	0	0	19%	69%	12%	0%	0%
	平成記念病院	19	2	5	12	0	0	11%	26%	63%	0%	0%
	上田病院	95	84	2	9	0	0	88%	2%	9%	0%	0%
	豊中緑ヶ丘病院	101	90	5	6	0	0	89%	5%	6%	0%	0%
	千里山病院	77	37	35	5	0	0	48%	45%	6%	0%	0%
池田市	曾根病院	15	12	3	0	0	0	80%	20%	0%	0%	0%
	真正会病院	4	0	4	0	0	0	0%	100%	0%	0%	0%
	市立池田病院	824	783	9	17	15	0	95%	1%	2%	2%	0%
	巽病院	148	132	4	12	0	0	89%	3%	8%	0%	0%
茨木市	池田回生病院	46	40	1	5	0	0	87%	2%	11%	0%	0%
	藍野病院	70	52	13	4	0	1	74%	19%	6%	0%	1%
	済生会茨木病院	540	515	4	12	9	0	95%	1%	2%	2%	0%
	北大阪警察病院	152	125	18	9	0	0	82%	12%	6%	0%	0%
	友誼会総合病院	101	39	6	7	0	49	39%	6%	7%	0%	49%
	茨木医誠会病院	44	9	31	4	0	0	20%	70%	9%	0%	0%
	ほうせんか病院	51	13	37	1	0	0	25%	73%	2%	0%	0%
	彩都友誼会病院	163	138	23	2	0	0	85%	14%	1%	0%	0%
	博愛茨木病院	45	33	6	6	0	0	73%	13%	13%	0%	0%
	サンタマリア病院	99	91	4	4	0	0	92%	4%	4%	0%	0%
谷川記念病院	田中病院	161	112	0	11	38	0	70%	0%	7%	24%	0%
	谷川記念病院	81	65	13	3	0	0	80%	16%	4%	0%	0%

各病院がどのようなルートから患者が入院しているかの特徴を整理している。
 その中で考察される主な特徴は下記のとおり

- 地域内の急性期病院は「家庭からの入院」が多数を占める。
- その中で当院は「介護施設・福祉施設からの入院」の割合が比較的高い傾向にある。

(2) 周辺医療機関の入退院ルート

<出典> 2016年度「大阪府病床機能報告」
(2016年6月における各医療機関の調査結果)

 : 地域内の主な急性期病院を示す

* ピンク色 : 80%以上を示す

退院先の場所

所在地	医療機関名	入棟前の場所・退院先の場所別の入院患者の状況 [2016年6月の1ヶ月間]															
		実数											割合				
		退院先の場所							退院先の場所								
		外部への退院患者合計	家庭へ退院	診療所へ転院	他の病院・ 診療所へ転院	介護老人保健施設 へ入所	介護老人福祉施設 へ入所	社会福祉施設・有料老人ホーム等 へ入所	終了(死亡退院等)	その他	家庭へ退院	他の病院・ 診療所へ転院	介護老人保健施設 へ入所	介護老人福祉施設 へ入所	社会福祉施設・有料老人ホーム等 へ入所	終了(死亡退院等)	その他
箕面市	箕面市立病院	733	642	31	8	19	18	14	1	88%	4%	1%	3%	2%	2%	0%	
	照葉の里箕面病院	15	1	1	1	1	10	0	7%	7%	7%	7%	7%	67%	0%		
	千里リハビリテーション病院	46	28	9	7	1	0	0	61%	20%	15%	2%	2%	0%	0%		
	彩都リハビリテーション病院	57	33	7	8	0	9	0	58%	12%	14%	0%	16%	0%	0%		
	箕今宮病院	20	10	4	2	0	2	2	0	50%	20%	10%	0%	10%	10%	0%	
	カラシア病院	59	26	7	3	0	2	21	0	44%	12%	5%	0%	3%	36%	0%	
	箕面正井病院	2	0	0	0	0	0	2	0	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	
	ためなが温泉病院	2	0	1	0	0	0	1	0	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	
	相原病院	46	43	1	0	0	1	1	0	93%	2%	0%	0%	2%	2%	0%	
	吹田市	大阪大学医学部附属病院	1,543	1,457	68	0	0	2	16	0	94%	4%	0%	0%	0%	1%	0%
国立循環器病研究センター		1,019	920	69	2	5	7	16	0	90%	7%	0%	0%	1%	2%	0%	
済生会吹田病院		946	875	35	2	10	1	23	0	92%	4%	0%	1%	0%	2%	0%	
吹田市民病院		717	621	48	6	5	13	24	0	87%	7%	1%	1%	2%	3%	0%	
吹田徳洲会病院		296	228	17	13	0	10	26	2	77%	6%	4%	0%	3%	9%	1%	
済生会千里病院		832	735	50	2	3	12	29	1	88%	6%	0%	0%	1%	3%	0%	
協和会病院		142	96	9	16	5	2	14	0	68%	6%	11%	4%	1%	10%	0%	
大和病院		94	35	16	8	0	13	22	0	37%	17%	9%	0%	14%	23%	0%	
皐月病院		0	0	0	0	0	0	0	0								
井上病院		162	134	8	11	0	1	8	0	83%	5%	7%	0%	1%	5%	0%	
大阪市	大阪市立弘済院附属病院	33	1	4	9	16	1	2	0	3%	12%	27%	48%	3%	6%	0%	
	平海病院	27	4	12	0	0	8	3	0	15%	44%	0%	0%	30%	11%	0%	
	大阪大学歯学部附属病院	96	94	2	0	0	0	0	0	98%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	

所在地	医療機関名	入棟前の場所・退院先の場所別の入院患者の状況 [2016年6月の1ヶ月間]														
		実数											割合			
		退院先の場所							退院先の場所							
豊中市	市立豊中病院	1,357	1,214	92	4	4	13	30	0	89%	7%	0%	0%	1%	2%	0%
	刀根山病院	341	279	47	0	0	0	15	0	82%	14%	0%	0%	0%	4%	0%
	千里中央病院	58	16	7	1	1	8	25	0	28%	12%	2%	2%	14%	43%	0%
	坂本病院	22	2	7	0	1	2	10	0	9%	32%	0%	5%	9%	45%	0%
	関西メディカル病院	282	214	25	3	5	13	22	0	76%	9%	1%	2%	5%	8%	0%
	関西リハビリテーション病院	69	47	9	5	2	6	0	0	68%	13%	7%	3%	9%	0%	0%
	坂本病院分院	2	0	1	0	0	0	1	0	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%
	大阪脳神経外科病院	138	86	43	1	7	0	1	0	62%	31%	1%	5%	0%	1%	0%
	豊中若葉会病院	50	29	11	2	4	0	4	0	58%	22%	4%	8%	0%	8%	0%
	豊中平成病院	26	9	8	2	2	2	3	0	35%	31%	8%	8%	8%	12%	0%
	平成記念病院	20	2	0	4	8	1	5	0	10%	0%	20%	40%	5%	25%	0%
	上田病院	117	87	10	5	0	11	4	0	74%	9%	4%	0%	9%	3%	0%
	豊中緑ヶ丘病院	101	86	9	1	0	3	2	0	85%	9%	1%	0%	3%	2%	0%
	千里山病院	82	41	25	2	2	4	8	0	50%	30%	2%	2%	5%	10%	0%
	富根病院	18	10	5	0	0	0	3	0	56%	28%	0%	0%	0%	17%	0%
真正会病院	1	0	0	0	0	0	1	0	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	
池田市	市立池田病院	845	762	41	0	6	17	19	0	90%	5%	0%	1%	2%	2%	0%
	箕野病院	136	86	25	8	0	6	11	0	63%	18%	6%	0%	4%	8%	0%
	池田回生病院	53	33	1	8	1	3	7	0	62%	2%	15%	2%	6%	13%	0%
	藍野病院	79	43	5	2	0	10	19	0	54%	6%	3%	0%	13%	24%	0%
茨木市	済生会茨木病院	529	474	24	5	6	7	13	0	90%	5%	1%	1%	1%	2%	0%
	北大阪警察病院	150	124	3	4	9	5	5	0	83%	2%	3%	6%	3%	3%	0%
	友誼会総合病院	108	7	5	1	2	4	14	75	6%	5%	1%	2%	4%	13%	69%
	茨木医誠会病院	44	13	9	1	0	5	16	0	30%	20%	2%	0%	11%	36%	0%
	ほうせんか病院	37	10	6	0	0	0	21	0	27%	16%	0%	0%	0%	57%	0%
	彩都友誼会病院	169	115	15	0	0	0	39	0	68%	9%	0%	0%	0%	23%	0%
	博愛茨木病院	41	28	1	3	0	0	9	0	68%	2%	7%	0%	0%	22%	0%
	ザンタマリア病院	98	92	1	0	0	3	2	0	94%	1%	0%	0%	3%	2%	0%
	田中病院	173	153	7	7	0	0	6	0	88%	4%	4%	0%	0%	3%	0%
	谷川記念病院	70	63	2	0	1	1	3	0	90%	3%	0%	1%	1%	4%	0%

各病院がどのようなルートへ患者が退院しているかの特徴を整理している。
 その中で考察される主な特徴は下記のとおり

- 地域内の急性期病院は「家庭への退院」が多数を占める。
- その中で当院は「介護老人福祉施設への入所」が比較的多い傾向にある。

第4項 豊能医療圏の医療機能等の状況

(2) 周辺医療機関の入退院ルート

<出典> 2016年度「大阪府病床機能報告」
(2016年6月における各医療機関の調査結果)

* ピンク色：近隣の急性期病院を示す

退院患者のうち在宅医療を必要とする患者の状況

* 「在宅医療提供予定者割合」：自院もしくは他施設が在宅医療を提供する予定の患者の合計を、退院患者数（1ヶ月間）で除して算出

所在地	医療機関名	退院後に在宅医療を必要とする患者の状況					
		退院患者数(1ヶ月間)	在宅医療を必要としない患者 (死亡退院含む)	自院が在宅医療を提供する予定の患者数	他施設が在宅医療を提供する予定の患者数	在宅医療提供予定者割合	在宅医療の実施予定が不明の患者
箕面市	箕面市立病院	733	685	0	48	7%	0
	照葉の里箕面病院	15	10	0	4	27%	1
	千里リハビリテーション病院	46	32	0	9	20%	5
	彩都リハビリテーション病院	57	0	0	0	0%	57
	箕今宮病院	20	2	0	12	60%	6
	ガラシア病院	59	43	5	10	25%	1
	箕面正井病院	2	2	0	0	0%	0
	ためなが温泉病院	2	1	0	0	0%	1
	相原病院	46	1	0	0	0%	45
	吹田市	大阪大学医学部附属病院	1,543	1,533	0	10	1%
国立循環器病研究センター		1,019	997	2	12	1%	8
済生会吹田病院		946	939	4	2	1%	1
吹田市民病院		717	697	0	20	3%	0
吹田徳州会病院		296	296	0	0	0%	0
済生会千里病院		832	808	0	24	3%	0
協和会病院		142	70	0	7	5%	65
大和病院		94	86	8	0	9%	0
皐月病院		0	0	0	0	0%	0
井上病院		162	153	0	9	6%	0
大阪市立弘済院附属病院		33	33	0	0	0%	0
平海病院	27	20	4	3	26%	0	
大阪大学歯学部附属病院	96	96	0	0	0%	0	

所在地	医療機関名	退院後に在宅医療を必要とする患者の状況					
		退院患者数(1ヶ月間)	在宅医療を必要としない患者 (死亡退院含む)	自院が在宅医療を提供する予定の患者数	他施設が在宅医療を提供する予定の患者数	在宅医療提供予定者割合	在宅医療の実施予定が不明の患者
豊中市	市立豊中病院	1,357	1,323	5	29	3%	0
	刀根山病院	341	321	0	20	6%	0
	千里中央病院	58	48	0	6	10%	4
	坂本病院	22	17	0	5	23%	0
	関西メディカル病院	282	26	0	58	21%	198
	関西リハビリテーション病院	69	52	0	17	25%	0
	坂本病院分院	2	2	0	0	0%	0
	大阪脳神経外科病院	138	129	0	6	4%	3
	豊中若葉会病院	50	48	0	1	2%	1
	豊中平成病院	26	14	2	7	35%	3
	平成記念病院	20	5	0	15	75%	0
	上田病院	117	6	61	17	67%	33
	豊中緑ヶ丘病院	101	101	0	0	0%	0
	千里山病院	82	33	0	0	0%	49
	曽根病院	18	16	2	0	11%	0
	真正会病院	1	1	0	0	0%	0
	池田市	市立池田病院	845	809	0	36	4%
箕病院		136	103	13	20	24%	0
池田回生病院		53	46	0	2	4%	5
茨木市	藍野病院	79	58	0	12	15%	9
	済生会茨木病院	529	519	2	2	1%	6
	北大阪警察病院	150	76	0	35	23%	39
	友誼会総合病院	108	14	0	8	7%	86
	茨木医誠会病院	44	41	0	0	0%	3
	ほうせんか病院	37	30	0	2	5%	5
	彩都友誼会病院	169	162	3	3	4%	1
	博愛茨木病院	41	37	0	0	0%	4
	サンタマリア病院	98	95	0	2	2%	1
	田中病院	173	172	1	0	1%	0
谷川記念病院	70	70	0	0	0%	0	
		12,103	10,878	112	473	5%	640

各病院から退院される患者のうち在宅医療を必要とする患者がどの程度あるかの特徴を整理している。
その中で考察される主な特徴は下記のとおり

- 退院患者のうち在宅医療を必要とする患者の割合は、当院は他の急性期病院に比べ比較的高い状況である。
- 他の急性期病院と比較し、当院は在宅医療・介護施設との連携度合いが比較的高い傾向である。

(3) がん診療実施状況

大阪府病床機能報告に掲載される情報から抽出できる項目のうち、特に新病院計画に影響を与える個別事項について整理している。下記ではそのうち、がん診療における各医療機関の特性を把握する材料として、がん診療に関連する各医療機関の体制、対応患者数の特徴を整理している。

当院と周辺病院のがん診療体制及び実績について

施設名	がん拠点	放射線治療装置台数	がんへの対応患者数(人)				放射線治療装置あたり患者数
			悪性腫瘍手術	放射線治療	化学療法	計	
箕面市立病院	○	0	46	0	44	90	-
大阪大学医学部附属病院	○	3	-	-	-	-	-
済生会吹田病院	○	1	53	17	74	144	17
吹田市民病院	○	1	27	11	66	104	11
吹田徳洲会病院		1	※	※	25	25	-
済生会千里病院	○	0	44	0	58	102	-
市立豊中病院	○	1	64	23	115	202	23
刀根山病院	○	1	15	18	52	85	18
市立池田病院	○	1	51	12	102	165	12
彩都友誼会病院		2	※	42	78	120	21
計			300	123	614	1,037	

■豊能医療圏と茨木市に立地する病院の中で、がん診療連携拠点病院に指定されている施設もしくは放射線治療装置を有している施設を抽出した。

■がんへの対応(患者数)で記載している値は、1ヶ月間で治療を行った実患者数(人)(2016年6月診療分であり、7月審査分の「入院レセプト」)である。

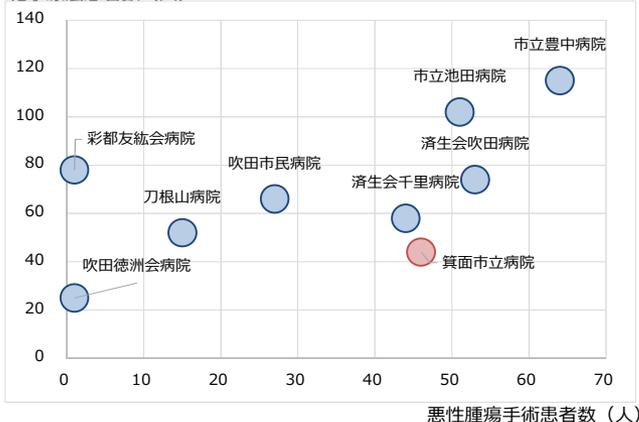
■「※」: 個人情報の観点から、1以上10未満の値は秘匿となっている
「-」: 未確認(又は該当なし)との記載があった項目

<出典>

- 放射線治療装置台数: 株式会社エム・イー振興協会 「医療機器システム白書2016」
- がんへの対応(患者数): 「2015年病床機能報告 2015年7月1日時点の医療機能(2016年2月16日集計)」
- * 最新データは、2016年病床機能報告であるが、ほとんどの施設が実績値を未記載と記入して報告しているため、過年度のデータを使用している。
- * 市立豊中病院については、該当データが未報告であったため、2014年病床機能報告より、2014年7月1日時点の医療機能(2015年3月31日集計)を記載。

がん診療に関するポジショニング

化学療法患者数(人)



■病床機能報告に基づく上記の表より、「化学療法」「悪性腫瘍手術」の件数とそのバランスを図として整理した。

がん診療体制および患者対応状況の特徴について、考察される主な内容は下記のとおり

- 大阪大学医学部附属病院を除く周辺病院との比較をみると、市立豊中病院が、手術、化学療法、放射線治療ともに多くの患者に対応している。
- 箕面市立病院は、化学療法、悪性腫瘍手術共にを行っているが、バランスとしては手術患者数が比較的多い傾向にある。
- 他施設における放射線治療に関しては、放射線機器1台当たりの対応患者数が11人~23人と他の治療法に比べ対応人数の幅が狭いことが分かる。(大阪大学医学部附属病院・吹田徳洲会病院は除いて計算)

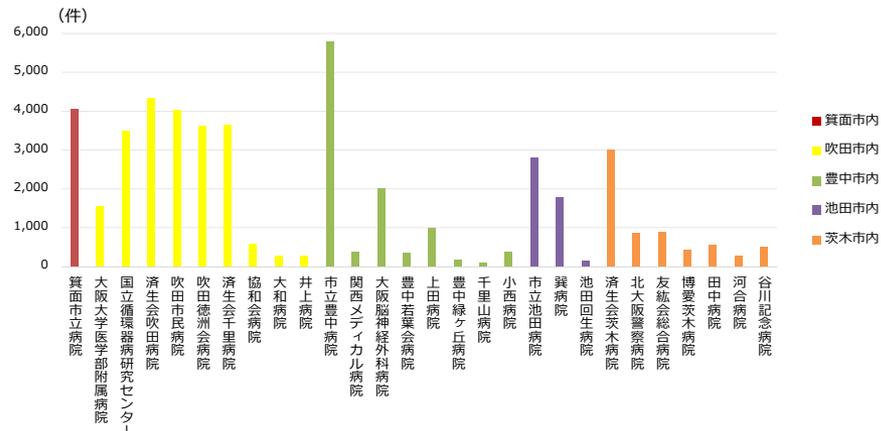
(4) 救急診療実施状況

大阪府病床機能報告に掲載される情報から抽出できる項目のうち、特に新病院計画に影響を与える個別事項について整理している。下記ではそのうち、救急における各医療機関の特性を把握する材料として、救急に関連する各医療機関の体制、対応患者数の特徴を整理している。

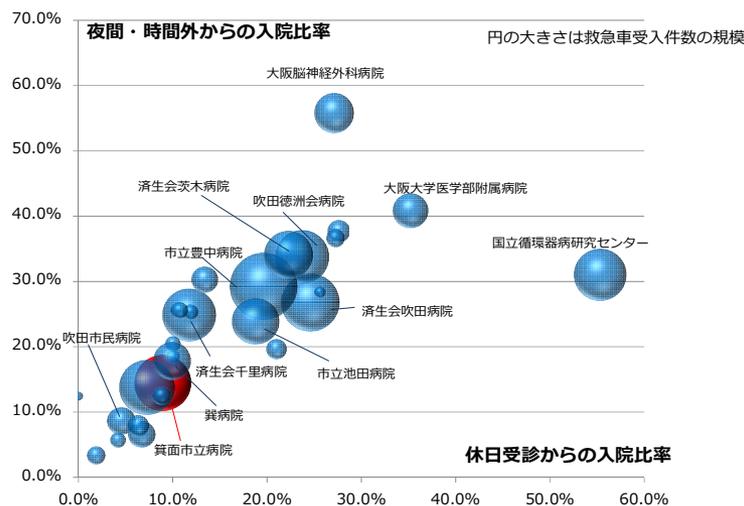
当院と周辺病院の救急診療体制及び実績

所在地	医療機関名	認定		夜間休日救急搬送 医学管理科	救急医療管理加算1及び2	休日受診延患者数	休日診療直後に入院になった延患者数	割合(%)	夜間・時間外受診 延患者数	うち診療直後に入院になった延患者数	割合(%)	救急車の受入件数	
		2次救急	3次救急										
箕面市	箕面市立病院	○		※	245	5,904	526	8.9%	10,601	1,534	14.5%	4,046	
吹田市	大阪大学医学部附属病院		○	-	-	468	165	35.3%	978	400	40.9%	1,546	
	国立循環器病研究センター	○		-	-	1,937	1,072	55.3%	3,504	1,086	31.0%	3,500	
	済生会吹田病院	○		-	278	3,537	869	24.6%	4,918	1,317	26.8%	4,335	
	吹田市民病院	○		※	216	6,632	482	7.3%	9,801	1,352	13.8%	4,017	
	吹田徳洲会病院	○		11	148	1,411	334	23.7%	3,222	1,088	33.8%	3,630	
	榎坂病院	○											
	済生会千里病院	○	○		0	228	4,522	533	11.8%	5,237	1,303	24.9%	3,636
	協和会病院	○		※	25	214	59	27.6%	361	136	37.7%	585	
	大和病院	○		※	*	446	45	10.1%	532	109	20.5%	266	
	井上病院	○		○	0	219	26	11.9%	241	61	25.3%	286	
豊中市	市立豊中病院	○		13	435	8,862	1,741	19.6%	6,729	1,968	29.2%	5,779	
	さわ病院	○											
	小曾根病院	○											
	関西メディカル病院	○		40	23	55	15	27.3%	273	100	36.6%	382	
	大阪脳神経外科病院	○		37	79	760	206	27.1%	4,104	2,292	55.8%	2,024	
	豊中若葉会病院	○		※	*	262	28	10.7%	473	121	25.6%	349	
	上田病院	○		※	40	972	44	4.5%	1,779	154	8.7%	984	
	豊中緑ヶ丘病院	○		○	0	169	17	10.1%	297	55	18.5%	188	
	千里山病院	○		○	0	5	0	0.0%	8	1	12.5%	92	
	小西病院	○		○	0	1,677	31	1.8%	954	32	3.4%	383	
池田市	市立池田病院	○		※	406	2,632	495	18.8%	4,825	1,155	23.9%	2,812	
	巽病院	○		10	10	1,673	166	9.9%	2,430	433	17.8%	1,787	
	池田回生病院	○		-	-	78	20	25.6%	155	44	28.4%	153	
茨木市	藍野花園病院	○											
	清風会茨木病院	○		※	121	1,493	333	22.3%	3,430	1,170	34.1%	2,997	
	北大阪警察病院	○		-	-	254	34	13.4%	466	141	30.3%	852	
	友誼会総合病院	○		-	18	1,216	82	6.7%	1,996	132	6.6%	882	
	博愛茨木病院	○		※	0	341	30	8.8%	638	80	12.5%	423	
	田中病院	○		※	31	780	49	6.3%	787	62	7.9%	570	
	河合病院	○		※	*	339	14	4.1%	2,003	115	5.7%	279	
	谷川記念病院	○		※	0	491	103	21.0%	1,006	198	19.7%	494	

救急車の受入件数



救急入院率のポジショニング



救急体制および患者対応状況の特徴について、考察される主な内容は下記のとおり

- 当院の救急車受入件数は、周辺病院と比べて多くの受け入れを行っている。
- 一方、時間外や休日からの入院率に関しては低い状況にあるが、それだけ外来患者を受け入れているといえる。

* 2016年度病床機能報告より、2016年7月1日時点の医療機能（2017年2月17日集計）を記載。
 * 2016年度病床機能報告データがない一部病院（小西病院、河合病院）は2015年7月1日時点の医療機能（2016年2月16日集計）を記載。
 * 「※」：個人情報の観点から、1以上10未満の値を秘匿となっている項目 「-」：未確認との記載があった項目
 榎坂病院、さわ病院、小曾根病院、藍野花園病院、清風会茨木病院は精神病床であるため、本内容から割愛

(4) 救急診療実施状況

<出典> 第7次大阪府保健医療計画

■ 初期救急体制においては、吹田市・豊中市・池田市では保健センター等市立施設等が担っているが、箕面市では箕面市立病院が担っている。

救急受け入れ体制

▼3次救急体制

▼初期救急体制

所在地	医療機関名	病床数	区分
吹田市	大阪大学医学部附属病院 (高度救命救急センター)	20	高
	大阪府済生会千里病院 (千里救命救急センター)	43	

所在地	医療機関名	診療科目	平日	土曜日	休日
箕面市	箕面市立病院	内科、歯科	—	—	9:30~16:30
	豊能広域こども急病センター	小児科	18:30~翌 6:30	14:30~翌 6:30	8:30~翌 6:30
吹田市	吹田市立休日急病診療所	内科、小児科、外科、歯科	—	—	9:30~11:30 13:00~16:30
	大阪大学歯学部附属病院	歯科口腔外科	17:15~翌 8:30	24時間	24時間
豊中市	豊中市医療保健センター診療所	内科、小児科、歯科	—	—	9:30~16:30
	豊中市立庄内保健センター	内科、小児科、歯科	—	—	9:30~16:30
池田市	池田市立休日急病診療所	内科、小児科、歯科	—	—	8:30~11:30 13:00~15:30

▼2次救急体制

所在地	医療機関名	診療科目																
		固定・通年性											輪番制・非通年性					
		内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科	外科	心臓血管外科	呼吸器外科	消化器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	内科	外科	脳神経外科	整形外科	小児科
箕面市	箕面市立病院	○				○											月・木・金・土	
吹田市	国立循環器病研究センター		○			○												
	済生会吹田病院	○	○			○				○	○						木・第2日・第4日	
	吹田市民病院	○				○				○	○						月・火・水・土	
	吹田徳洲会病院	○	○		○	○								月・木				
	榎坂病院																	○
	済生会千里病院	○				○												
	協和会病院												月・火・金			水・木		
	大和病院	○																
井上病院													木		木			
豊中市	市立豊中病院	○				○											火・水・金・土	
	さわ病院																	○
	小曽根病院																	○
	関西メディカル病院	○				○					○							
	大阪脳神経外科病院										○							
	豊中若葉会病院	○									○							
	上田病院	○				○										月~金		
	豊中緑ヶ丘病院				○						○							
	千里山病院												月~金					
小西病院					○													
池田市	市立池田病院	○				○											金・日	
	箕病院	○									○							
	池田回生病院	○				○												

* 輪番制
各市や郡単位の地域ごとに、休日や夜間に対応できる病院が日を決めて順番に担当する制度

* 固定の診療科目
小児科・小児外科・新生児科・産科・婦人科・泌尿器科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科・精神科・産婦人科の12科については、2次救急体制をとっている病院はない。

第4項 豊能医療圏の医療機能等の状況

(5) 周辺医療機関の回復期リハビリテーション病棟運営状況

<補足> リハビリの単位数: 20分/単位

日常生活機能評価: 寝返りや他者への意思の伝達など、日常の基本的動作の13項目について、3段階で評価するものである。できれば0点、できなければ1点あるいは2点というように、0~19点(合計19点)で評価する。

回復期リハビリ100床あたり平均職種別職員数: 理学療法士14.9人、作業療法士8.7人、言語聴覚士3.5人
(出典: 回復期リハビリテーション病棟協会 『2016年度全国実態調査報告』)

大阪府病床機能報告に掲載される情報から抽出できる項目のうち、特に新病院計画に影響を与える個別事項について整理している。下記ではそのうち、回復期リハビリテーション病棟における各医療機関の特性を把握する材料として、回復期リハビリテーション病棟に関連する各医療機関の体制、対応患者数の特徴を整理している。

所在地	医療機関名	回復期リハビリ病棟 病床数	病床区分	回復期リハビリ入院料	職員数			2015年7月~2016年6月 新規入棟患者数(年間)	2015年7月~2016年6月 退棟患者数(年間)	2015年7月~2016年6月 在棟延患者数(年間)	病床稼働率	リハビリテーションの実施状況											平均リハビリテーション単位数 (1患者1日当たりに対して)	過去1年間の総退院患者数	うち入院時の日常生活機能評価 10点以上の患者数	うち退院時の日常生活機能評価が 入院時と比較して3点以上 改善していた患者数
					理学療法士	作業療法士	言語聴覚士					疾患別リハビリテーション件数	心大血管疾患	脳血管疾患	廃用症候群	運動器	呼吸器	障害児(者)	がん患者	認知症患者	患者の割合					
箕面市	箕面市立病院	50	一般	1	24.3	17	6	315	309	14,602	80.0%	61	0	16	11	34	*	0	0	0	100%	6.8	290	130	106	
	千里リハビリテーション病院	68	療養	1	55	25	18	200	220	18,049	72.7%	68	0	44	*	21	0	0	0	0	100%	8.5	169	46	24	
		48	療養	1				115	116	10,786	61.6%	42	0	28	*	10	0	0	0	0	100%	8.4	103	28	18	
		56	療養	1				129	143	12,742	62.3%	46	0	38	0	*	0	0	0	0	100%	8.8	113	39	18	
	彩都リハビリテーション病院	40	療養	1	59	17	6	260	260	14,471	99.1%	53	0	22	*	22	0	0	0	0	100%	7.6	260	87	37	
		40	療養	1				206	206	14,521	99.5%	53	0	21	*	24	0	0	0	0	100%	7.6	206	76	34	
		40	療養	1				204	207	14,445	98.9%	57	0	16	16	31	0	0	0	0	100%	7.8	207	93	43	
箕今宮病院	40	一般	1	18	9	2	200	201	13,526	92.6%	46	0	12	*	26	0	0	0	99%	6.2	176	70	35			
吹田市	協和会病院	42	療養	1	35	17	10	227	226	14,141	92.2%	54	0	21	*	32	0	0	0	0	100%	6.3	178	70	68	
		44	療養	2				219	213	14,667	91.3%	50	0	14	*	35	0	0	0	0	100%	6.6	198	92	88	
豊中市	千里中央病院	50	療養	1	40	19	8	196	195	16,432	90.0%	52	0	42	*	*	0	0	0	0	100%	6.4	161	47	25	
		50	療養	2				195	195	16,675	91.4%	56	0	37	*	17	0	0	0	0	100%	6.2	162	35	14	
	関西メディカル病院	45	一般	1	24	5.8	2.8	47	46	2,781	16.9%	62	0	15	11	37	0	0	0	0	100%	4.8	46	22	9	
	関西リハビリテーション病院	48	一般	1	51	32	19	264	264	17,445	99.6%	69	0	42	*	26	0	0	0	0	100%	7.8	264	94	44	
		48	一般	1				254	254	17,451	99.6%	69	0	40	*	25	0	0	0	0	100%	7.8	254	86	41	
		48	一般	1				219	220	17,495	99.9%	58	0	43	*	12	0	0	0	0	100%	7.8	220	71	47	
豊中平成病院	43	療養	1	40	6	8	187	187	15,572	99.2%	60	0	28	19	13	0	0	0	95%	6.8	137	48	23			
茨木市	北大阪警察病院	50	療養	1	35	13	5	232	221	16,107	88.3%	62	0	22	*	35	0	0	0	0	100%	7.1	190	76	57	
		50	療養	1				236	226	15,309	83.9%	60	0	17	*	36	0	0	0	0	100%	6.8	197	64	34	
	茨木医療会病院	36	一般	2	-	-	-	197	161	12,455	94.8%	40	0	15	*	21	0	0	0	82%	7.2	126	40	19		
計		936	-	-	346	148	80	4,102	4,070	289,672	84.8%	956	0	479	57	365	0	0	0	-	-	3,657	1,314	784		

リハビリ体制および患者対応状況の特徴について、考察される主な内容は下記のとおり

■千里リハビリテーション病院、彩都リハビリテーション病院、関西リハビリテーション病院の3病院は、いずれもリハ職員体制は多く、1人1日当たりリハビリ実施単位数は当院よりも多い。

■当院は1病棟内で日常生活機能評価の点数が高い患者(≒重症度の高い患者層)を最も多く受け入れている。

<注釈>

* 豊能医療圏と茨木市に立地する病院の中で、病棟全体が回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している回復期リハビリ病棟をもつ施設を抽出。

* 上記記載の実績値に関しては、2016年度病床機能報告より、2016年7月1日時点の医療機能(2017年2月17日集計)を記載。

* 基本的には、各回復期リハビリテーション病棟単体におけるデータを記載しているが、職員数は常勤換算で、施設全体での数を記載。

* 「※」: 個人情報の観点から、1以上10未満の値は秘匿となっている

第4項 豊能医療圏の医療機能等の状況

(6) 周辺医療機関の高額医療機器導入状況

豊能医療圏内の各医療機関での放射線装置等の保有状況について整理した。
 周辺他施設での保有状況を鑑みて、新病院計画においてどのような機能を当院が保有すべきか、検討する必要がある。

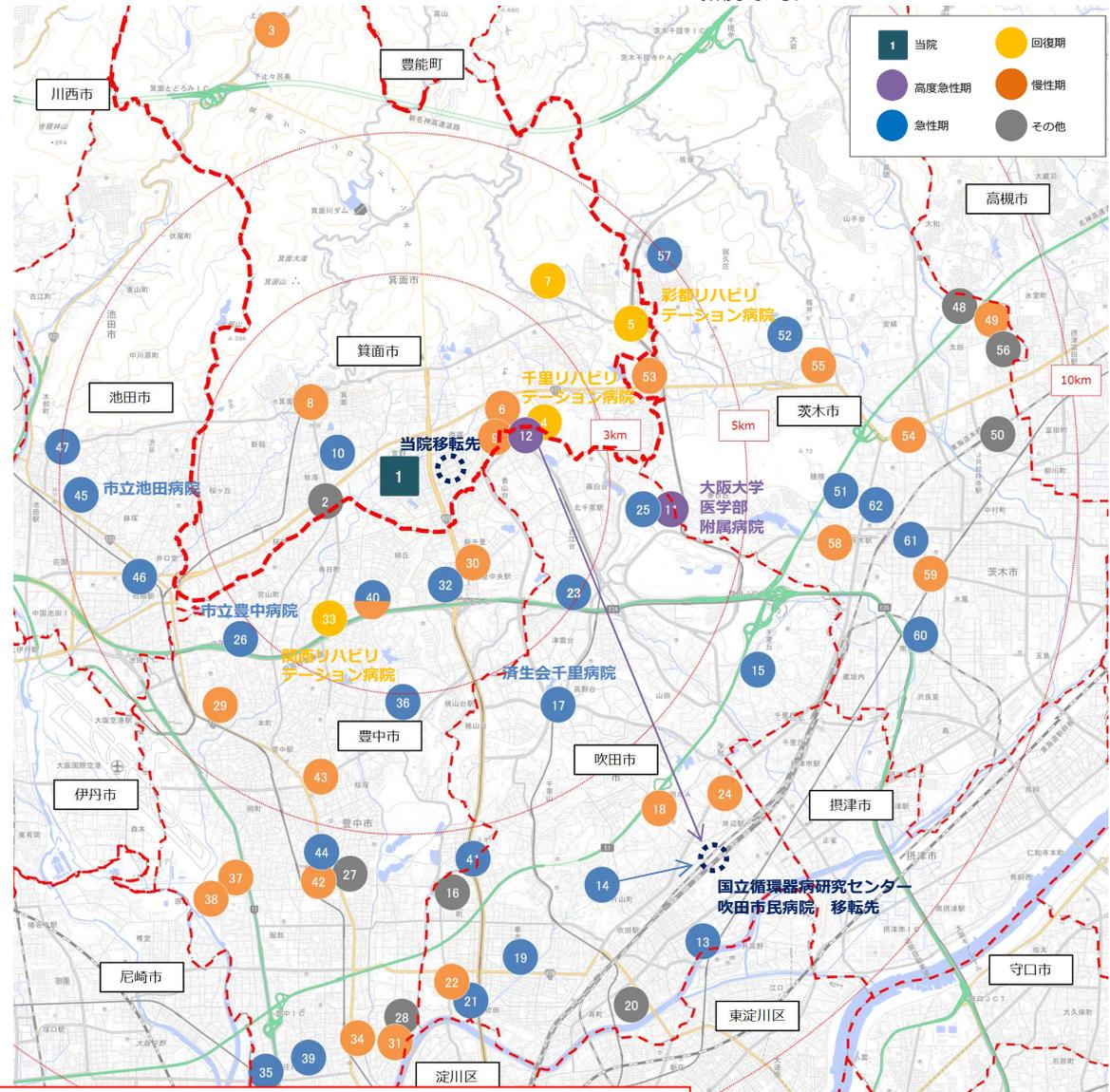
	ス ラ イ ス C T	ア ン ギ オ C T	M R I	F P D 搭 載 テ ジ タ ル X 線 装 置	血 管 撮 影	グ ラ フ イ モ ー	P E T / C T	サイ クロ ト ロン	S S P E E C T / C T	ガ ン マ ナ イ フ	リ ニ ア ク ク ・ マイ ク ロ ト ロン	小 線 源 治 療 装 置
箕面市立病院	2		2	3	1	1	1		1			
照葉の里箕面病院	1											
千里リハビリテーション病院	1											
彩都リハビリテーション病院	1											
箕今宮病院	1											
カラシア病院	1											
ためなが温泉病院	1											
相原病院	1					2						
大阪大学医学部附属病院	8	2	4	12	6	1	2	1	5		3	1
国立循環器病研究センター	3		3	2	7		2	4	5	1		
済生会吹田病院	3		2	2		2			1		1	
吹田市民病院	2		1	2	2	1			1		1	
吹田徳洲会病院	2		1	1	3	1	1				1	
榎坂病院	1					1						
済生会千里病院	2		1	1	2	2			1			
協和会病院	1		1									
大和病院	1		1									
井上病院	1		1	1		1						
甲聖会記念病院	1					1						
大阪市立弘済院附属病院	1		1									
平海病院	1											
皇月病院	1											
市立豊中病院	3	1	2	6	2	1			1		1	
さわ病院	1		1									
小曾根病院	1											
刀根山病院	2		1						1		1	
千里中央病院	1											
坂本病院	2											
関西メディカル病院	2		1	1		2						
関西リハビリテーション病院			1									
大阪脳神経外科病院	1		1		2							
豊中若葉会病院	1		1									
豊中平成病院	1											
平成記念病院	1											
上田病院	1					1						
豊中緑ヶ丘病院	1		1	1	1							
曾根病院	2											
小西病院	1											
市立池田病院	2		2		2	1			1		1	
箕病院	1		1		1							
池田回生病院	2											
藍野病院			1									
済生会茨木病院			1		2							
北大阪警察病院			1		1							
彩都友誼会病院			1		1						2	
谷川記念病院			1									
調査年月日	2017/8/1	2017/8/1	2017/4/1	2017/7/1	2017/3/1	2016/9/1	2018/1/1	2018/1/1	2018/1/1	2017/10/1	2017/10/1	2017/10/1
掲載号	No.516	No.515	No.511	No.514	No.510	No.505	No.519	No.519	No.519	No.518	No.517	No.518

■ 現在当院が保有していない主な医療機器
 アンギオCT
 ▶ 大阪大学医学部附属病院
 市立豊中病院
 サイクロトロン
 ▶ 大阪大学医学部附属病院
 国立循環器病研究センター
 リニアック・マイクロトロン
 ▶ 大阪大学医学部附属病院
 済生会吹田病院
 吹田市民病院
 吹田徳洲会病院
 市立豊中病院
 刀根山病院

■ 現在当院が特徴的に保有している医療機器
 PET・PET/CT
 ▶ 市立豊中病院、市立池田病院は
 保有していない

1. 豊能医療圏における医療機関の立地状況について

*マップ内プロットの色は、機能別病床数が最も大きい領域の色を採用している。



考察

- 当院の周辺地域には、高度急性期・急性期を担う大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センター、市立豊中病院、済生会千里病院などが立地
- 回復期リハビリを有する病院として、関西リハ病院、彩都リハ病院、千里リハ病院等が立地
- 当院は、箕面市内において200床以上を有する唯一の急性期病院として、地域の急性期医療を支える重要な役割を担っている。

<出典> 厚生労働省 2016年度「大阪府病床機能報告」

病院名	許可病床数 (床)					
	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他
1 箕面市立病院	317	13	254	50		
2 箕面神経サトリウム	345					345
3 照葉の里箕面病院	199				199	
4 千里リハビリテーション病院	172			172		
5 彩都リハビリテーション病院	120			120		
6 箕今宮病院	110		40		70	
7 ガラシア病院	104		53		51	
8 箕面正井病院	74				74	
9 ためなが温泉病院	50				50	
10 相原病院	31		31			
箕面市計	1,522	13	285	435	444	345
11 大阪大学医学部附属病院	1,024	1,024				
12 国立循環器病研究センター	604	604				
13 済生会吹田病院	500	26	461			13
14 吹田市民病院	431	2	389	40		
15 吹田徳洲会病院	365	20	198		100	47
16 櫻坂病院	360					360
17 済生会千里病院	343	43	300			
18 協和会病院	301		59	86	156	
19 大和病院	175		131		44	
20 単身病院	136				60	76
21 蒼龍会井上病院	127		86	41		
22 甲斐記念病院	116				116	
23 大阪市立弘済院附属病院	90		90			
24 平海病院	49				49	
25 大阪大学歯学部附属病院	40		40			
吹田市計	4,661	1,719	1,754	167	525	496
26 市立豊中病院	599	28	571			
27 さわ病院	571					571
28 小曽根病院	557					557
29 刀根山病院	410		4	180	226	
30 千里中央病院	400			100	300	
31 坂本病院	229				229	
32 関西メディカル病院	225		180	45		
33 関西リハビリテーション病院	144		144			
34 坂本病院分院	138				138	
35 大阪脳神経外科病院	122	10	80	32		
36 豊中若葉会病院	115		60		55	
37 豊中平成病院	101			43	58	
38 平成記念病院	100				100	
39 上田病院	94		94			
40 豊中緑ヶ丘病院	60		30		30	
41 千里山病院	59		59			
42 曹根病院	58				58	
43 真正会病院	55				55	
44 小西病院	37		37			
豊中市計	4,074	38	1,115	544	1,249	1,128
45 市立池田病院	366	2	364			
46 箕病院	75		75			
47 池田生生病院	60		60			
池田市計	501	2	499	0	0	0
48 藍野花園病院	606					606
49 藍野病院	369		111	114	144	
50 清風会茨木病院	350					350
51 済生会茨木病院	315	4	311			
52 北大阪警察病院	280		145	100	35	
53 友誼会総合病院	278		112		166	
54 茨木医誠会病院	230		53	36	141	
55 ほうせんか病院	220		48		172	
56 藍陵園病院	210					210
57 彩都友誼会病院	204		204			
58 博愛茨木病院	144		60		84	
59 サンタマリア病院	88		42		46	
60 田中病院	78		78			
61 河合病院	43		43			
62 谷川記念病院	43		43			
茨木市計	3,458	4	1,250	250	788	1,166
豊能医療圏(土まき市)計	14,216	1,776	4,903	1,396	3,006	3,135

2. 豊能医療圏の病床数状況について

(1) 基準病床の状況

■第7次大阪府保健医療計画（府医療計画）より、豊能医療圏の病床数状況を整理した。

■府医療計画では、医療圏で整備できる病床数として「基準病床数」が定められている。

*基準病床数：病床の地域的偏在を是正し、全国的に一定水準以上の医療を確保するために設けられ、各都道府県医療計画に記載される。「既存病床数」が「基準病床数」を超える地域（病床過剰地域）では、都道府県は病院開設・増床を許可しないことができる。

■豊能医療圏の基準病床数（一般病棟及び療養病棟）と2017年6月時点での既存病床数は下表のとおり。

基準病床数 (①)	既存病床数 (②)	過剰病床数 (②-①)
6,711床	9,194床	2,483床

考察

■豊能医療圏は、既存病床数が基準病床数を上回っており、病床許可基準上は「病床過剰地域」の位置づけであるため、基本的には現状の許可病床数（317床）を超えて新病院整備を行うことについては、大阪府との協議が必要となる。

3. 豊能医療圏の疾病別患者受診動向について

(1) (DPCデータ) 疾病別患者数における当院シェア

■DPC疾病区分別実患者数（人/年）の当院の患者シェア（%）は下表のとおり。

	医療圏 件数	当院	シェア
許可病床数（床）	6,242	317	5.1%
01 神経系	5,496	119	2.2%
02 眼科系	5,553	994	17.9%
03 耳鼻咽喉科系	2,002	138	6.9%
04 呼吸器系	11,292	1,081	9.6%
05 循環器系	10,771	51	0.5%
06 消化器系	17,062	1,684	9.9%
07 筋骨格系	2,058	43	2.1%
08 皮膚系	725	157	21.7%
09 乳房系	1,342	28	2.1%
10 内分泌系	2,440	139	5.7%
11 腎尿路系	6,210	722	11.6%
12 女性生殖器系	4,290	334	7.8%
13 血液系	1,680	156	9.3%
14 新生児系	2,577	102	4.0%
15 小児系	1,248	221	17.7%
16 外傷系	4,238	212	5.0%
17 精神系	45	0	0.0%
18 その他	1,203	90	7.5%
総計	80,232	6,271	7.8%

①現在、当院が患者シェアを有している疾病（15%超）

・眼科系 ・皮膚系 ・小児系

②現在、当院が患者シェアを有していない疾病（5%以下）

・神経系 ・循環器系 ・筋骨格系
・乳房系 ・新生児系 ・外傷系
・精神系

③【再掲 第1章】今後豊能医療圏での増加率が高いと予測され、かつ患者数が多い疾病

・消化器系 ・呼吸器系 ・循環器系
・腎尿路系 ・眼科系 ・神経系
・外傷系



■②③より、今後豊能医療圏での増加率が高いと予測され、かつ患者数が多い疾病のうち、豊能医療圏での当院患者シェアが比較的低いとみられる疾病

・循環器系 ・神経系 ・外傷系

(2) (ICDデータ) 箕面市在住患者の受診動向

■箕面市国民健康保険のデータより、地域の患者受診動向を分析した。

- 対象者：箕面市の住民であり、国保加入者（0歳以上75歳未満）
- 集計期間：2016年4月～2017年9月の18ヶ月間

【入院】疾病分類別・受診先医療機関所在地別 箕面市在住患者の受診動向
*上位10疾病について患者数が多いものから順に列挙

(単位：人)

ICD疾患（大分類）	箕面市立病院 (当院受診割合)	箕面市内他医療機関	箕面市外 豊能医療圏内 医療機関				豊能医療圏外 医療機関	その他豊能医療圏外 医療機関	合計
			吹田市	豊中市	池田市	茨木市			
全疾患合計	1,748 (34.1%)	374	1,167	588	162	193	899	5,131	
新生物	518 (44.0%)	78	215	95	28	49	194	1,177	
循環器系の疾患	55 (7.2%)	52	435(内、国循331(43.2%))	95	18	10	102	767	
消化器系の疾患	276 (53.2%)	5	62	65	20	9	82	519	
損傷、中毒及びその他の外因の影響	117 (27.9%)	26	68	76	30	30	72	419	
呼吸器系の疾患	172 (51.5%)	1	41	49	8	19	44	334	
眼及び付属器の疾患	180 (55.4%)	1	58	25	3	11	47	325	
腎尿路生殖器系の疾患	106 (41.2%)	6	47	27	14	10	47	257	
神経系の疾患	41 (17.3%)	14	57	25	12	5	83	237	
精神及び行動の障害	6 (2.6%)	75	14	58	1	22	55	231	
筋骨格系及び結合組織の疾患	54 (27.0%)	22	40	18	6	8	52	200	

【外来】疾病分類別・受診先医療機関所在地別 箕面市在住患者の受診動向
*上位10疾病について患者数が多いものから順に列挙

(単位：人)

ICD疾患（大分類）	箕面市立病院 (当院受診割合)	箕面市内他医療機関	箕面市外 豊能医療圏内 医療機関				豊能医療圏外 医療機関	その他豊能医療圏外 医療機関	合計	
			吹田市	豊中市	池田市	豊能町				
全疾患合計	29,565 (6.0%)	303,653	37,799	43,493	21,334	607	197	8,855	44,187	489,690
消化器系の疾患	2,535 (2.1%)	84,356	7,241	8,975	4,479	187	30	1,982	10,634	120,419
循環器系の疾患	1,975 (2.7%)	51,934	6,063	4,696	2,713	56	11	1,018	3,957	72,423
内分泌、栄養及び代謝疾患	2,466 (5.3%)	31,713	3,370	3,642	1,051	18	9	668	3,780	46,717
筋骨格系及び結合組織の疾患	1,592 (3.8%)	27,097	2,754	3,582	2,294	27	1	918	3,134	41,399
呼吸器系の疾患	1,457 (3.7%)	28,178	1,739	3,384	1,574	158	15	489	2,608	39,602
眼及び付属器の疾患	1,715 (5.1%)	17,205	2,716	4,754	2,427	60	2	462	4,142	33,483
皮膚及び皮下組織の疾患	1,334 (5.5%)	15,039	1,434	2,485	1,182	3	3	351	2,302	24,133
精神及び行動の障害	1,806 (8.3%)	8,876	2,216	3,277	1,990	0	1	559	3,027	21,752
新生物	4,646 (26.9%)	3,510	3,065	2,095	475	0	0	882	2,629	17,302
腎尿路生殖器系の疾患	2,464 (17.0%)	6,246	1,526	1,616	684	0	1	382	1,613	14,532

考察

- 入院患者については、新生物・消化器系・眼科系などは当院のシェアが高い。一方で、循環器系・神経系などは当院以外への入院が多くなっている。中でも吹田市は、阪大や国循などの大規模な高度急性期病床を有しているためシェアが高い。特に循環器系疾患の入院先は、国循が43.2%を占めているため、当院への入院シェアは7.2%にとどまっている。
- 外来患者については、箕面市内の他医療機関への受診率が高い。これは当院が主に急性期・救急医療を担う二次救急医療機関であり、かかりつけ医機能の強化を推進している地域包括ケアシステム構築の取組みが着実に進んでいるといえる。

調査概要

医療介護の行政動向を把握するに当たり、下記の流れで整理を実施する。

第1項：医療・介護の動向

- 1. 豊能医療圏における病院の整備状況並びに立地状況について
 - 医療動向の観点から
 - ・ 医療施設の特種機能指定状況
 - ・ 5疾病4事業に対する動向状況
 - ・ 第7次大阪府保健医療計画における今後の課題
 - 介護動向の観点から
 - ・ 箕面市民の要支援・要介護の認定の原因疾患
 - ・ 第7期箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における今後の課題
 - 在宅医療の観点から
 - ・ 在宅医療の需要見込みと取り組み状況

【本章で整理する主な行政計画の概要】

第7次大阪府保健医療計画

- 計画期間 2018年度～2023年度
- 医療法に基づき都道府県が策定する計画であり、大阪府内の医療提供体制に係る施策方向性を示すもの。
- 疾病領域・医療圏ごとに、現状の課題認識および施策の方向性、取組内容（中間・最終）が記載されている。

第7期箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

- 計画期間 2018年度～2020年度
- 箕面市における高齢者保健福祉施策および介護保険事業の方向性と円滑な実施のための基本的事項を示すもの。
- 高齢者を取り巻く現状や課題、計画の基本的考え方、施策内容が記載されている。

(1) 【医療動向】特殊機能指定状況

主な医療施設の状況 (大阪府保健医療計画に記載されている公的機能を有する医療機関)

所在地	番号	医療機関名	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
箕面市	1	箕面市立病院		○		○			○							
吹田市	2	大阪大学医学部附属病院	○			○			□	○	○		□			○
	3	国立循環器病研究センター	○			○							○			
	4	済生会吹田病院		○		○			○				○			
	5	吹田市民病院				○			○							
	6	吹田徳洲会病院					○									
	7	済生会千里病院		○		○		○	○	○	○					
	8	大阪市立弘済院附属病院				○										
	9	大阪大学歯学部附属病院				○										
	豊中市	10	市立豊中病院		○		○			□				○	○	
11		さわ病院			○											
12		刀根山病院				○		□	○						○	○
13		関西メディカル病院			○			□								
池田市	14	市立池田病院		○		○		○								
合計			2	5	2	11	0	2	8	2	2	0	4	1	1	2

<注釈>
 * 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院（国指定）」、○印は「大阪府がん診療拠点病院（府指定）」を示す。
 * 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。
 * 「在宅療養後方支援病院」の□印はP.40に記載した最新の施設基準上で取得されている病院を示す。



当院と機能的に競合する主な病院との比較は以下のとおり

- がん診療拠点**
 当院を含めがん診療拠点病院は8病院指定されている。
 うち大阪大学医学部附属病院・市立豊中病院は国指定のがん診療連携拠点病院に指定されている。
- 周産期母子医療センター**
 大阪大学医学部附属病院・国立循環器病研究センター・市立豊中病院・済生会吹田病院が、周産期母子医療センターの指定を受けている。
- 在宅療養後方支援拠点**
 済生会千里病院・吹田徳洲会病院・関西メディカル病院・刀根山病院が在宅療養後方支援病院としての施設基準を取得している。

(2) 【医療動向】5疾病4事業に対する動向と計画

5疾病	現状整備状況	計画中間年(2020年度)までの取り組み
がん	<p>■がん治療を行う医療機関のうち、5大がん治療を行っている施設数は、下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術可能な病院が15施設（診療所は0施設） ・化学療法可能な病院が18施設（診療所は15施設） ・放射線療法可能な病院が7施設（診療所は0施設） <p>■がん治療を行う病院数は、人口10万人対でみると府平均よりも少ないが、病床数でみると緩和ケア病床以外で府平均を上回っている。</p>	<p>■豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会で、がんの専門医療提供体制の構築、地域医療連携、がん患者の就労支援等を行っていく。</p>
脳卒中等の脳血管疾患	<p>■脳卒中中の急性期治療を行う病院のうち、以下の治療を実施する施設は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳動脈瘤根治術可能な病院が6施設 ・脳血管内手術可能な病院が7施設 ・t-PA治療可能な病院が9施設 <p>■脳血管疾患治療の実施病院数は、人口10万人対でみると府平均よりも少ないが、病床数でみると府平均を上回っている。</p>	<p>■脳血管疾患については、国立循環器病研究センターが事務局となり開催されている地域連携バス会議で、地域連携診療計画の評価及び情報交換・共有を行っていく。</p>
心筋梗塞等の心血管疾患	<p>■心血管疾患の急性期治療を行う病院のうち、以下の治療を実施する施設は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経皮的冠動脈形成術可能な病院が9施設 ・経皮的冠動脈ステント留置術可能な病院が10施設 ・冠動脈バイパス術可能な病院が4施設 <p>■心血管疾患患者の平均在院日数は8.9日と、府平均7.7日を上回っている。</p>	<p>■心血管疾患については、医療連携を検討する会議等で、慢性心不全を含めた急性期から維持期までの医療連携体制の課題を検討していく。</p>
糖尿病	<p>■糖尿病の治療を行う病院（診療所）のうち、以下の療法を実施する施設は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インスリン療法可能な病院が33施設（診療所は183施設） <p>また、合併症治療については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網膜光凝固術可能な病院が10施設（診療所は32施設） ・血液透析が可能な病院が16施設（診療所は12施設） <p>■糖尿病の重症化予防（患者教育）を行う病院（診療所）は33施設（診療所は155施設）あり、人口10万人対でみると府平均よりも少ない。そのうち、栄養指導外来への紹介受診が可能な病院は3施設ある。</p>	<p>■糖尿病については、医療連携を検討する会議等により、医科歯科連携、病診薬連携等、多職種連携による包括的なケア体制の構築を図っていく。</p>
精神疾患	<p>■地域連携拠点医療機関については、多様な精神疾患に対応するために、疾患ごとに定められており、統合失調症は14施設、認知症は11施設、うつ病は1施設となっている。</p> <p>■身体・精神合併症患者対応可能な病院は、2施設（三次告示医療機関）ある。</p>	<p>■身体・精神合併症患者の受入れ体制について、2015年度より開始された大阪府夜間・休日精神科合併症支援システムの運用状況と、ORION分析システムからみるデータとともに経過を確認していき、課題整理していく。</p> <p>■統合失調症、認知症、依存症等、多様な精神疾患にかかる関係機関による協議の場を設け、医療の充実、医療連携推進のために検討していく。</p>

■医療計画で言及されている内容のうち、特に当院の新病院計画において考慮・検討が必要と思われる事項は下記のとおり。

- がん診療 緩和ケア病床の整備については、地域の需要を含めて検討が必要
- 心血管疾患 第1章・第2章での記載のとおり、当院は患者数シェアが低い傾向であると予測されるが、地域での医療連携体制構築が課題とされている中で、当院がどのように役割を果たすか、検討が必要と思われる。

(2) 【医療動向】5疾病4事業に対する動向と計画

4事業	現状整備状況	計画中間年(2020年度)までの取り組み
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ■初期救急医療機関は、内科6施設、歯科6施設ある。救急告示医療機関は、二次救急告示医療機関23施設、三次救急告示医療機関2施設（うち1施設は二次・三次告示医療機関）ある。 ■救急搬送件数は、2013年21,917件、2017年24,958件（いずれも1～6月の上半期）と、増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■救急搬送及び搬送後の医療機関データを分析し、適正な救急医療体制に向けた課題抽出と分析及び評価をしていく。 ■市民へ救急車の適正利用に関する啓発を行い、救急医療の負担軽減に努めていく。 ■救急告示病院と救命救急センターを中心としたバックアップ体制のもと、精神科疾患合併患者の受入れ促進の対応を検討していく。
災害医療	<ul style="list-style-type: none"> ■地域災害拠点病院として2施設が指定されている。 ■救急病院のBCP（事業継続計画）策定率は12%と、未整備が多い状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ■BCP策定が未整備の病院に対し、立入検査等の機会策定の働きかけを行っていく。 ■災害時に医療機関と行政等を調整する災害医療コーディネーターと地域災害医療本部長である保健所長とが効率的に連携できるよう役割を明確化し、連携を進めていく。
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ■分娩を取り扱っている施設は、病院9施設、診療所8施設、助産所3施設ある。総合周産期母子医療センターとして1施設指定、地域周産期母子医療センターとして3施設認定している。 ■産科病床数は減少傾向にあるが、豊能医療圏内での自己完結率は92.1%と高くなっている。 	
小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ■小児科病床を有する病院が6施設ある。小児初期救急医療機関は5施設、二次救急医療機関は5施設ある。 ■5施設輪番制による二次救急医療体制を整備しており、豊能広域子ども急病センター、開業医の初期救急と二次救急の連携がスムーズになり安定した小児救急体制が確保されている。 ■人工呼吸器等の在宅高度医療児に対応する訪問診療医、後方支援病院、レスパイト受入れ病院、訪問看護ステーションの充実が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療的ケアが必要な小児の在宅支援体制（訪問診療・訪問看護・レスパイト体制・相談支援事業所等）の充実を図っていく。 ■関係機関、医療機関との会議を継続的に実施し、連携強化とネットワークの構築をめざすとともに、関係機関と協力し虐待の早期発見にも取り組んでいく。

- 医療計画で言及されている内容のうち、特に当院の新病院計画において考慮・検討が必要と思われる事項は下記のとおり。
 - 救急医療 救急件数が伸びており、今後も伸びることが予測される（第4章で言及）中で、精神科疾患合併患者の受入体制をどのように考えるか、検討が必要と思われる。（認知症を有する急性期患者の受け入れを含め）
 - 小児医療 医療的ケアが必要な小児の在宅支援体制に対して、当院がどのような役割を果たしていくか、検討する必要がある。

(3) 【医療動向】医療計画での豊能医療圏課題事項

主な現状と課題

- 特定機能病院2施設、地域医療支援病院5施設（当院を含む）、公的医療機関等11施設と、大規模病院が多く、医療機関に恵まれている。
- 各医療機関における診療分野は幅広く、高度な医療サービスを圏内の医療機関で受けることができるが、限られた医療資源の効果的活用の視点からは更なる検討が必要となる。
- 認知症を含む精神・身体疾患合併症患者の対応が出来る医療機関が少ない状況。

豊能医療圏での計画中間年(2020年度)までの取り組み

1. 地域医療構想の推進（病床の機能分化・連携の推進）

- 「大阪府豊能保健医療協議会」「豊能病床機能懇話会」等において、「新公立病院改革プラン」、「公的医療機関等2025プラン」を策定する病院を中心に、各医療機関が地域で担う役割を確認し、地域に必要な医療機能、連携方策を検討する。
- 保健所が、保健所管内の病院関係者に対して、医療提供体制の現状と病床機能報告の結果から特に不足する病床機能を情報提供し検討する場を持ち、医療連携機能を強化するとともに自主的な取組を支援する。

2. 在宅医療の充実

- 圏域において安定した在宅医療を提供するため、病院を中心とした関係機関同士の連携会議等で、中核的な病院が在宅療養後方支援病院となるよう後方支援体制を整備する等の取組を支援する。
- 入退院時において関係機関とのスムーズな連携を図るため、情報共有の取組を支援する。（各種マニュアルの作成・見直しと周知、ICT導入等）
- 関係機関の連携体制を構築するため、在宅医療に従事している関係者が市町の連携会議等に参画できるように、保健所が橋渡し役となり進めていく。
- 24時間365日の在宅医療推進のための薬剤師会を中心とした薬局ネットワーク化の取組を支援する。
- 住民の生活圏を考慮し、府外の医療機関との広域連携の構築に努める。

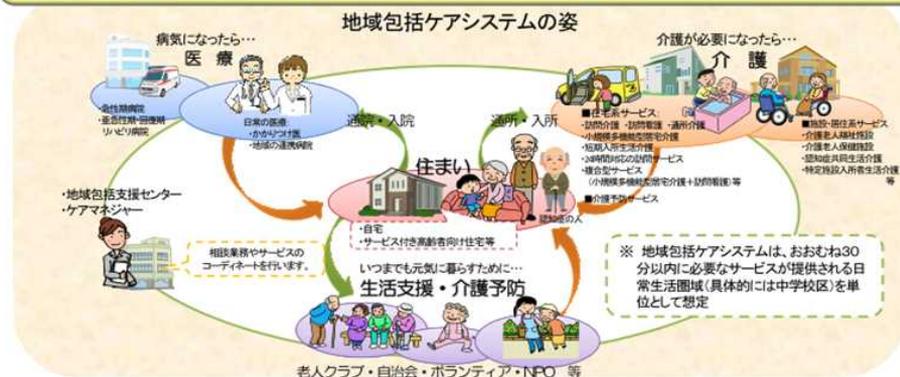
医療計画で言及されている内容を踏まえ、考察として挙げられる事項は下記のとおり

- 豊能医療圏は医療資源が充実した地域であるが、「地域全体として医療資源が限られる中で効果的に活用していく」という視点の重要性を示唆されている。
 - ▶ 新病院計画においても、地域内での役割分担とシナジー効果について考慮する必要がある。
- 在宅医療体制の充実についても重点項目として挙げられており、特に地域中核病院においては、在宅療養に対する後方支援機能の充実と、地域内での情報共有の取組の重要性が示唆されている。
 - ▶ 箕面市内唯一の中核病院として果たす役割について、検討する必要がある。

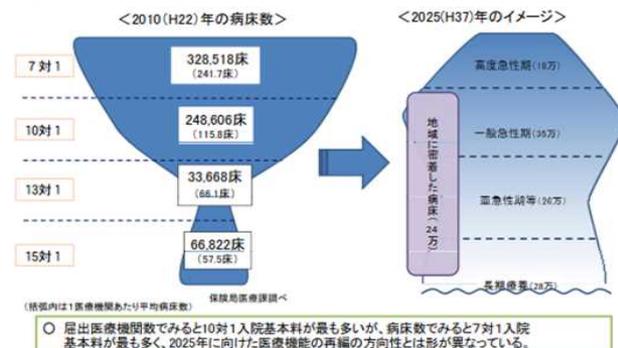
(4) 地域包括ケアシステムの概念

▼地域包括ケアシステムの概念図（厚生労働省ホームページより）

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目前に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**必要があります。



▼2025年に向けた病床再編の方向性

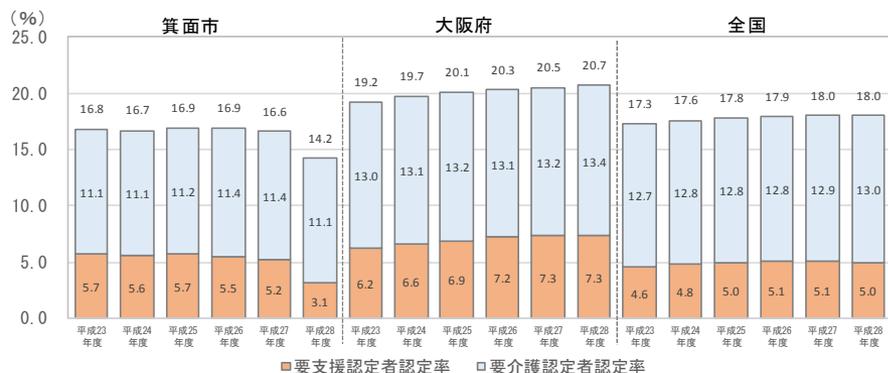


<出典> 中央社会保険医療協議会 2011年11月25日資料より

- 団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けた国の方向性として「地域包括ケアシステムの構築」が挙げられている。
- その地域の特性に合った「地域包括ケアシステムの構築」に向けて、病院をはじめ地域の関係主体とともに取り組んでいくことが求められている。

(5) 【介護動向】 箕面市民の要介護推移と原因疾患

▼要支援・要介護認定者数認定率（第1号被保険者）の推移



※要支援認定者認定率 = 要支援認定者数（第1号） / 第1号被保険者数
 要介護認定者認定率 = 要介護認定者数（第1号） / 第1号被保険者数

▼箕面市要支援・要介護認定者認定率（第1号被保険者）の推移



※「事業対象者」：2015年度より開始した「介護予防・日常生活支援総合事業」の対象者を示す。

▼年齢階層別の要支援・要介護認定率（2017年3月末）



※総務省統計局「人口推計」（2017年4月1日）

▼要支援・要介護の認定の原因疾患

疾患	要支援1・2		要介護1		要介護2～5		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 認知症	15	8.5%	37	46.8%	22	15.7%	74	18.7%
2 骨関節疾患	50	28.4%	8	10.1%	7	5.0%	65	16.5%
3 骨折	27	15.3%	5	6.3%	23	16.4%	55	13.9%
4 脳血管疾患	17	9.7%	7	8.9%	21	15.0%	45	11.4%
5 悪性新生物	18	10.2%	7	8.9%	19	13.6%	44	11.1%
6 廃用症候群	12	6.8%	4	5.1%	8	5.7%	24	6.1%
7 呼吸器疾患	4	2.3%	1	1.3%	9	6.4%	14	3.5%
8 難病	6	3.4%	4	5.1%	4	2.9%	14	3.5%
9 精神疾患	6	3.4%	3	3.8%	2	1.4%	11	2.8%
10 心疾患	6	3.4%	0	0.0%	4	2.9%	10	2.5%
11 腎・泌尿器疾患	2	1.1%	1	1.3%	4	2.9%	7	1.8%
12 糖尿病	3	1.7%	1	1.3%	0	0.0%	4	1.0%
13 その他	10	5.7%	1	1.3%	17	12.1%	28	7.1%
合計	176		79		140		395	

※2017年2月から5月までに新規認定された方の状況

箕面市における要介護者の特性等は主に下記のとおり

- 全国平均に比べて箕面市は要介護認定率が低い傾向にある。
- 比較的箕面市全体として介護予防の度合いが高い傾向と見られる。
- 要支援・要介護の原因疾患としては、認知症に加えて骨折や骨関節疾患が上位を占めている。

(6) 【介護動向】 第7期箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における今後の課題

第7期箕面市高齢者保健福祉計画・
介護保険事業計画の骨子

1. 基本理念 「ノーマライゼーション社会の実現」
- 介護予防と健康長寿の積極的な推進

2. 重点施策

- 健康で生きがいのある暮らしの推進
 - ・ 健康づくりと生活習慣病予防の推進
 - ・ 自立支援、介護予防・重度化防止の推進
 - 介護予防活動維持のための通いの場の充実
 - 社会参加や身体能力の状態に応じた対象別アプローチ
 - ・ 一般介護予防事業の推進
 - ・ 生きがい支援の充実、社会参加・参画の推進
- 地域包括ケアシステムの深化
 - ・ 日常生活圏域の見直し
 - ・ 地域包括支援センターの機能強化
 - ・ 総合事業の推進
 - ・ 生活支援コーディネータ機能の充実と日常生活支援の推進
 - ・ 在宅医療と介護の連携強化
 - ・ 権利擁護の推進
- 認知症高齢者支援策の充実
 - ・ 認知症予防と啓発の推進
 - ・ 認知症の早期発見・早期対応の推進
 - ・ 認知症高齢者の見守り・支援体制の強化
- 介護サービスの質の確保・向上と適正・円滑な運営
 - ・ 介護サービスの提供
 - ・ 介護サービスの基盤の充実と質の確保・向上
 - ・ 相談支援体制等
 - ・ 介護保険事業の適正かつ円滑な運営
- 安全・安心のまちづくりの推進
 - ・ 福祉のまちづくりの推進
 - ・ 高齢者の住環境の整備
 - ・ 災害時等における高齢者支援体制の確立

主な課題

- 総合事業や生活支援サービスの充実
 - ・ 総合事業の着実な実施に向けた、多様な主体の参画による多様なサービス提供
 - ・ 生活支援の担い手の養成や発掘等の地域資源の開発やネットワーク化などに取り組む生活支援コーディネータ機能の充実
- 在宅医療・介護連携の推進について
 - ・ 在宅療養者の増加や、在宅療養者の受け皿となる在宅診療医の確保に向けた取り組みの検討、退院時の医療機関から在宅への切れ目ない医療と介護サービスの連携
 - ・ 本人や家族が希望する在宅での看取りへの普及啓発
 - ・ 箕面市としては、急性期病床は充実している一方、慢性期病床数は不足している状況。往診を行う医師が市内に不足。医師の高齢化も課題
 - ・ 在宅療養の受け皿となる在宅療養支援病院が市内にガラシア病院1か所のみ（がんのターミナルケアの方のみ対応）
 - ・ 24時間・365日稼働の訪問看護ステーションが市内にない
 - ・ 介護が必要で医療が少ないかたの急変時対応の不足
 - ・ レスパイト機能を有した病院の不足
- 認知症施策の推進について
 - ・ 認知症予防の取組展開が必要
- 介護予防の推進について
 - ・ 高齢者の社会参加（介護予防推進員・ボランティア等）を通じた介護予防・機会づくりの推進
- 介護サービスの充実について
 - ・ 今後増加する医療ニーズを有する在宅高齢者への対応
 - ・ 医療的ケアが必要になっても在宅で生活が送ることができる限界点を高める
- 安全、安心、快適に暮らせる住まいについて
- 権利擁護の推進について

箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で言及されている内容を踏まえ、
考察として挙げられる事項は下記のとおり

- 高齢者福祉の観点から医療・介護・地域包括ケアシステムに関連する課題認識は
下記の内容が挙げられる。
 - 慢性期病床・レスパイト機能を有した病床の不足
 - 往診を行う医師の不足（医師自身の高齢化）
 - 在宅療養支援病院をはじめとした後方支援体制の不足
 - 24時間365日稼働の訪問看護ステーションの不足

第1項 医療・介護の動向

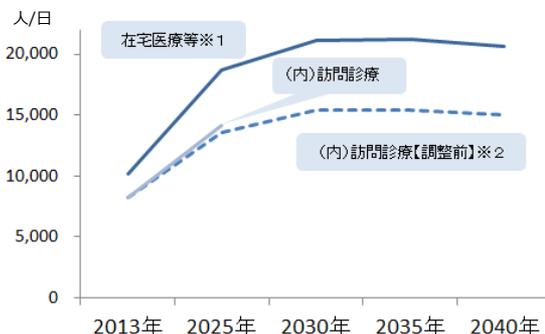
(7) 在宅医療の動向

*在宅療養支援病院：200床未満か半径4km以内に診療所のない地域において、在宅医療の主たる担い手となっている病院。

*在宅療養後方支援病院：200床以上の病院で、緊急時に入院を希望する病院としてあらかじめ届け出ている患者が緊急時に陥ったとき対応し、必要があれば入院を受け入れる。入院希望患者に対して在宅医療を提供している医療機関と連携し、3月に1回以上、診療情報の交換をしていることが条件。

- 医療（介護）資源は圏域北部が不足しているため、圏域内の医療機関との連携はもとより、住民の生活圏を考慮した広域連携等により、安定した訪問診療体制の確保を行う必要がある。
- 24時間365日在宅医療を可能とするためには、在宅医療を担う医療関係者の確保、後方支援体制の構築等の課題を克服する必要がある。

▼在宅医療等の需要見込み



▼訪問診療の需要見込み

市町村名	2013年	2020年	2023年	2025年	2013～2025年の伸び率
豊中市	3,266	4,453	5,003	5,382	1.65
池田市	894	1,220	1,371	1,474	1.65
吹田市	2,685	3,788	4,294	4,642	1.73
箕面市	999	1,553	1,806	1,978	1.98
豊能町	226	337	385	418	1.85
能勢町	132	169	186	197	1.49
豊能	8,202	11,520	13,045	14,091	1.72
大阪府	65,964	94,033	107,202	116,193	1.76

単位：人/日

※1：2013年度の需要は、訪問診療分と2013年度の介護老人保健施設の月当たりの施設サービス利用者数（大阪府高齢者計画2012の検証より）の総計を参考値として掲載。

※2：地域医療構想の実現に向けた病床機能分化・連携に伴い生じる追加的需要による「訪問診療」分を追加する前の値。

▼主な在宅医療資源の状況（施設数）

市	届出施設数	退院支援加算		在宅療養支援		訪問看護ステーション		訪問看護ステーション機能強化型		訪問診療を実施している診療所		在宅療養支援診療所		在宅療養支援病院		在宅療養後方支援病院	
		人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対	人口10万人対		
箕面市	3	2.2	15	11.2	12	9	0	0	32	24.0	24	18.0	1	0.7	0	0	
吹田市	8	2.1	50	13.4	40	10.7	1	0.3	56	15.0	57	15.2	1	0.3	2	0.5	
豊中市	14	3.5	44	11.1	43	10.9	0	0	109	27.6	85	21.5	3	0.8	0	0	
池田市	3	2.9	9	8.7	12	11.6	1	1.0	22	21.3	21	20.4	0	0	0	0	
豊能町	0	0	2	10	2	10	0	0	6	30.1	3	15.0	0	0	0	0	
能勢町	0	0	0	0	0	0	0	0	2	19.5	2	19.5	0	0	0	0	
豊能医療圏	28	2.7	120	11.6	109	10.5	2	0	227	21.9	192	18.5	5	0.48	2	0.19	
大阪府	248	2.8	1,041	11.8	1,010	11.4	33	0	1,990	22.5	1,859	21.0	110	1.24	33	0.37	

- 医療計画・箕面市介護保険事業計画で言及されている在宅医療に対する状況は下記のとおり
 - 箕面市において、今後訪問診療ニーズは大きく増加すると予測される。
 - 豊能医療圏北部（箕面市北部・豊能町・能勢町）については、地域内での連携とともに広域的に訪問診療体制を確保する必要がある。
 - 箕面市は、人口あたりの訪問看護ステーション・在宅療養支援診療所・在宅療養後方支援病院の数は、大阪府平均よりも少ない傾向である。

1. 医療・介護動向

豊能医療圏における病院の整備状況並びに立地状況について、医療動向・介護動向及び在宅医療の観点から整理を行った。

(1) 第7次大阪府保健医療計画（府医療計画）

■計画期間 2018年度～2023年度

■医療法に基づき都道府県が策定する計画で、大阪府内の医療提供体制に係る施策方向性を示す。疾病領域・医療圏ごとに、現状の課題認識及び施策の方向性、取組内容（中間・最終）が記載されている。

(2) 豊能医療圏の5疾病4事業に対する状況

■府医療計画で言及されている豊能医療圏の5疾病4事業の状況は下記のとおり。

- **がん** : がん治療を行う病院数は、人口10万人対でみると府平均よりも少ないが、病床数は、緩和ケア病床以外で府平均を上回っている。
- **脳血管疾患** : 脳血管疾患治療を行う病院数は、人口10万人対でみると府平均より少ないが、病床数は、府平均を上回っている。
- **心血管疾患** : 心血管疾患患者の在院日数が府平均と比べて長い傾向にあり、慢性心不全を含めた急性期から慢性期までの医療連携体制の構築が課題とされている。
- **糖尿病** : 重症化予防（患者教育）を行う施設数は、人口10万人対でみると府平均より少ない。
- **精神疾患** : 身体・精神合併症患者の受入に対応可能な病院は2病院。地域全体での受入体制について、今後課題整理を行っていく。
- **救急医療** : 救急搬送件数は増加傾向。不要不急の搬送件数が増加していることが救急医療の負担となっているため、適正な救急車利用の啓発が課題
- **災害医療** : 地域災害拠点病院として2施設（大阪大学医学部附属病院、大阪府済生会千里病院）が指定されているが、救急病院のBCP（事業継続計画）策定率は低く、未整備が多い状況が課題
- **周産期医療** : 産科病床数は減少傾向だが、豊能医療圏内での自己完結率は高い。
- **小児医療** : 小児医療・小児救急体制は比較的安定した体制が確保できている。医療的ケアが必要な小児の在宅支援体制（訪問診療・訪問看護・レスパイト体制・相談支援体制）等の充実が課題とされている。

(3) 第7期箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（市高齢・介護計画）

■計画期間 2018年度～2020年度

■老人福祉法及び介護保険法に基づき市町村が策定する計画で、箕面市における高齢者保健福祉施策及び介護保険事業の方向性と円滑な実施のための基本的事項を示す。高齢者を取り巻く現状や課題、計画の基本的考え方、施策内容が記載されている。

■市高齢・介護計画で言及されている、医療に関連した課題認識は下記のとおり。

- 在宅療養支援病院をはじめとした支援体制の不足
- 往診を行う医師の不足

(4) 在宅医療の状況

■府医療計画、市高齢・介護計画で言及されている在宅医療に対する状況は下記のとおり。

- 箕面市において、今後訪問診療ニーズは大きく増加すると予測される。
- 豊能医療圏北部（箕面市北部・豊能町・能勢町）については、地域内での連携とともに広域的に訪問診療体制を確保する必要がある。
- 箕面市は、人口あたりの訪問看護ステーション・在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院の数は、大阪府平均よりも少ない傾向である。

2. 医療・介護の行政動向のまとめ

■各種行政計画等での言及内容について、特に当院の新病院計画において考慮・検討が必要と思われる事項は下記のとおり。

- **がん診療** 緩和ケア病床のあり方、放射線治療のあり方
- **心血管疾患** 地域医療連携体制の中での当院の役割
- **救急医療** 今後の件数増加への対応のあり方
精神科合併患者（認知症を含む）への対応のあり方
- **小児医療** 医療的ケアが必要な小児に対する在宅医療支援体制への対応のあり方
- **在宅医療の支援** 在宅医療への対応のあり方（後方支援体制の構築を含む）

第2部 内部環境の把握と分析

第4章 当院の診療機能状況

調査概要

診療機能状況を整理するに当たり、下記の流れで分析を実施する。

第1項：診療科別の稼働状況

- 1. ベンチマーク比較に適切な条件(経営状況が良好かつ診療機能が当院と同等以上)を設定する。
- 2. 設定した比較病院と病院収入に関わる項目(医師当たり患者数、医師当たり稼働額、診療単価)を診療科別に比較する。

第2項：医療機能別の稼働状況

- 3. 救急受入件数の推移と全身麻酔手術件数の実施状況を整理する。

第3項：来院患者の満足度状況

- 4. 箕面市立病院で実施した患者満足度調査内容を整理する。

第1項 診療科別の稼働状況

(1) ベンチマーク病院の設定方法

内部環境(院内データ)については、年度ごとの変遷を確認するのに加え、内容に応じた客観的参考資料として「類似規模・類似機能病院」のベンチマークデータ等を合わせて添付している。なお、本報告書の目的が「独立採算を見据えた課題抽出」であることから、経営状況が良好であり、かつ診療機能が当院と同等以上と想定される公的病院グループ内の病院のうち、2016年度の実績が下記の条件を満たす8病院を「ベンチマーク病院」として抽出している。

- 病床数：平成28年の病床機能報告制度における病床数が270床～400床
(今回対象となる病院は全て、主に急性期病床を保有する病院)であること。
- 一般病棟入院基本料(7対1)、DPC対象病院であること。
- 2次救急病院であること。
- 入院診療単価が45,000円台～65,000円であること。(*)
- 院外処方率75%以上であること。
- 外部負担金がなく、減価償却前において医業収支が黒字であること。

(*) 参考：一般病院における入院診療単価の平均：52,089円
(独立行政法人福祉医療機構 2015年度決算分 福祉・医療施設・事業の経営状況「全病床数の80%以上が一般病床である一般病院」の総数(サンプル数505施設)における平均(室料差額は除く))

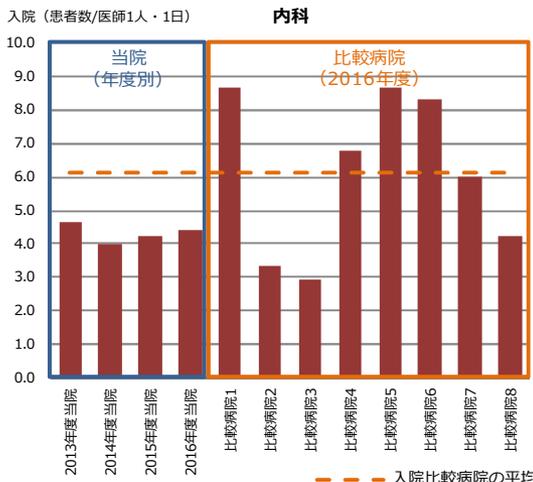
▼ベンチマーク病院の概要

	当院 (2016年度)	平均	比較病院1	比較病院2	比較病院3	比較病院4	比較病院5	比較病院6	比較病院7	比較病院8
病床数(床)	317	330	386	344	300	350	340	328	316	276
高度急性期	13		0	18	10	8	101	28	6	40
急性期	254		364	326	290	342	239	300	265	236
回復期	50		0	0	0	0	0	0	45	0
慢性期	0		22	0	0	0	0	0	0	0
1日あたり入院患者数(人)	274	274	285	302	213	290	292	270	285	257
病床稼働率	86.4%	83.4%	73.8%	87.8%	71.0%	82.9%	85.9%	82.3%	90.2%	93.1%
1日あたり外来患者数(人)	732	579	559	757	651	546	507	537	496	576
入院外来比(外来/入院)	2.67	2	1.96	2.51	3.06	1.88	1.74	1.99	1.74	2.24
入院診療単価(円)	55,912	54,956	56,038	62,460	56,448	58,986	55,862	54,603	45,787	49,464
外来診療単価(円)	12,114	14,858	13,708	10,728	12,984	18,908	18,898	12,783	12,880	17,974
院外処方箋率	—	91.7%	83.4%	93.4%	96.9%	92.2%	96.9%	94.7%	99.8%	75.9%
償却前医業収益(千円)*	-370,602	—	344,525	557,647	446,019	577,885	543,209	294,730	648,563	293,731
償却後医業収益(千円)*	-1,090,707	—	-57,546	-14,101	-66,269	184,227	142,272	-22,817	69,143	-486,641
(参考) 主な建物の竣工年	本館： 1981年 リハ棟： 1996年	—	1987年	2010年 2011年	2008年	1982年	1989年 1997年 2007年	2010年	2010年	2015年

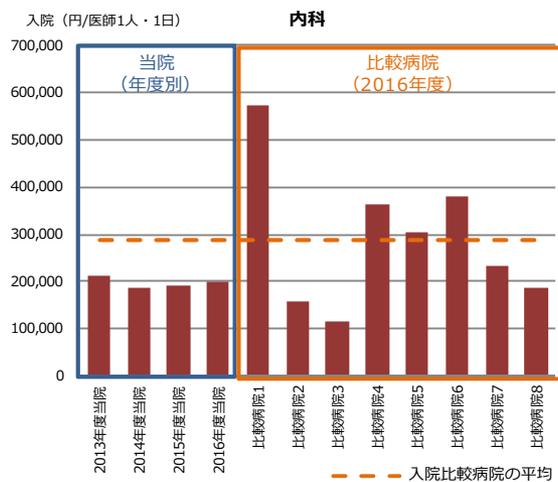
*ベンチマーク病院の勘定科目と合わせた上での表記のため、当院公式決算数値とは異なる

(2) 診療科別の稼働状況(患者数・収入)

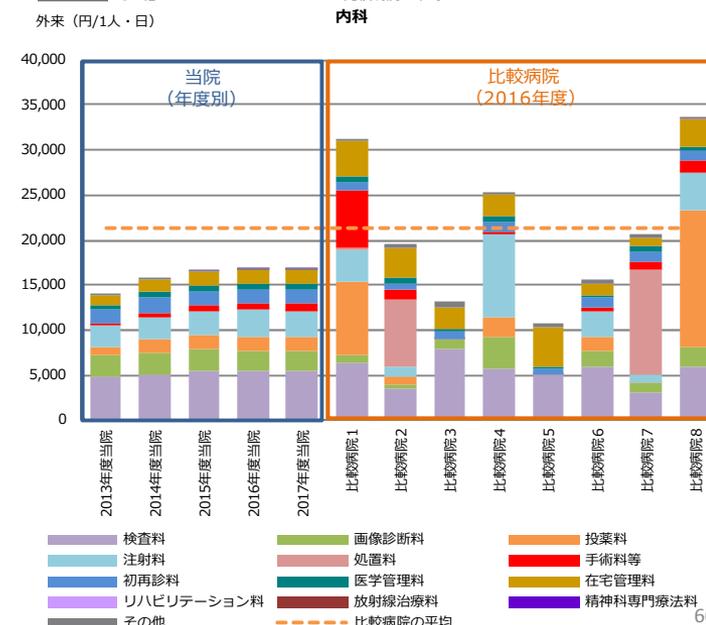
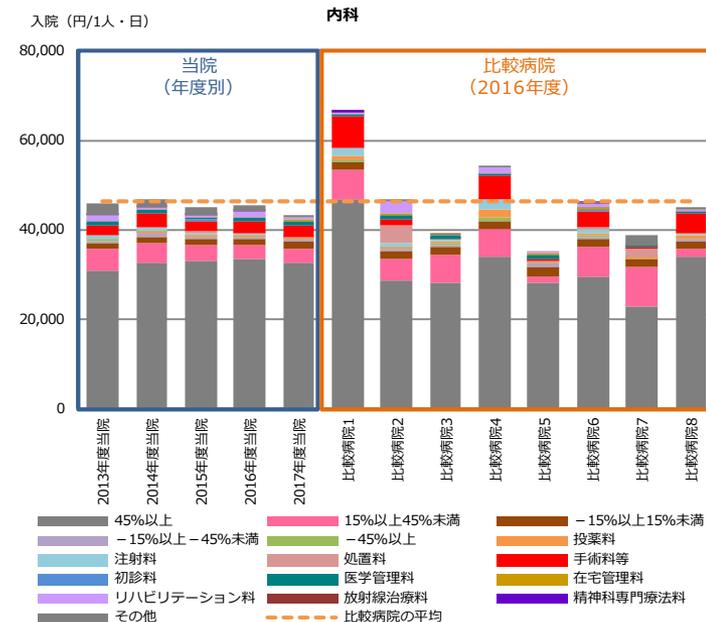
医師あたり患者数



医師あたり稼働額



行為別診療単価

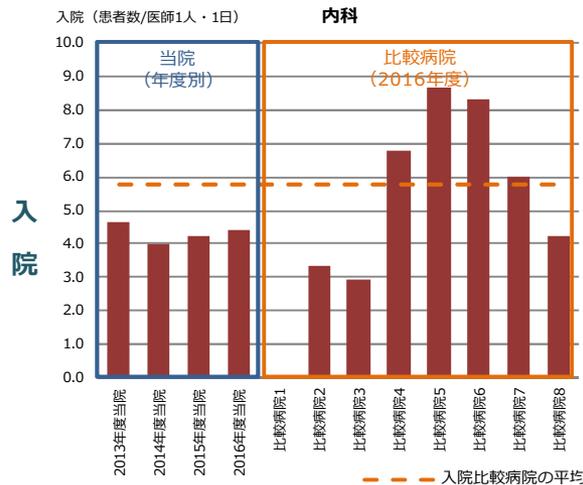


入院

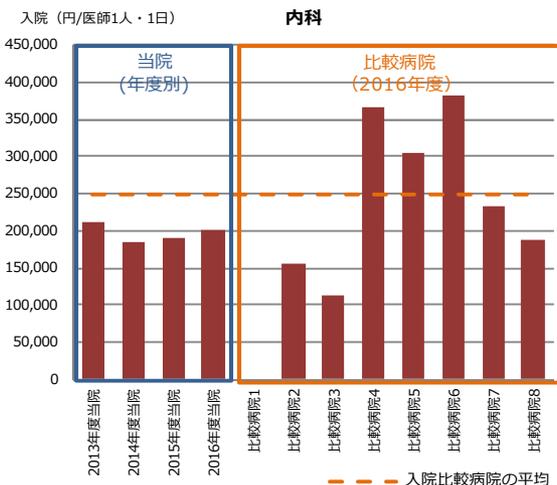
外来

■入院・外来とも、比較病院1の診療単価が突出しているため、次項にて比較病院1を省いて再比較を行う。

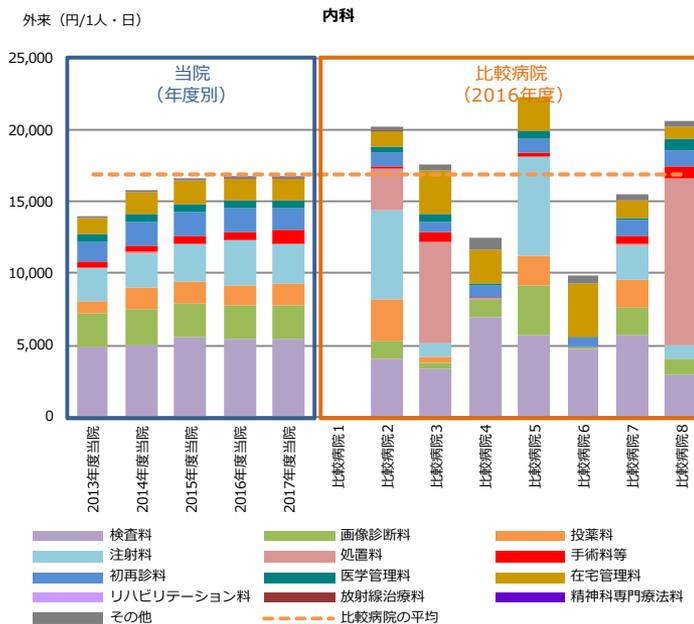
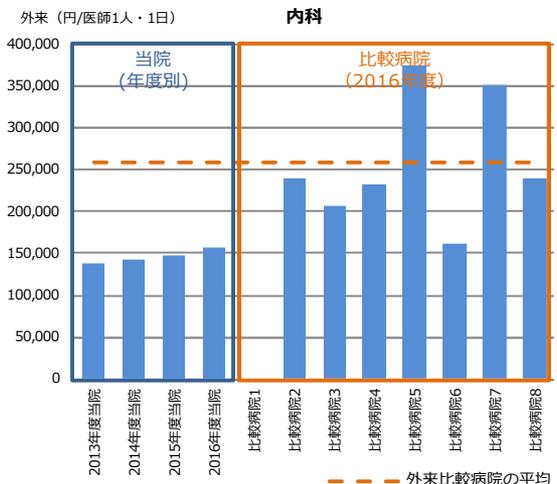
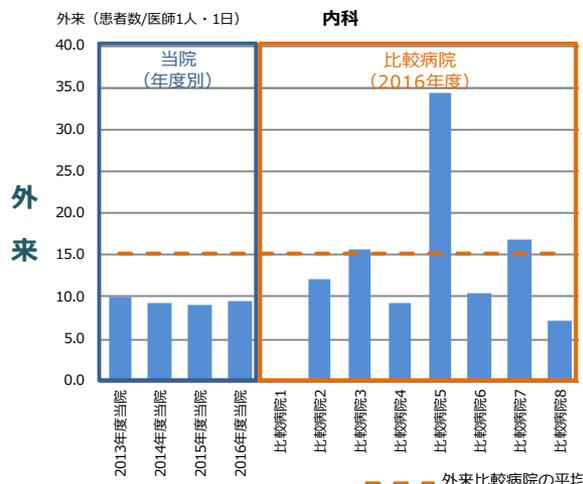
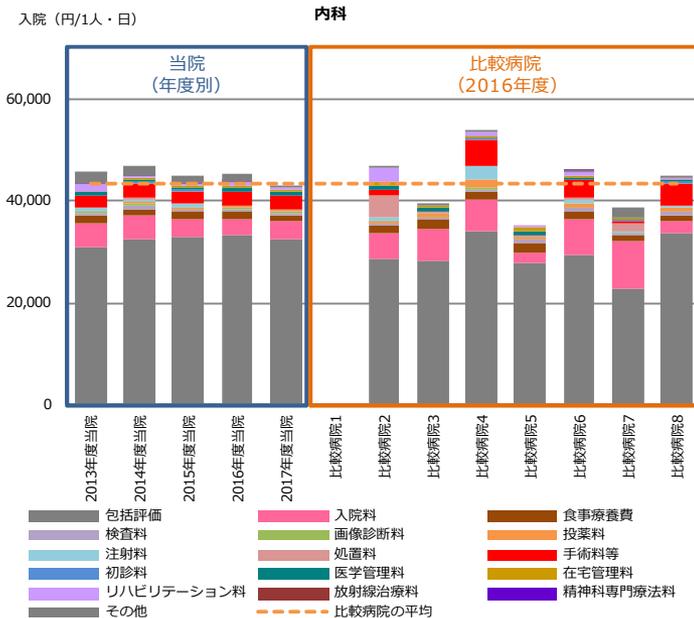
医師あたり患者数



医師あたり稼働額

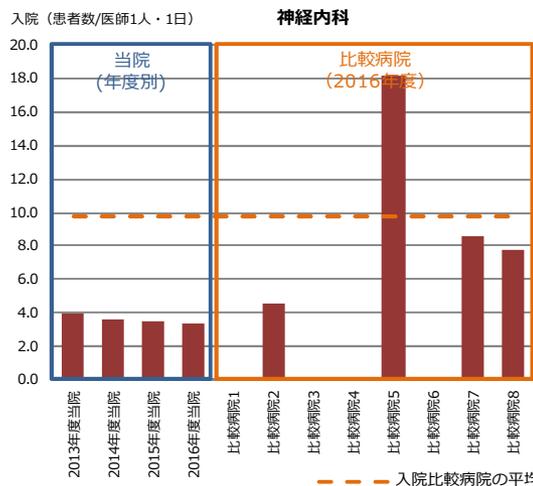


行為別診療単価

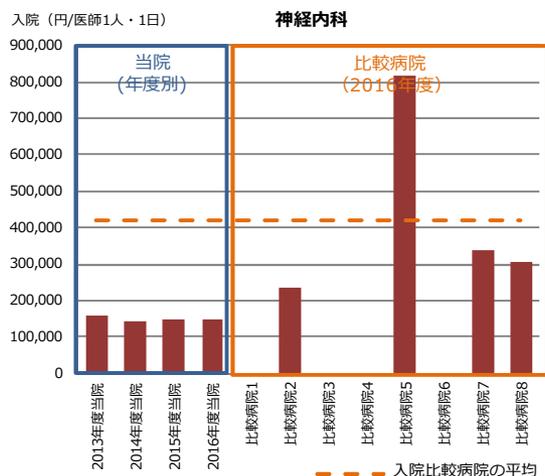


診療単価は同等程度であるが、入院・外来ともに医師あたり患者数が若干少なく、外来は医師あたり稼働額が若干低い。

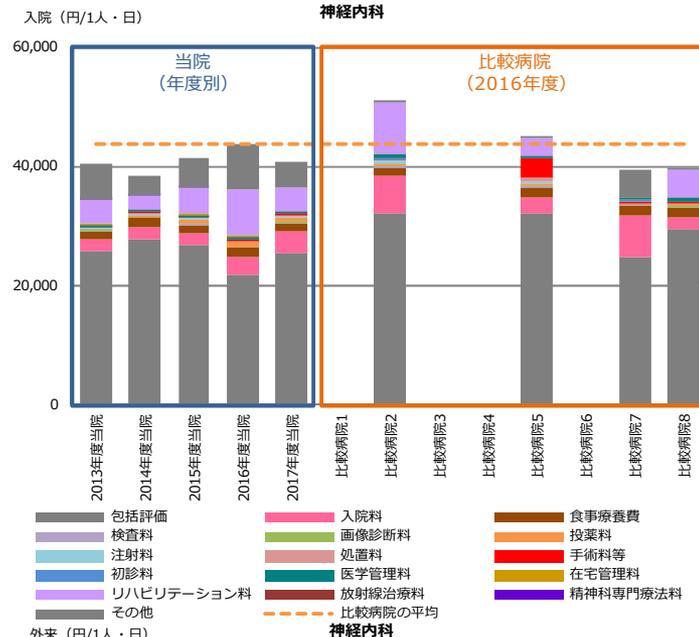
医師あたり患者数



医師あたり稼働額

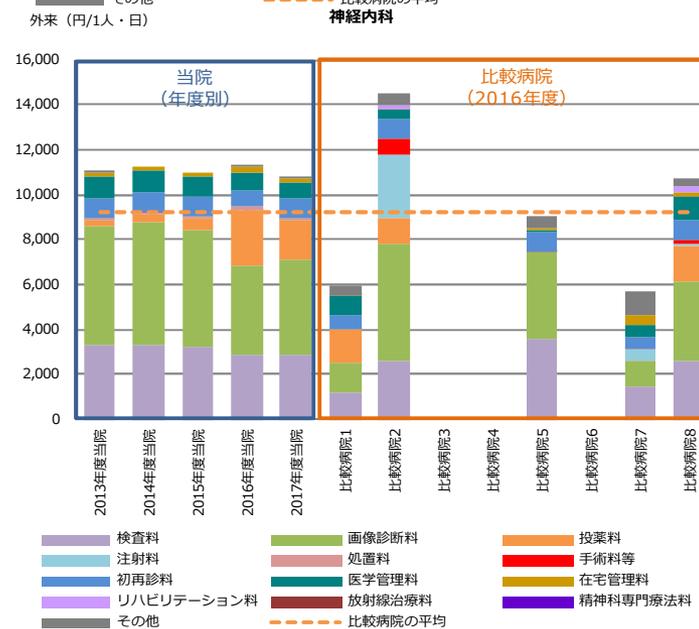
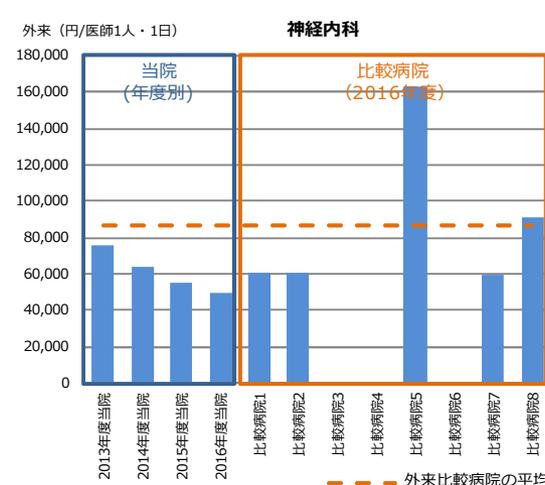
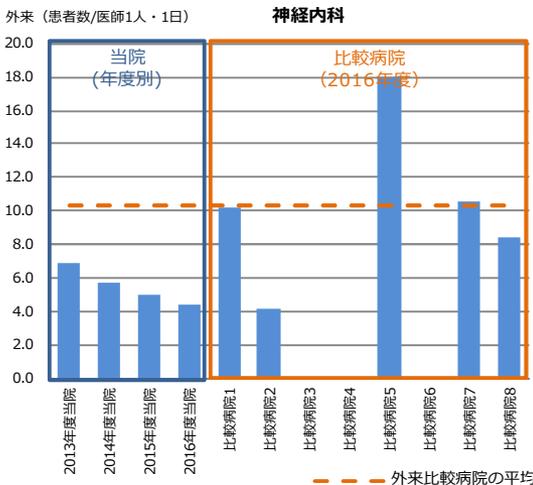


行為別診療単価



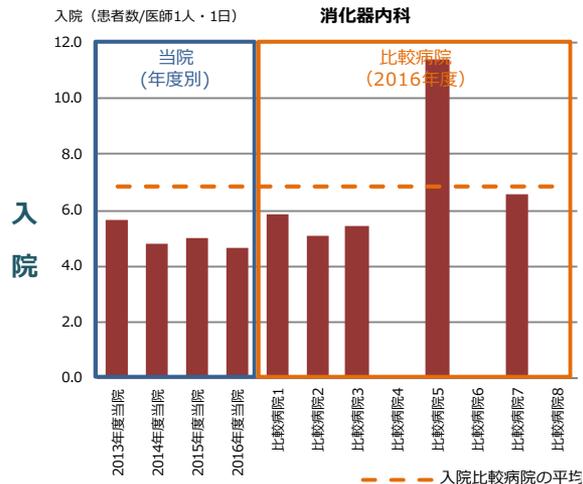
入院

外来

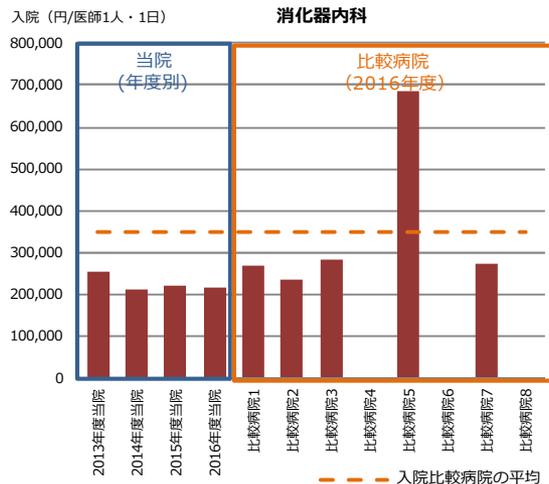


外来の診療単価は若干高いが、入院・外来ともに医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。

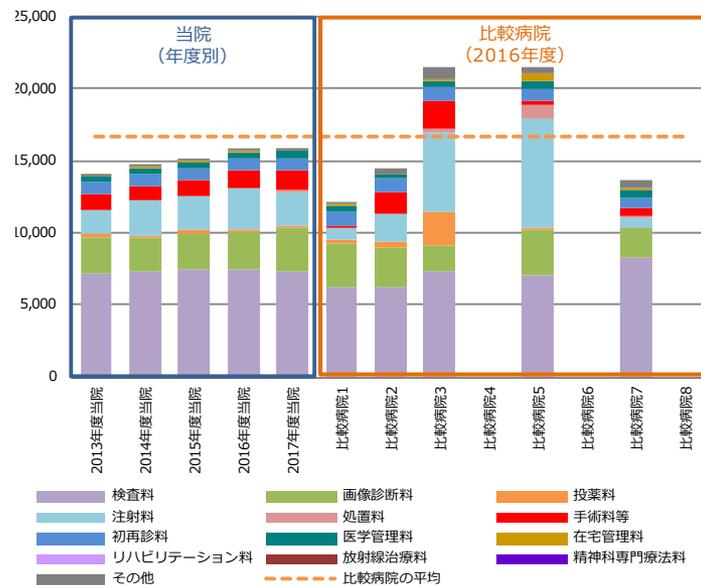
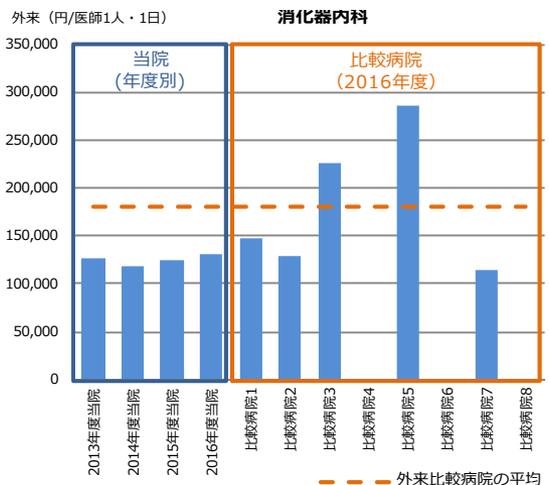
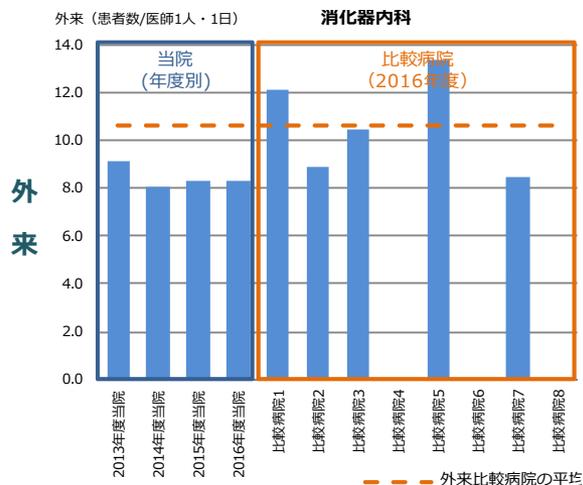
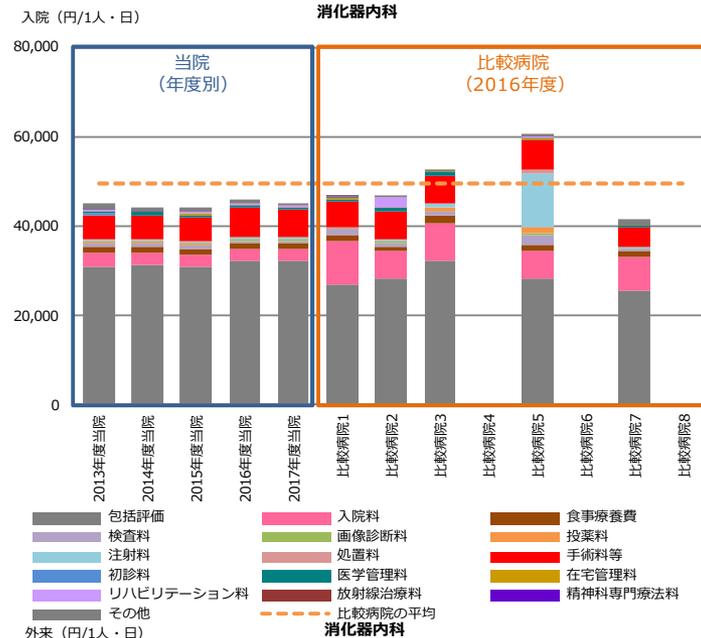
医師あたり患者数



医師あたり稼働額



行為別診療単価



診療単価は同等程度であるが、入院・外来ともに医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。

医師あたり患者数

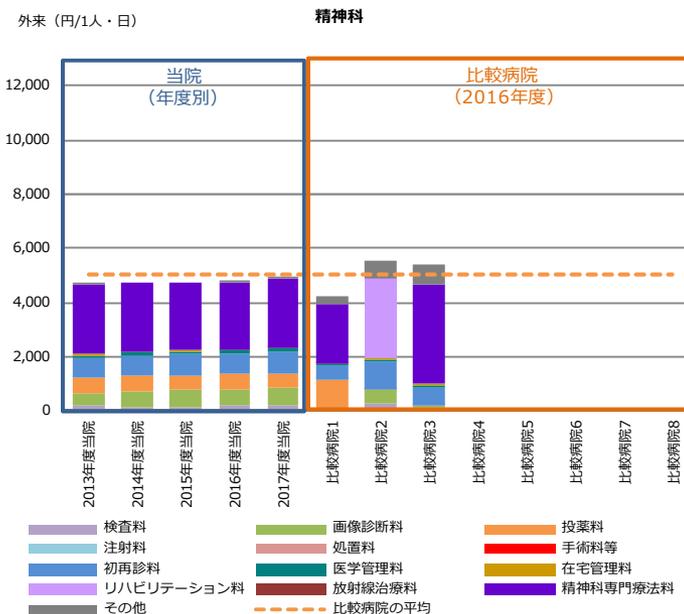
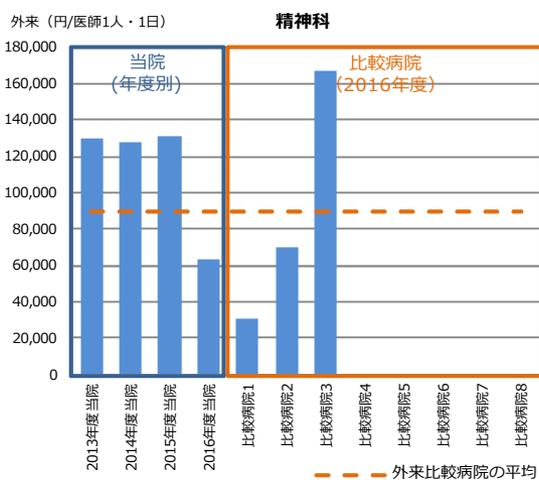
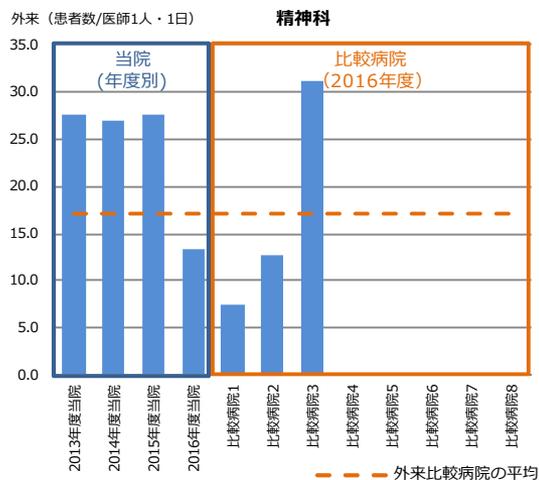
医師あたり稼働額

行為別診療単価

入院

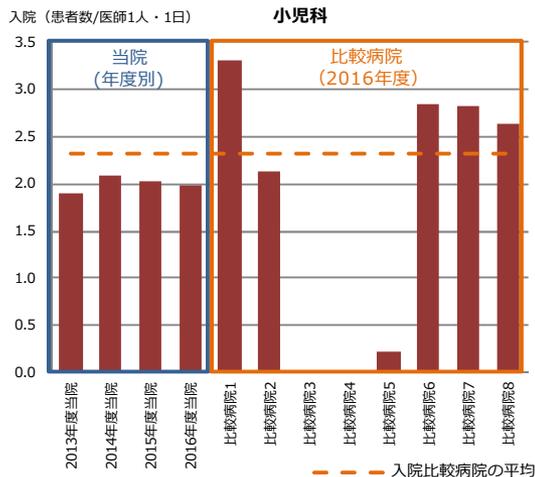
精神科による入院治療は未実施のため掲載データなし

外来

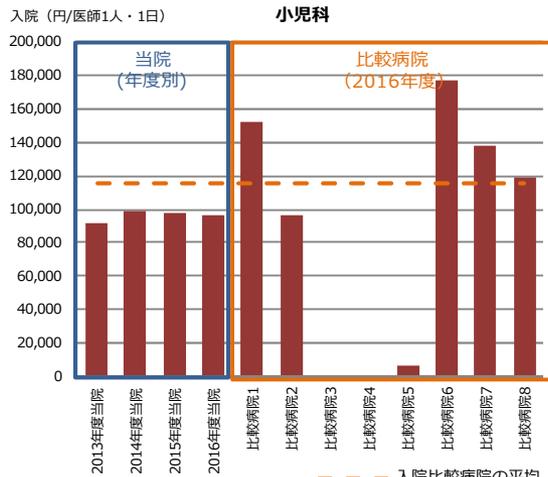


診療単価は同等程度であるが、医師あたり患者数・稼働額は若干低い。

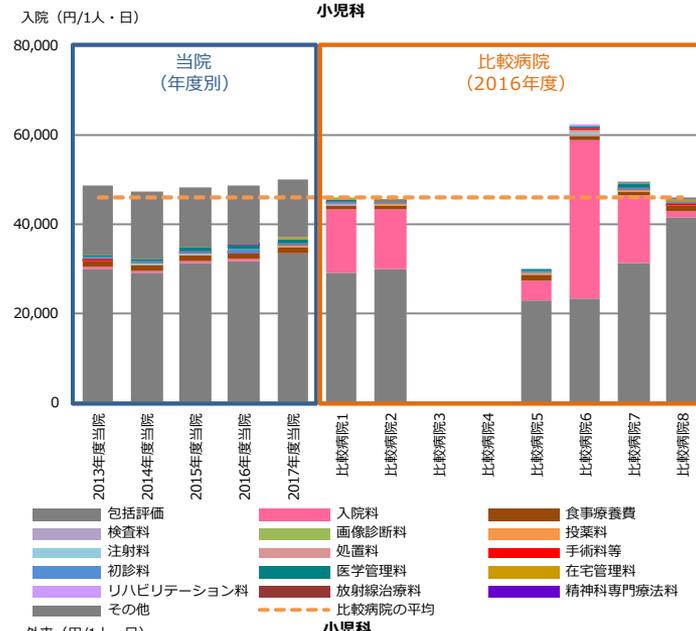
医師あたり患者数



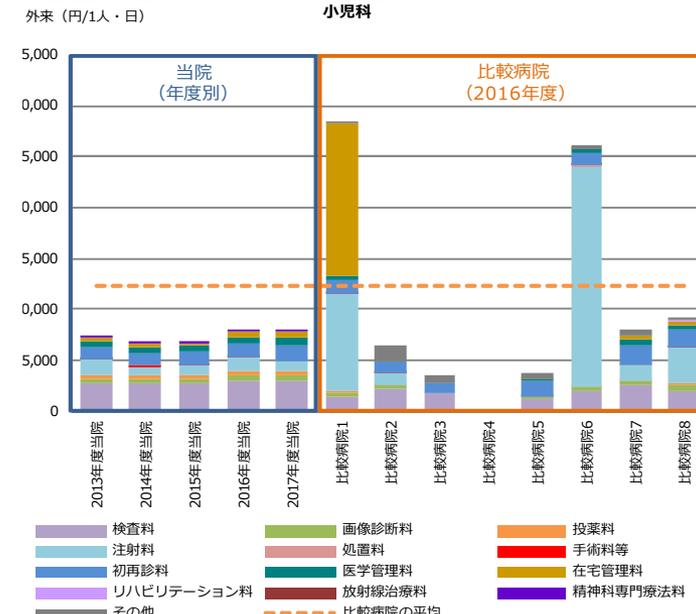
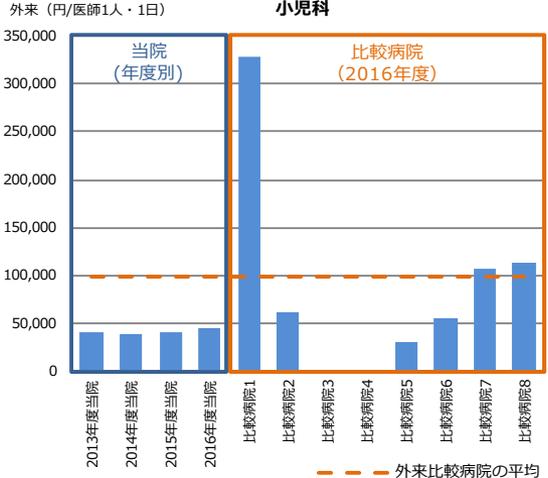
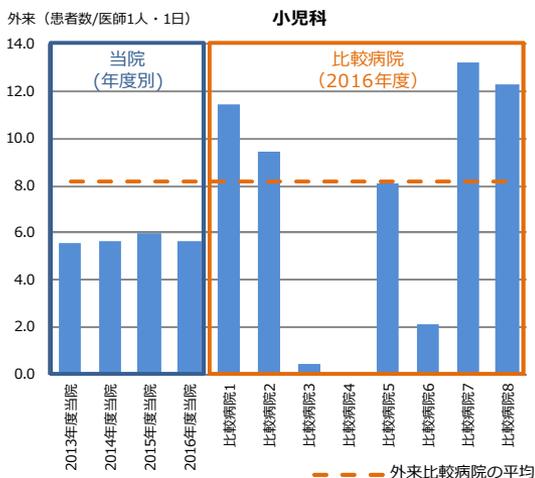
医師あたり稼働額



行為別診療単価

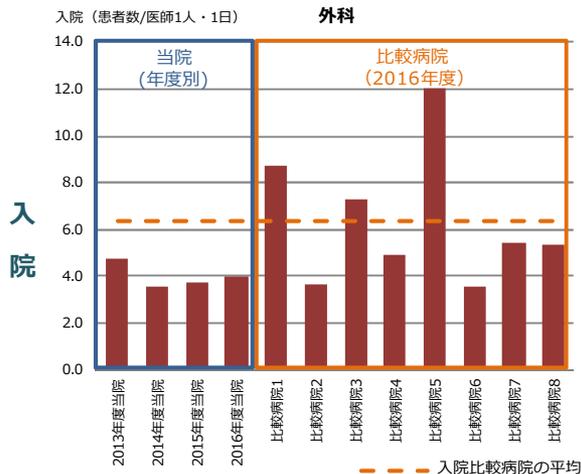


外来

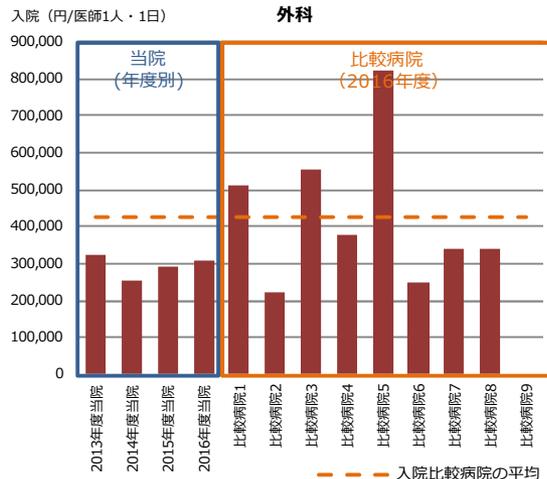


入院は全ての項目において同等程度。外来は診療単価が若干低く、医師あたり患者数も若干少ないため、稼働額の低さに繋がる。

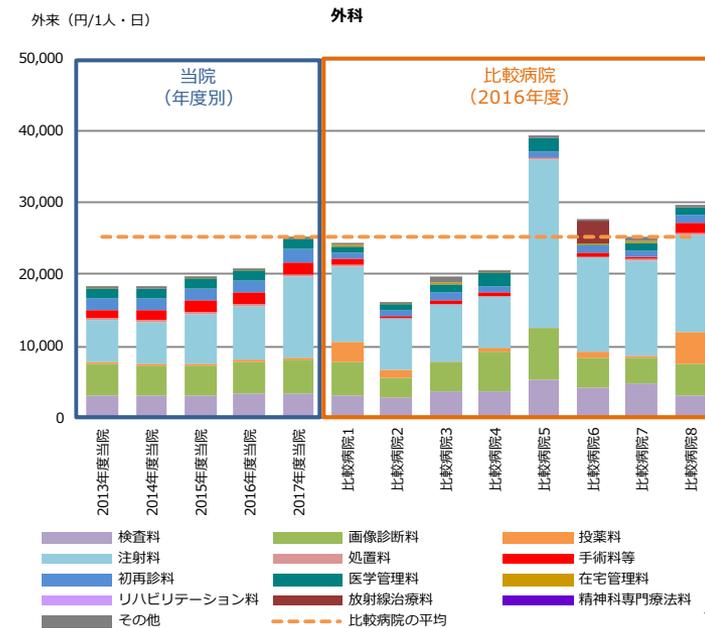
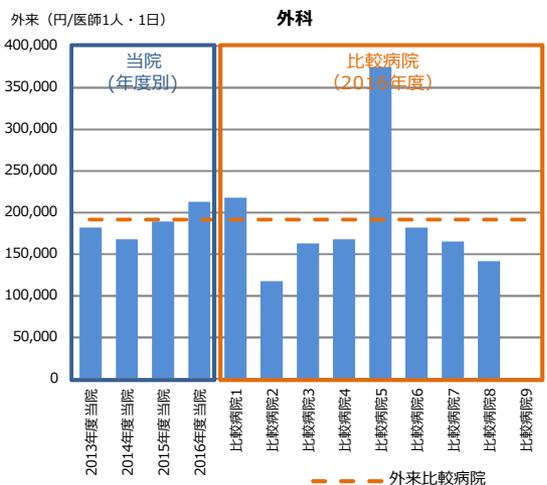
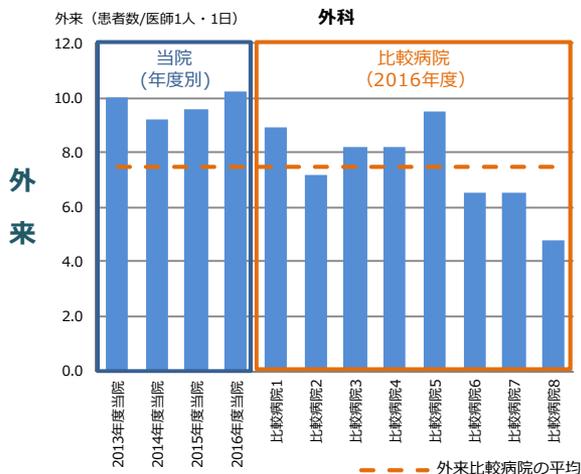
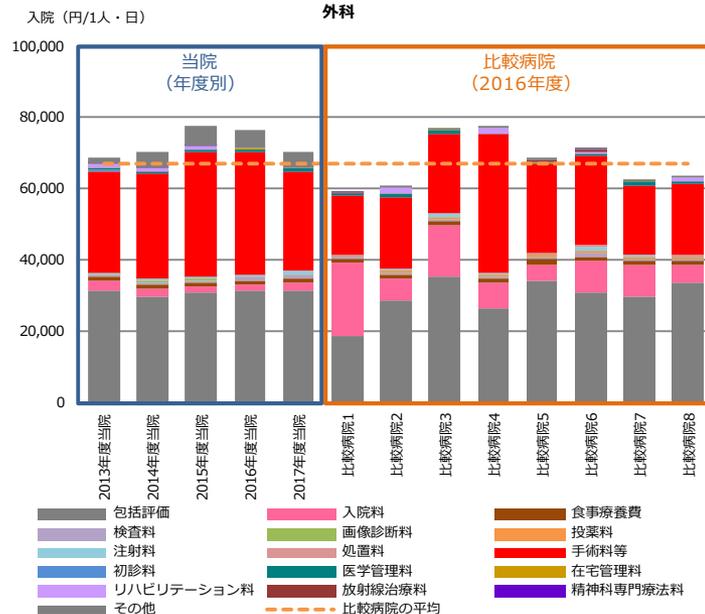
医師あたり患者数



医師あたり稼働額

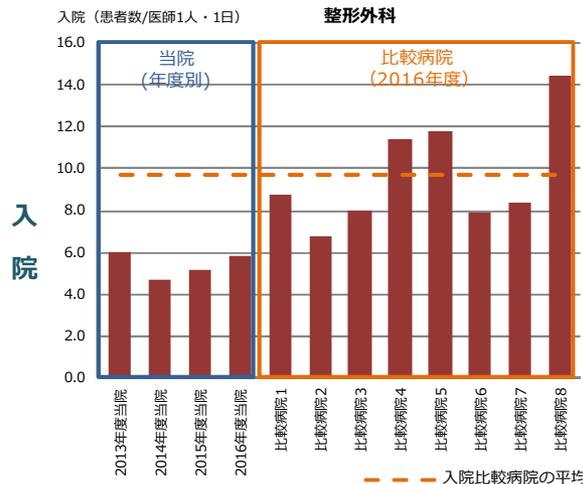


行為別診療単価

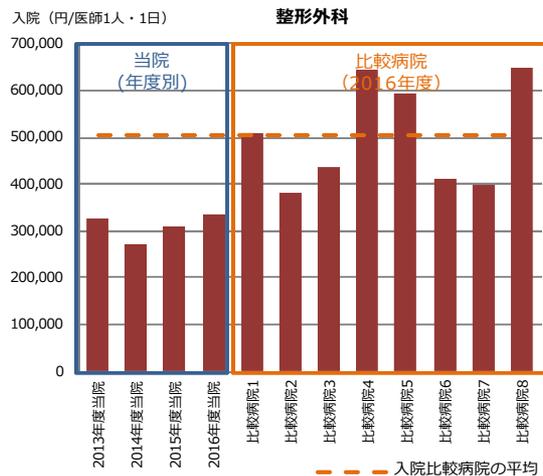


診療単価は同等程度であるが、入院は医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。外来は医師あたり患者数が若干高いが、稼働額は同等程度

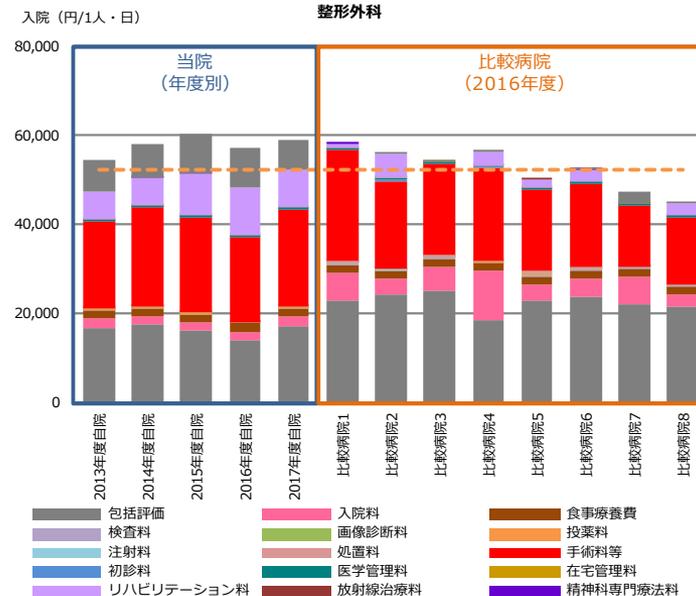
医師あたり患者数



医師あたり稼働額

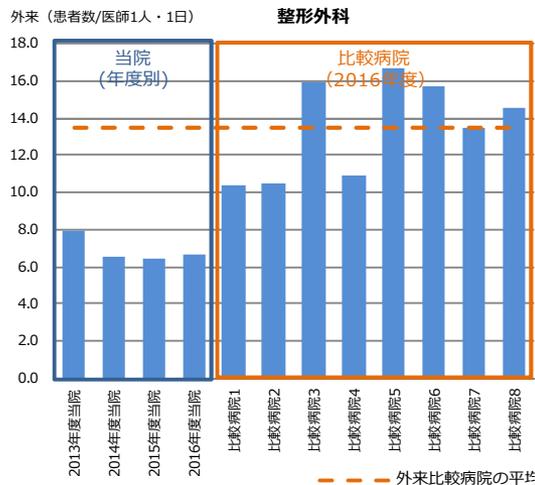


行為別診療単価

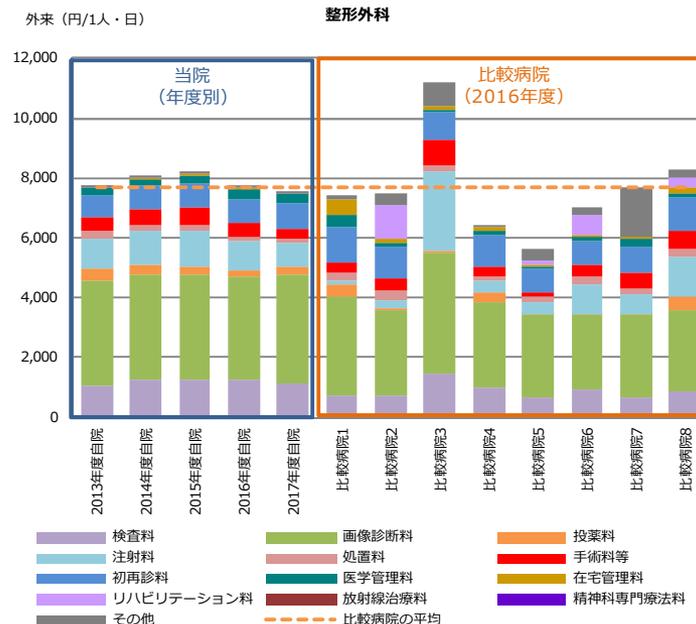
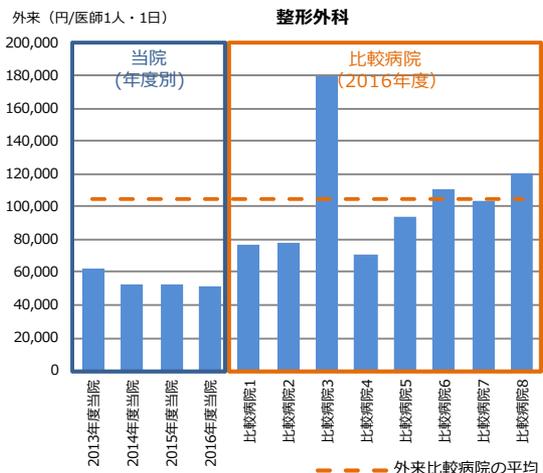


外来

整形外科

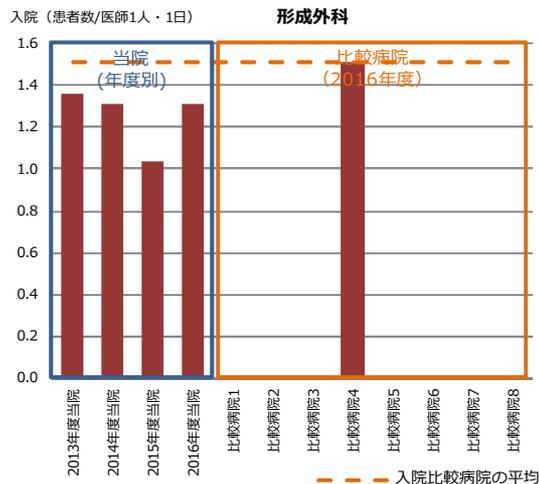


整形外科

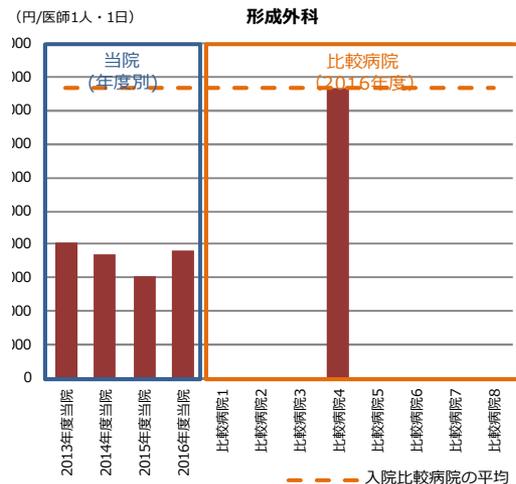


入院は医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。外来は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。

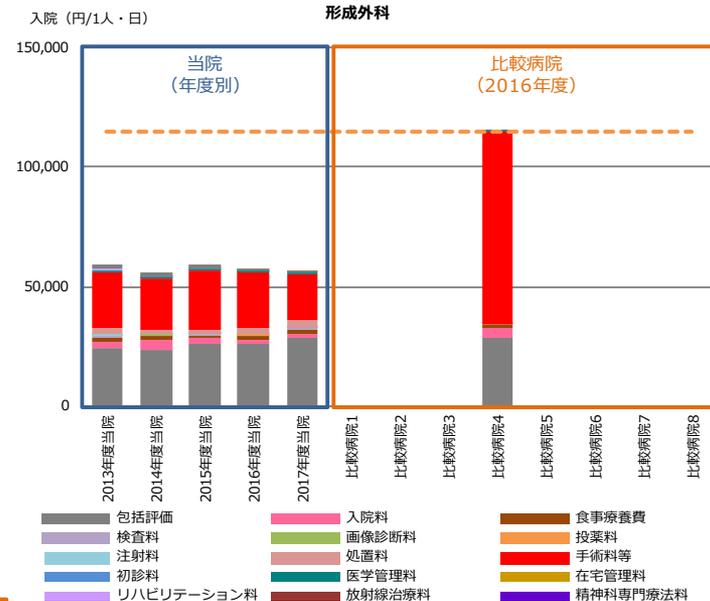
医師あたり患者数



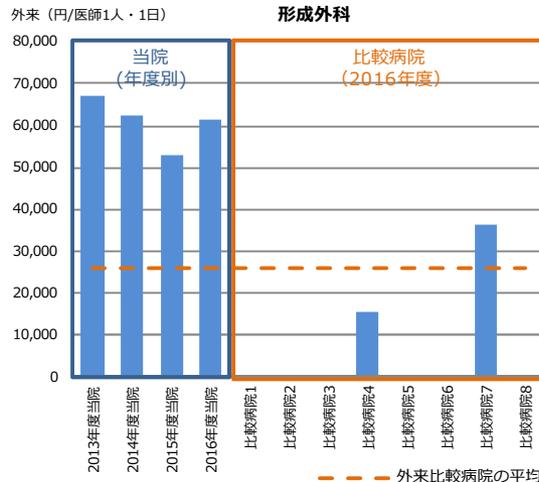
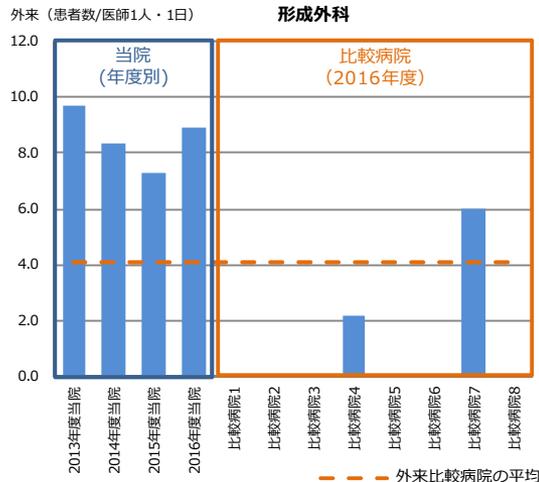
医師あたり稼働額



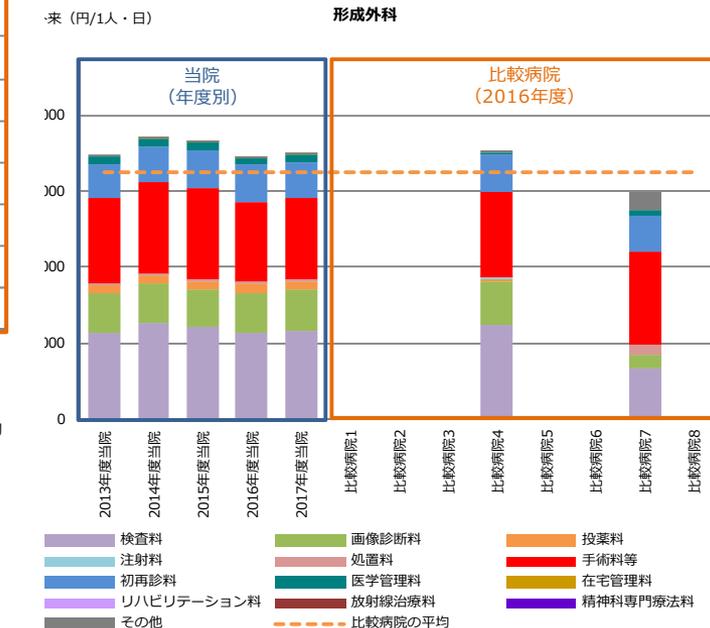
行為別診療単価



入院



外来

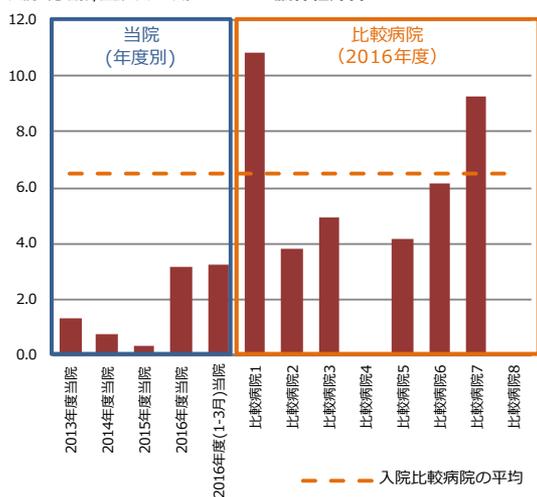


入院は診療単価が若干低く、稼働額の低さに繋がる。外来は医師あたり患者数・稼働額とも高い。

医師あたり患者数

脳神経外科

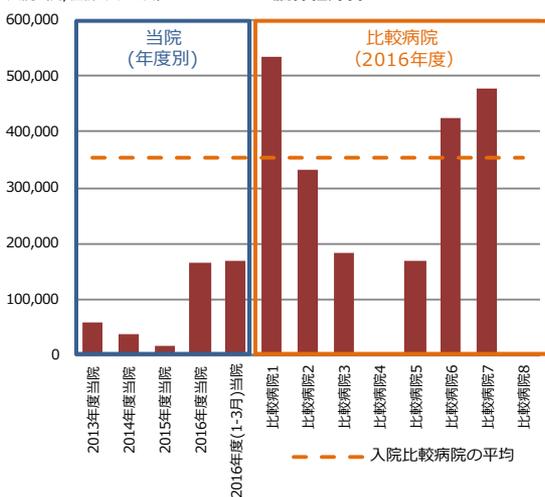
入院 (患者数/医師1人・1日)



医師あたり稼働額

脳神経外科

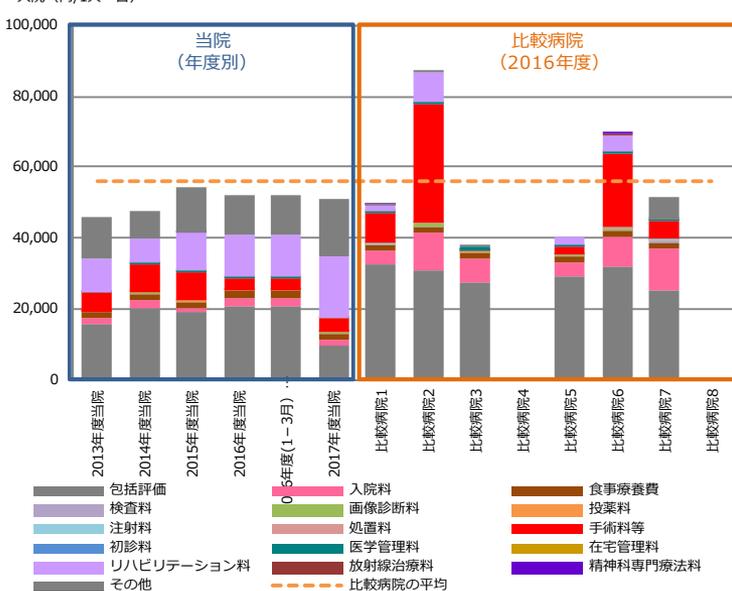
入院 (円/医師1人・1日)



行為別診療単価

脳神経外科

入院 (円/1人・日)

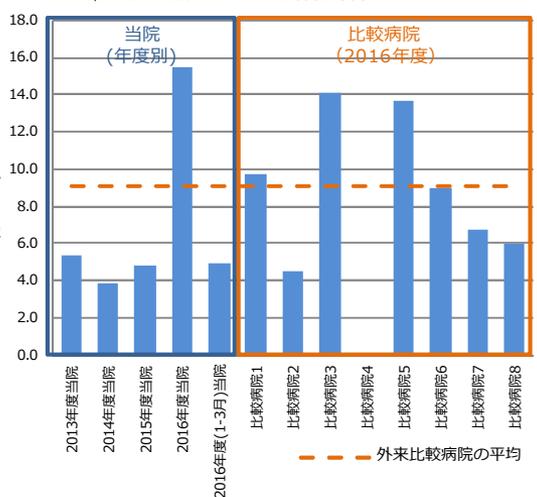


- 包括評価
- 検査料
- 画像診断料
- 注射料
- 初診料
- リハビリテーション料
- その他
- 入院料
- 投薬料
- 処置料
- 医学管理料
- 放射線治療料
- 食事療養費
- 手術料等
- 在宅管理料
- 精神科専門療法料

外来

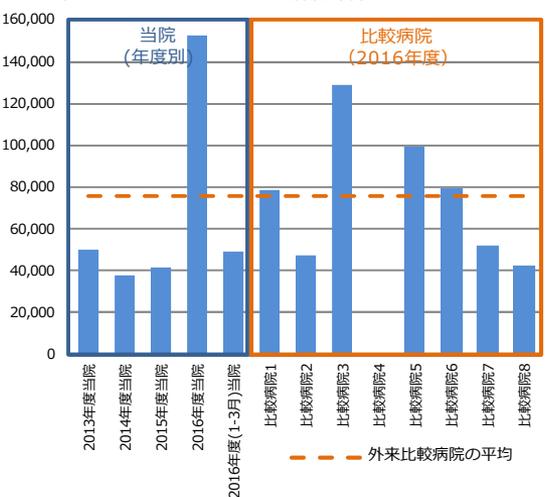
脳神経外科

外来 (患者数/医師1人・1日)

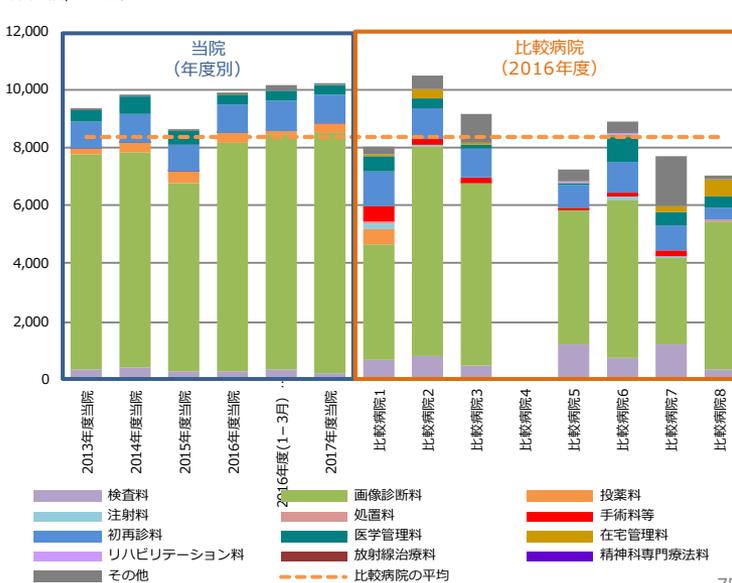


脳神経外科

外来 (円/医師1人・1日)



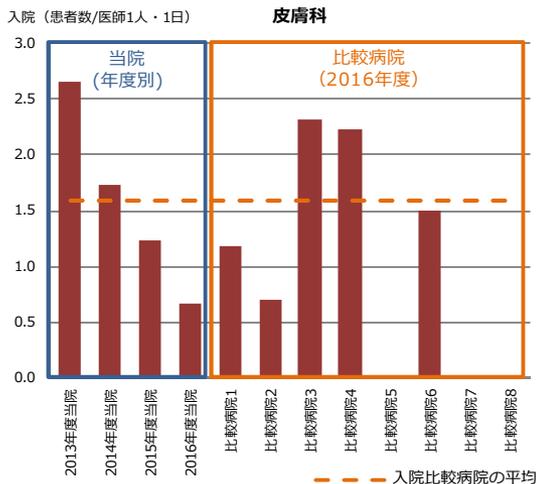
外来 (円/1人・日)



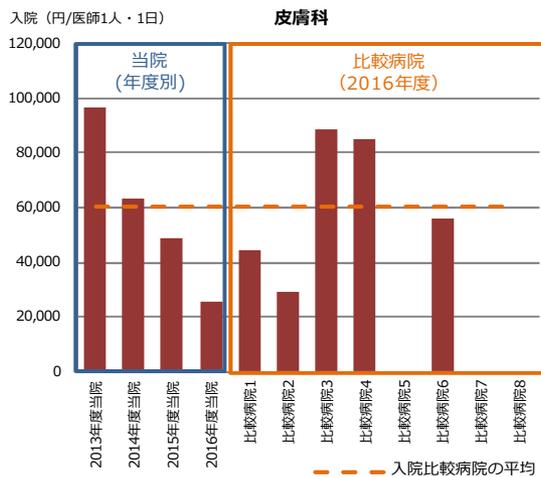
- 検査料
- 注射料
- 初再診料
- リハビリテーション料
- その他
- 画像診断料
- 処置料
- 医学管理料
- 放射線治療料
- 投薬料
- 手術料等
- 在宅管理料
- 精神科専門療法料

※2016年1-3月期と比較し、入院は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。外来は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。

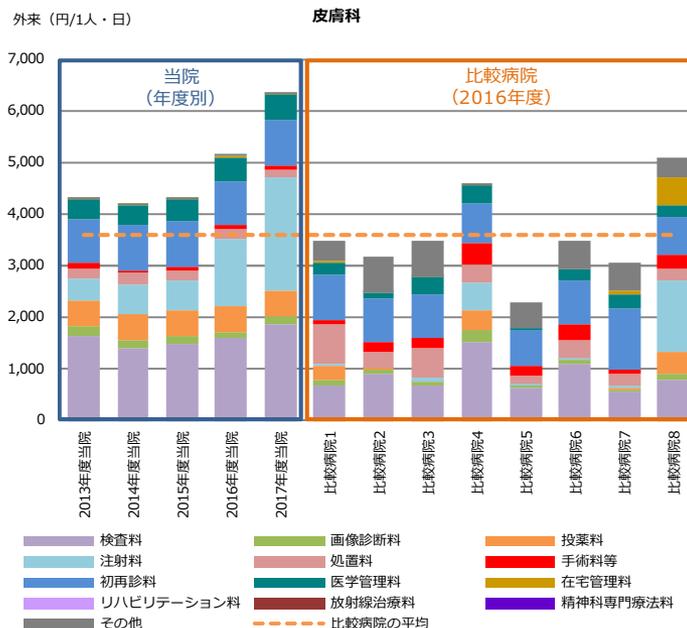
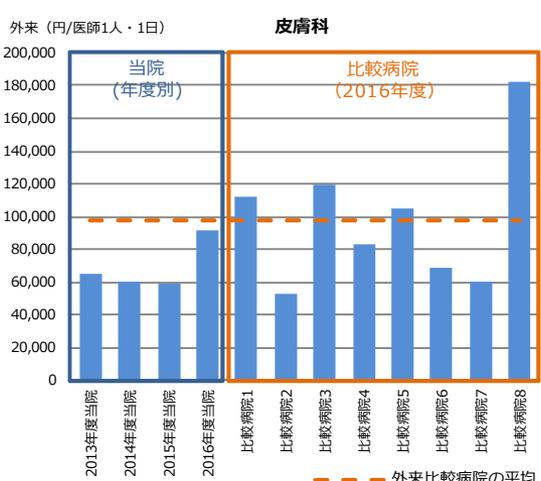
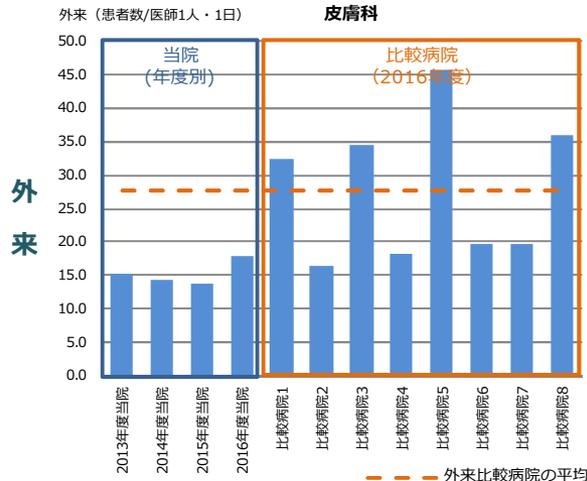
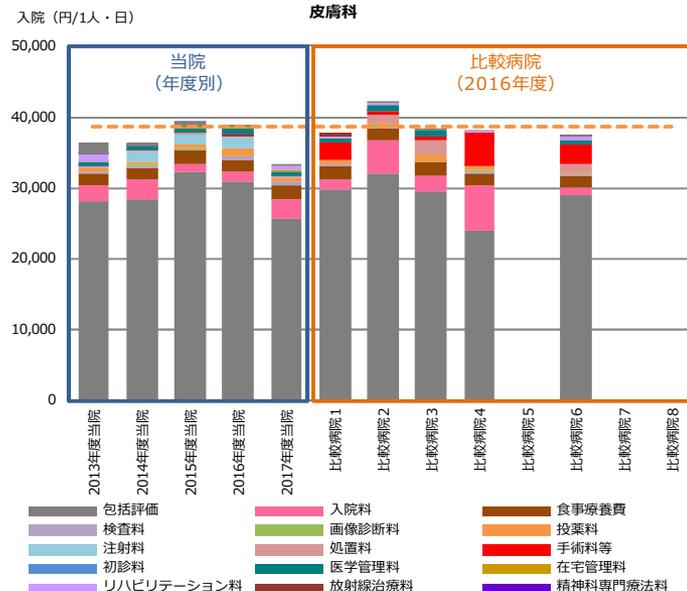
医師あたり患者数



医師あたり稼働額



行為別診療単価

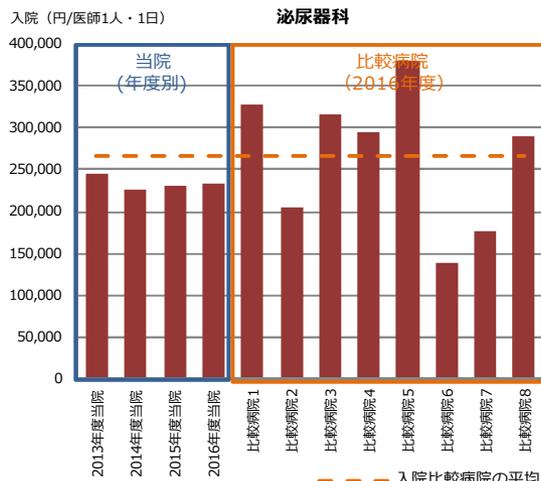


入院は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。外来は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数が若干少なく、稼働額は同等程度

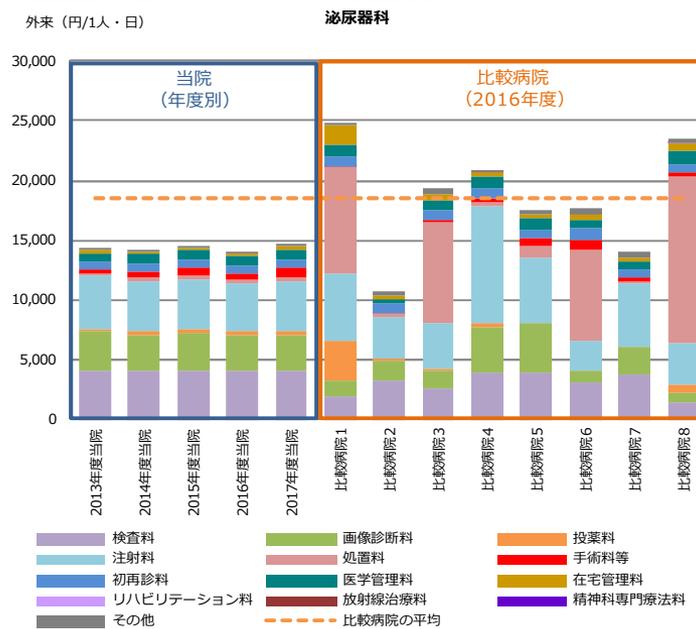
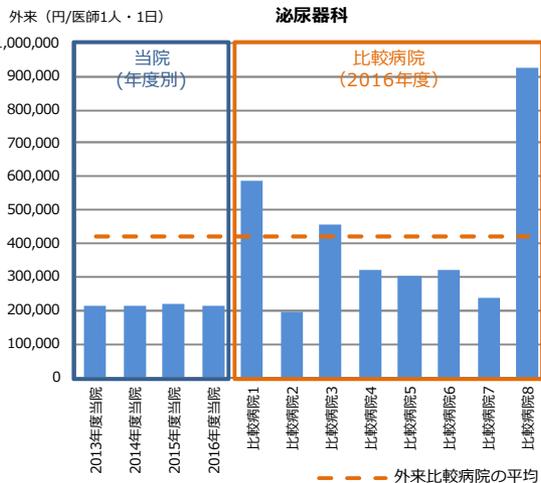
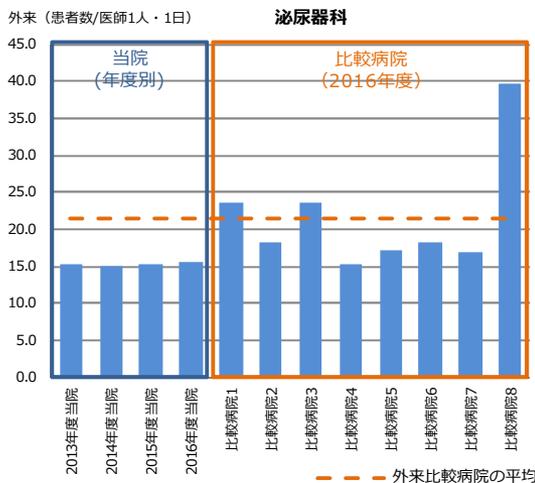
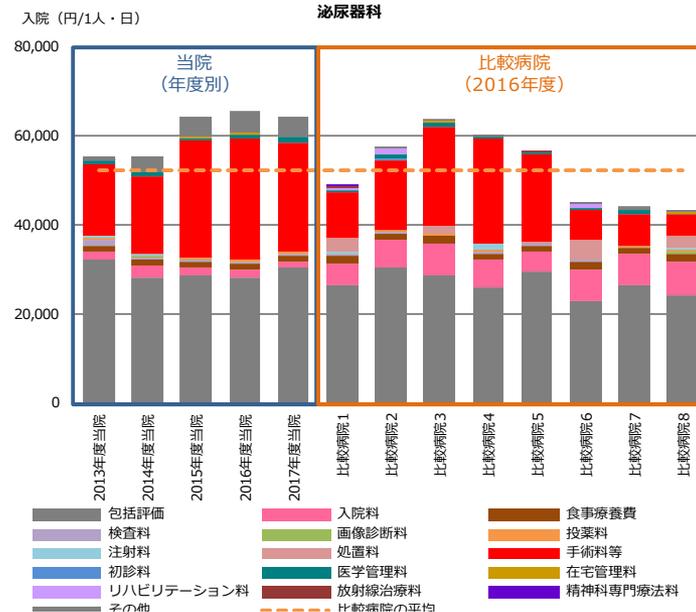
医師あたり患者数



医師あたり稼働額

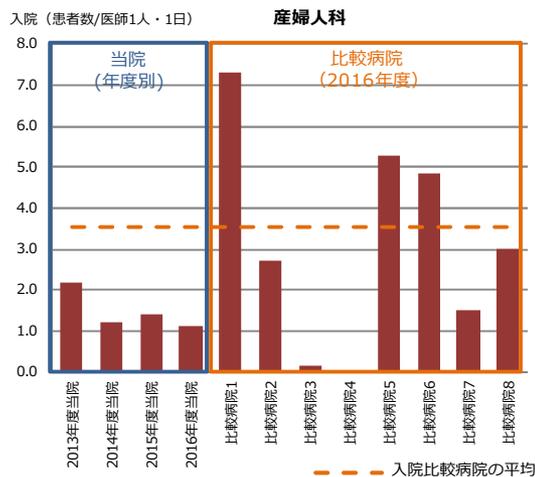


行為別診療単価

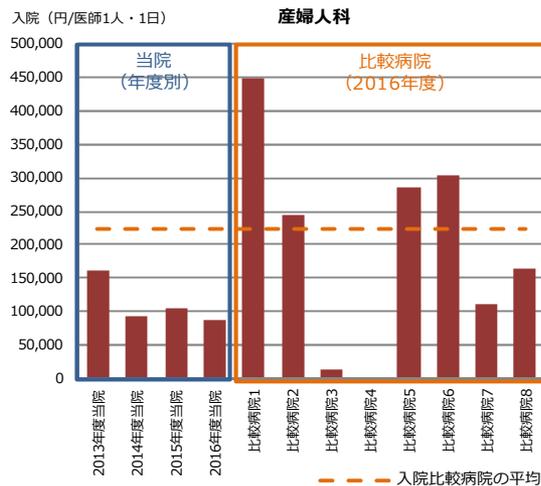


入院は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数が若干低く、稼働額は同等程度。外来は全ての項目が若干低い。

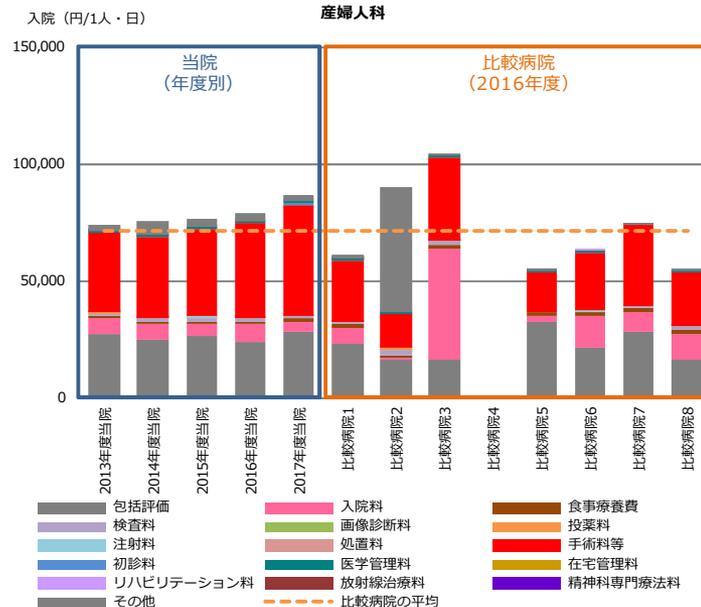
医師あたり患者数



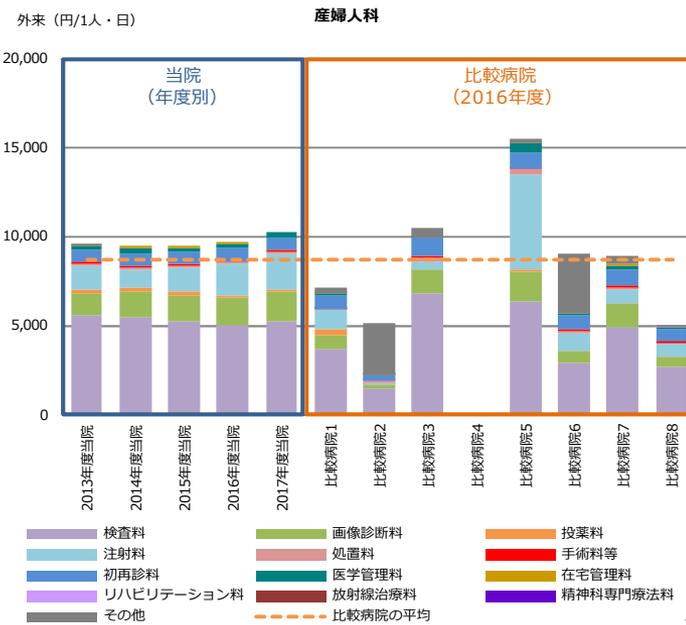
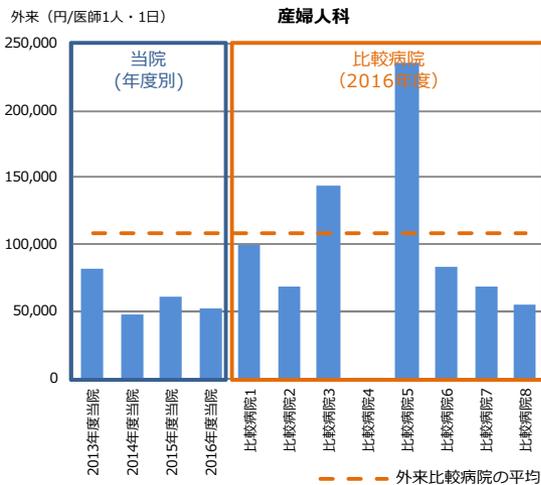
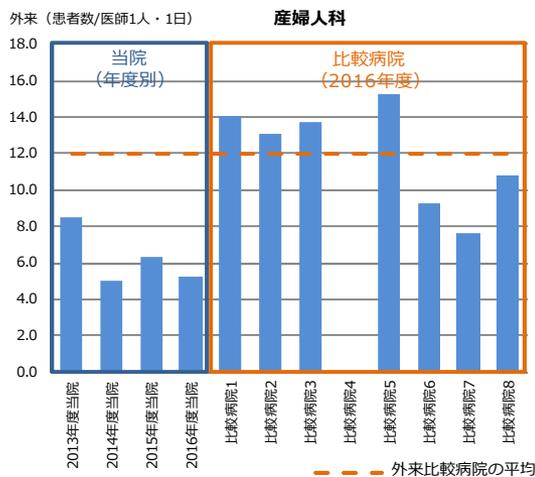
医師あたり稼働額



行為別診療単価

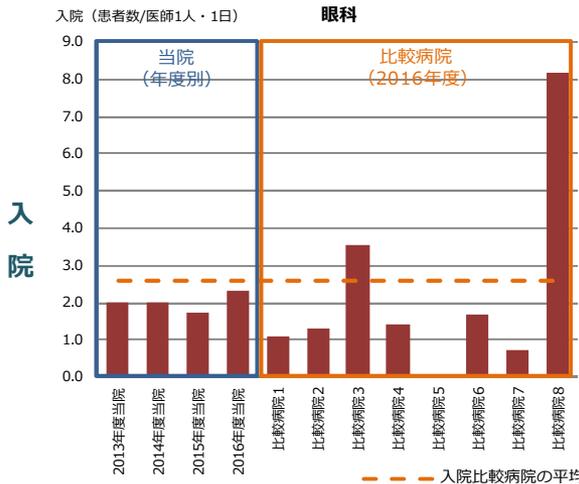


外来

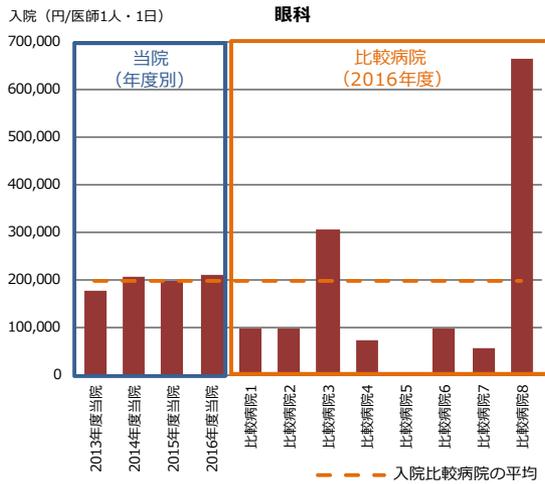


入院・外来ともに診療単価は同等程度であるが、医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。

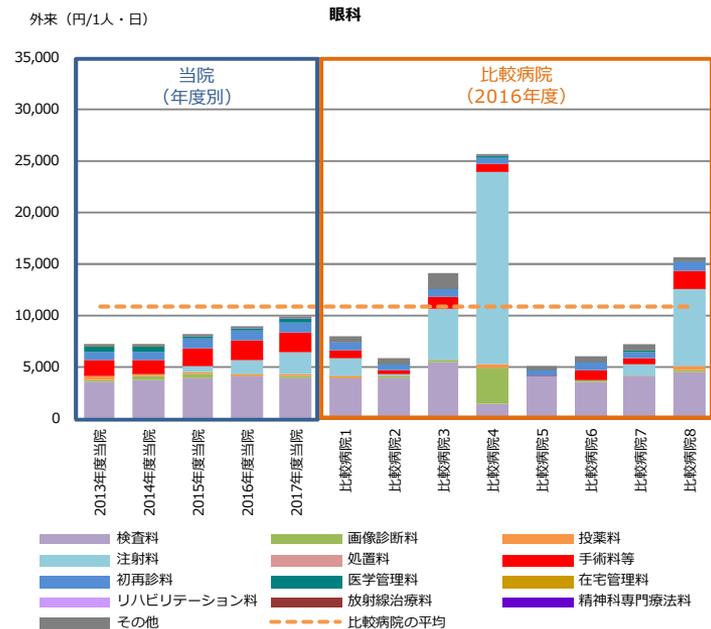
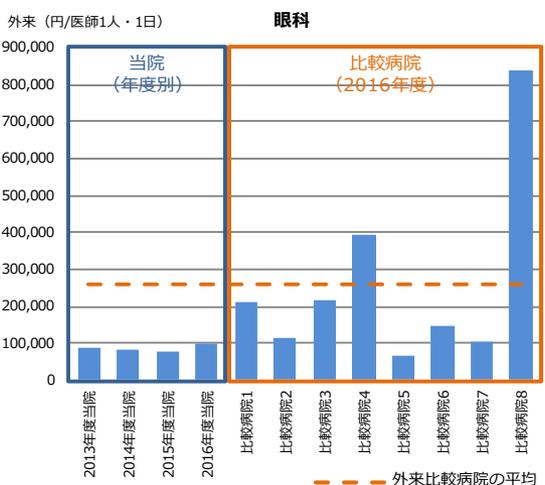
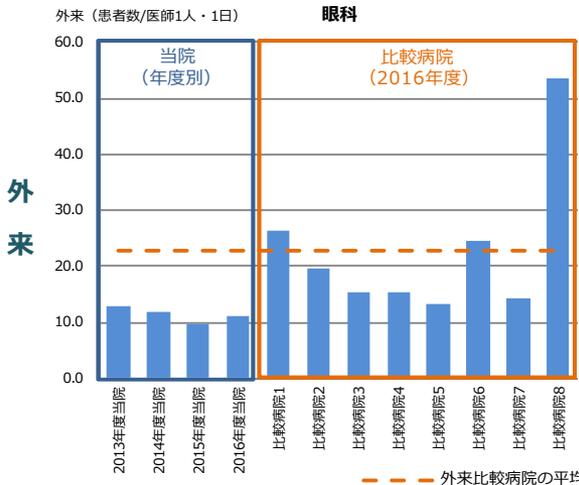
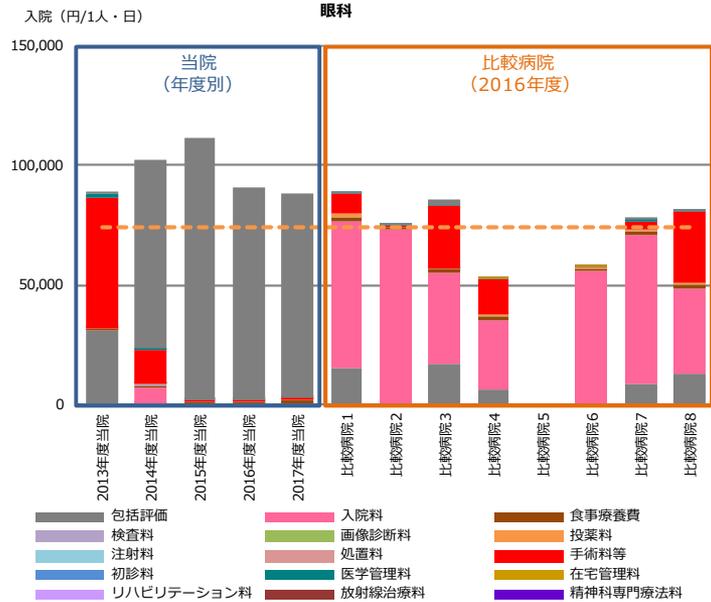
医師あたり患者数



医師あたり稼働額

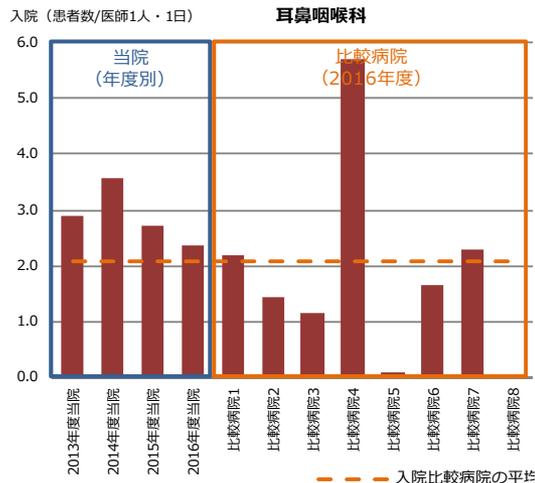


行為別診療単価

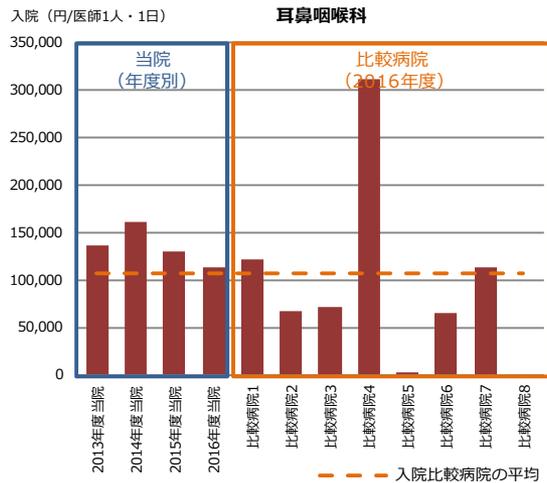


入院は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数・稼働額は同等程度。外来は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。

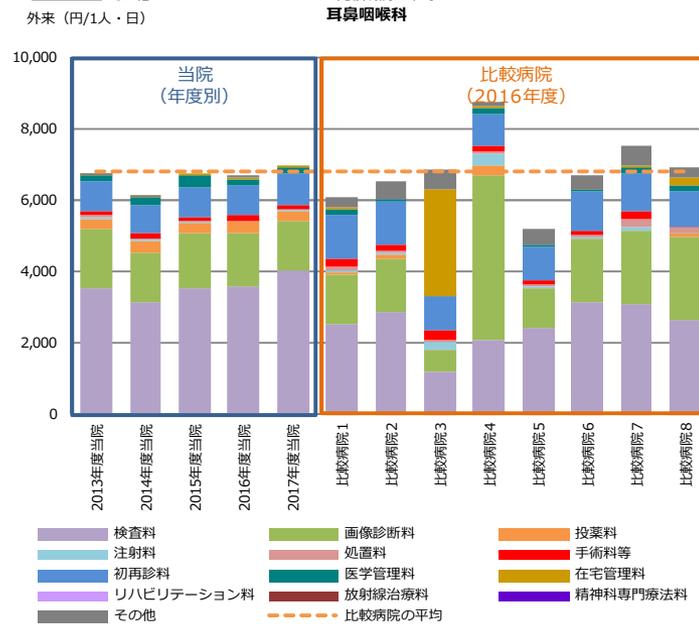
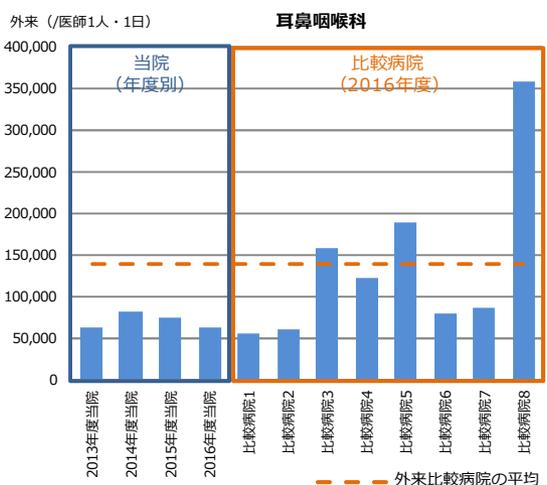
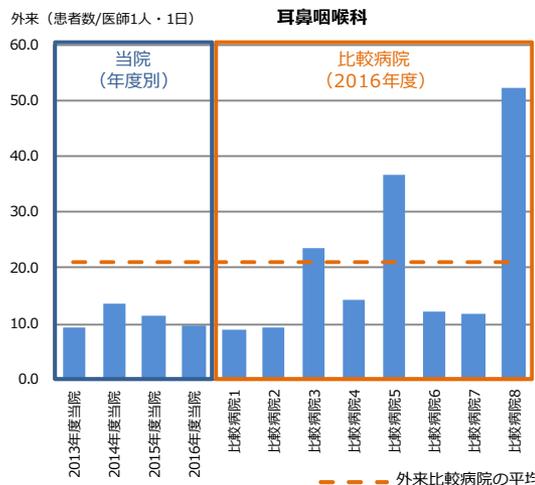
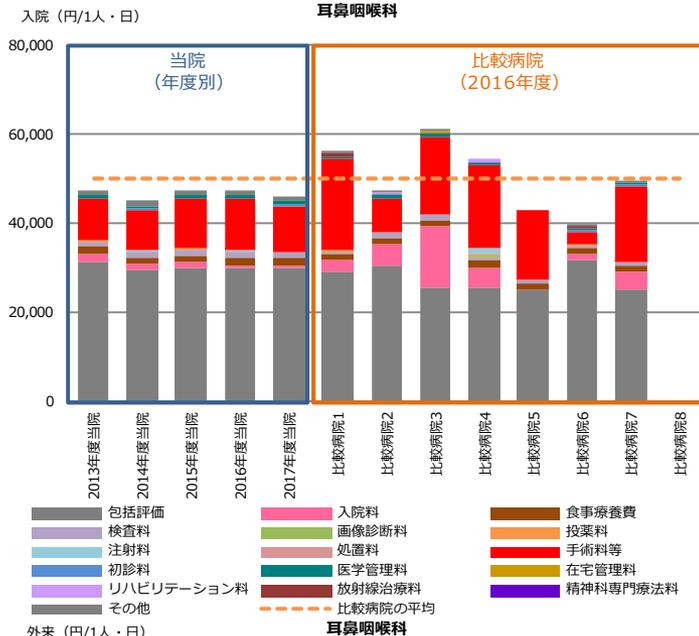
医師あたり患者数



医師あたり稼働額



行為別診療単価



入院・外来ともに診療単価は同等程度であるが、外来は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。

第1項 診療科別の稼働状況

(3) 診療科別の稼働状況のまとめ

<凡例>

↑↑：ベンチマーク病院平均値と比較して、+50%～
 ↑：ベンチマーク病院平均値と比較して、+20%～+49%
 →：ベンチマーク病院平均値と比較して、-19%～+19%
 ↓：ベンチマーク病院平均値と比較して、-49%～-20%
 ↓↓：ベンチマーク病院平均値と比較して、～-50%

	入院			外来		
	医師あたり患者数	医師あたり稼働額	診療単価	医師あたり患者数	医師あたり稼働額	診療単価
内科	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
神経内科	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↑ ベンチマーク病院から若干高い傾向
消化器内科	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
精神科				↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
小児科	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向
外科	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↑ ベンチマーク病院から若干高い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度
整形外科	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
形成外科	→ ベンチマーク病院と同程度	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↑↑ ベンチマーク病院と比べて高い傾向	↑↑ ベンチマーク病院と比べて高い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
脳神経外科	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↑ ベンチマーク病院から若干高い傾向
皮膚科	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↑ ベンチマーク病院から若干高い傾向
泌尿器科	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↑ ベンチマーク病院から若干高い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向	↓ ベンチマーク病院と同程度～若干低い傾向
産婦人科	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
眼科	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度	↑ ベンチマーク病院から若干高い傾向	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度
耳鼻咽喉科	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度	→ ベンチマーク病院と同程度	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	↓ ベンチマーク病院と比べて低い傾向	→ ベンチマーク病院と同程度

診療科ごとの稼働状況の特性を踏まえ、考察として挙げられる事項は下記のとおり

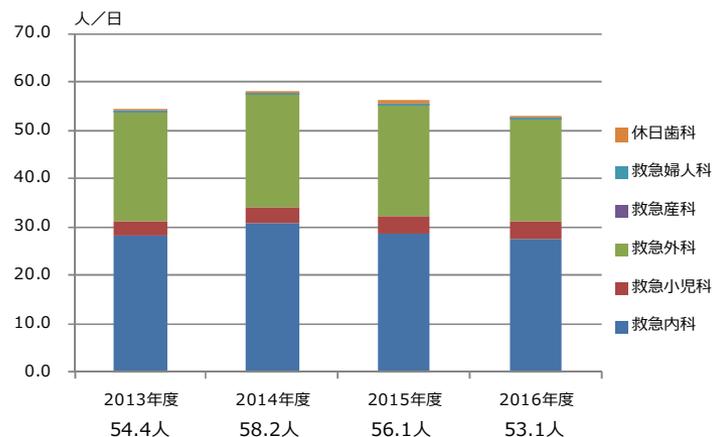
- 医師1人あたり患者数が少ない傾向の診療科が多く、結果として医師あたりの稼働額が少ない結果になっている。
- 一方で、診療単価はおおむね他施設と比較して同程度以上の診療科が多く、診療機能としては高い稼働状況であることが予想される。
- 地域の中でも比較的充実した医師体制となっており、収益観点で伸びしろを有しているといえる。

(1) 救急機能の稼働状況

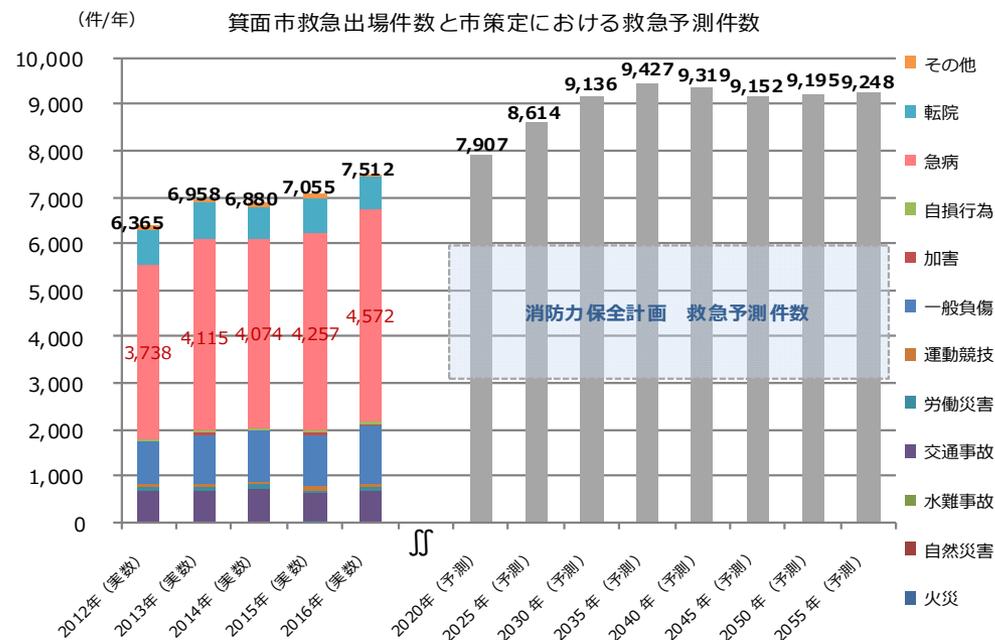
当院診療科別救急受入状況（1日あたり患者数）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
救急内科	28.1	30.7	28.6	27.6
救急小児科	3.2	3.4	3.8	3.7
救急外科	22.3	23.2	22.7	20.9
救急産科	0.2	0.2	0.2	0.2
救急婦人科	0.1	0.2	0.3	0.2
休日歯科	0.5	0.5	0.5	0.5
合計	54.4	58.2	56.1	53.1

(件)



箕面市救急出動件数・今後の予測件数（箕面市策定）



※2012年～2016年（実数）：箕面市 2016年消防年報・警備編・救急統計関係・2救急出場状況より抜粋

※2020年～2055年（予測）：箕面市・豊能町の今後の消防需要に基づく消防力保全計画 2018年2月箕面市

(P.8 図表7：箕面市・豊能町における救急予測件数 2020年～2055年)より抜粋

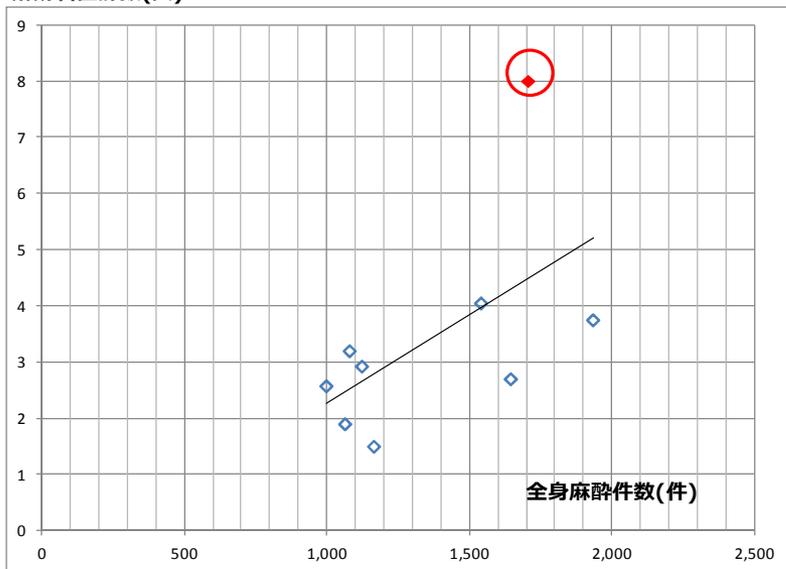
当院の救急稼働状況および今後の予測件数を踏まえ、考察として挙げられる内容は下記のとおり

- 当院救急関連診療科の患者数は、おおむね横ばい傾向で推移している。
- 箕面市消防力保全計画においては、今後箕面市消防管内における救急出動件数は増加することが予測されている。増加する需要への対応方針を踏まえた上で、新病院計画にその内容を盛り込んでいく必要がある。

(2) 手術の稼働状況

麻酔科医師数と全身麻酔件数との相関

麻酔科医師数(人)



* 当院の全身麻酔件数は、2016年度実績値。

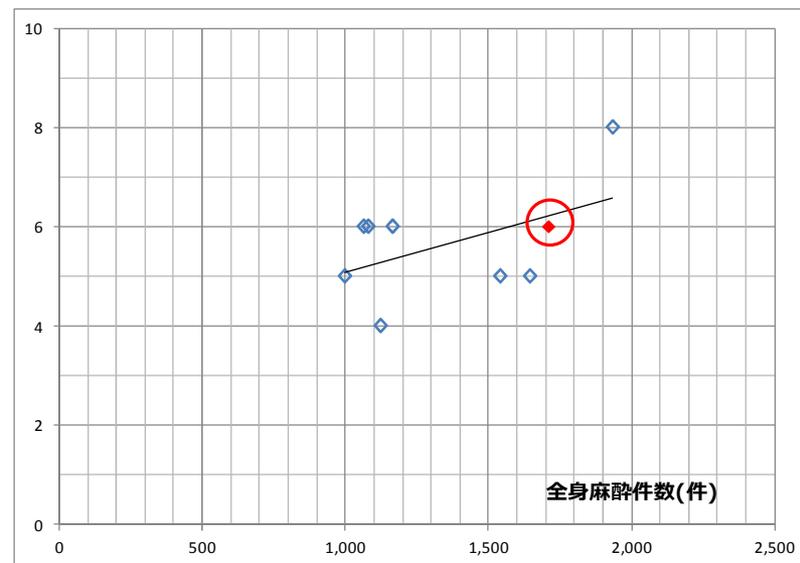
* 比較対象は、ベンチマーク病院(8病院)としている。また、上記数値は2015年度実績値。

■ 上図より、麻酔科医師数は、一般的に全身麻酔件数と正比例していることが分かる。その中で、当院の麻酔科医師数は、ベンチマーク病院と相対的に比較すると、人数過多といえる。

▶ 今後、手術件数を増やしていく人的余力があるといえる。

手術室数と全身麻酔件数との相関

手術室数(室)



* 当院の全身麻酔件数は、2016年度実績値。

* 比較対象は、ベンチマーク病院(8病院)としている。また、上記数値は2015年度実績値。

■ 上図より、手術室数は、一般的に全身麻酔件数と正比例していることが分かる。その中で、当院の手術室数は、他施設と相対的に比較すると、ほぼ遜色ない値となっている。

→ 現在の全身麻酔件数であれば問題ないが、件数を増やしていく上では、現在の手術室数では不足する可能性がある。

麻酔科医師数は比較的充実していることから、今後の手術需要の増加予測を踏まえた上で、手術件数の増加に対応できる新病院計画を策定する必要がある。

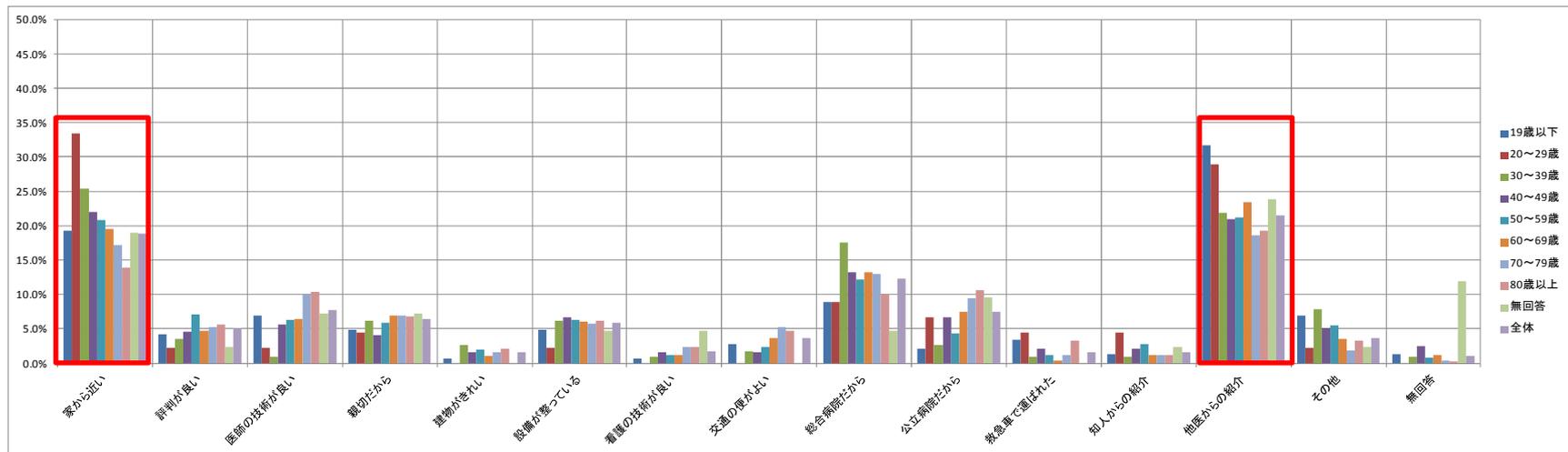
(参考)2016年度の当院実績

- ・手術件数：4,136件
- うち全身麻酔件数：1,709件
- ・手術室稼働率：54.2%

(1) 箕面市立病院を選んだ理由

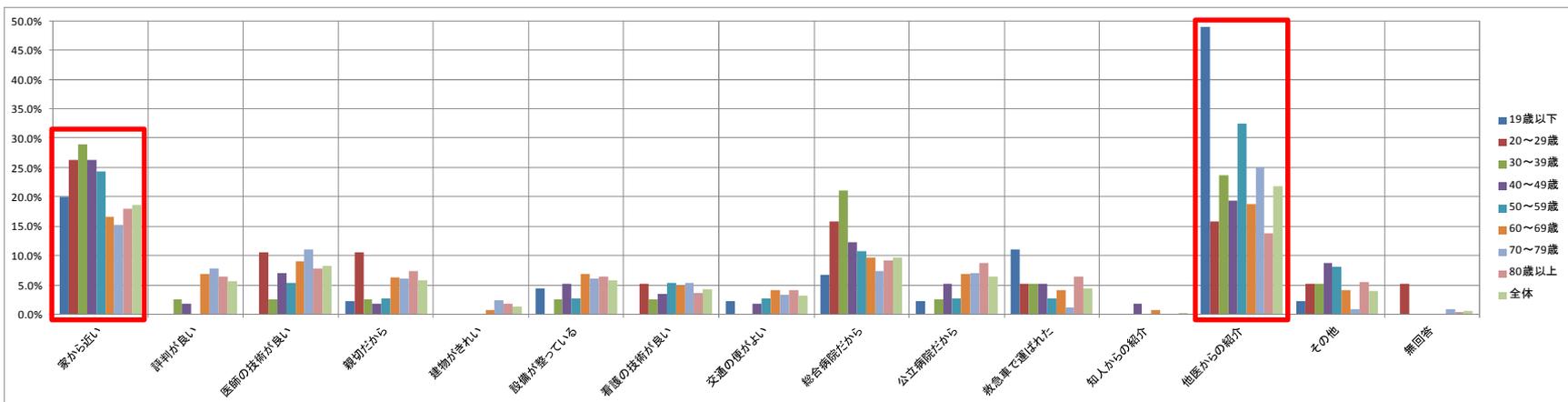
当院で毎年実施している患者さまへのアンケート結果のうち、新病院計画検討に関連する項目について、その結果とそこから得られる特性を整理した。

外来患者アンケート結果



回答母数
・1,164人
・2,312項目
(複数回答あり)

入院患者アンケート結果



回答母数
・357人
・800項目
(複数回答あり)

データ出典

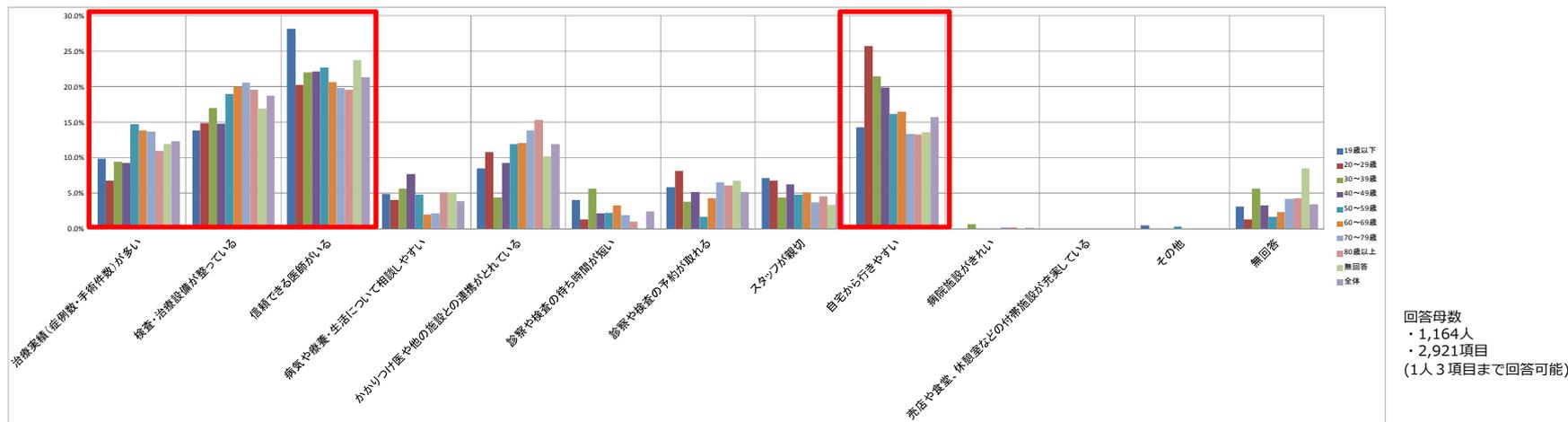
2017年度「患者満足度調査報告書～外来 速報版～」(株式会社ニチイ学館)
2017年度「患者満足度調査報告書～入院 速報版～」(株式会社ニチイ学館)

当院を選んだ理由として、「家から近い」、「他医からの紹介」の割合が、外来・入院の区分及び患者年齢層に関わらず、高い比率を示している。

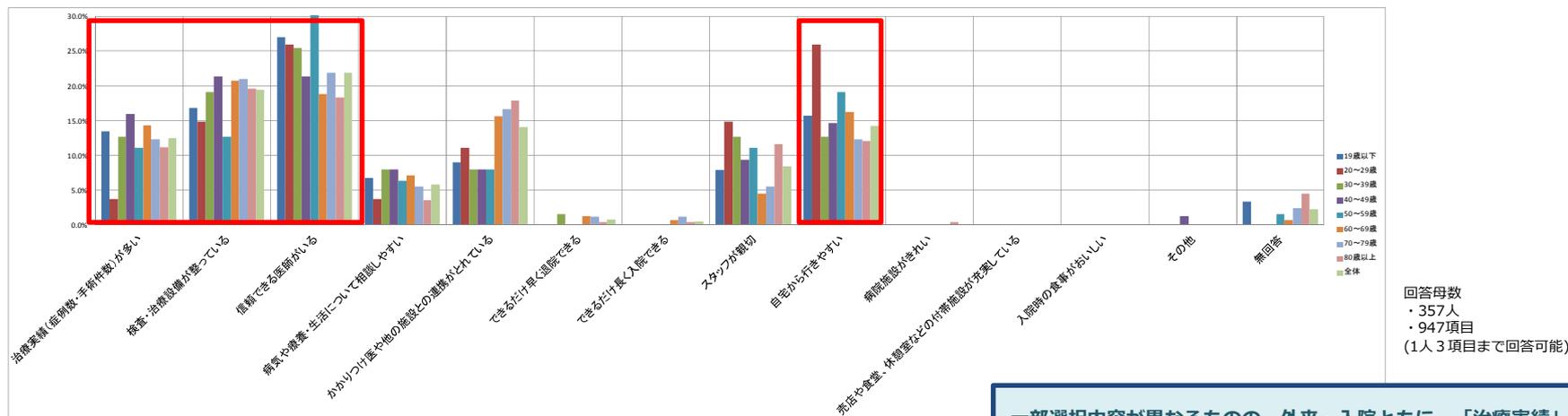
(2) 病院を選ぶ際に重視する事項

当院で毎年実施している患者さまへのアンケート結果のうち、新病院計画検討に関連する項目について、その結果とそこから得られる特性を整理した。

外来患者アンケート結果



入院患者アンケート結果



データ出典

2017年度 「患者満足度調査報告書～外来 速報版～」(株式会社二チイ学館)

2017年度 「患者満足度調査報告書～入院 速報版～」(株式会社二チイ学館)

一部選択内容が異なるものの、外来・入院ともに、「治療実績」「医療設備」「信頼できる医師」といった診療機能に関する項目と、「自宅から行きやすい」といった立地に関する項目が高い比率を示している。集患にあたっては、施設整備・アクセス性に加え、患者や周辺開業医から選ばれる病院となることが課題となる。

当院の診療機能状況の調査

診療科別及び手術室の稼働状況

- 診療科別に、当院の2013年度～2017年度における稼働状況推移を確認
 - 医師あたりの患者数
 - 医師あたりの稼働額
 - 診療行為別診療単価
- 全身麻酔件数と麻酔科医師数及び手術室数の関係を確認
- 更に参考指標として、下記の条件で経営状況が良好かつ診療機能が当院と同等以上である全国の公的病院（8病院）をベンチマーク病院として設定し比較
 - 2017年度の病床機能報告制度における稼働病床数が270床～400床（当院急性期病床数267床）
 - 一般病棟入院基本料（7対1）、DPC対象病院
 - 2次救急病院
 - 減価償却前における医業収支が黒字
 - 独立採算で外部からの資金投入が行われていない公的病院

1. 診療科別の稼働状況

診療科別の当院の現在の稼働状況は下記のとおりである。（ベンチマーク病院との比較）

<凡例>

↑↑：ベンチマーク病院平均値と比較して、+50%～

↑：ベンチマーク病院平均値と比較して、+20%～+49%

→：ベンチマーク病院平均値と比較して、-19%～+19%

↓：ベンチマーク病院平均値と比較して、-49%～-20%

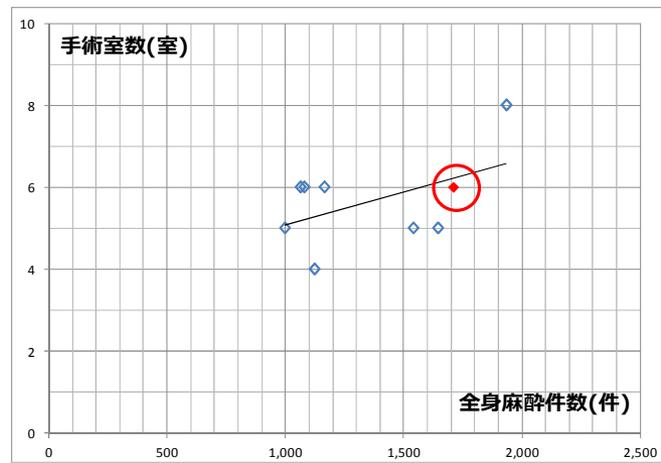
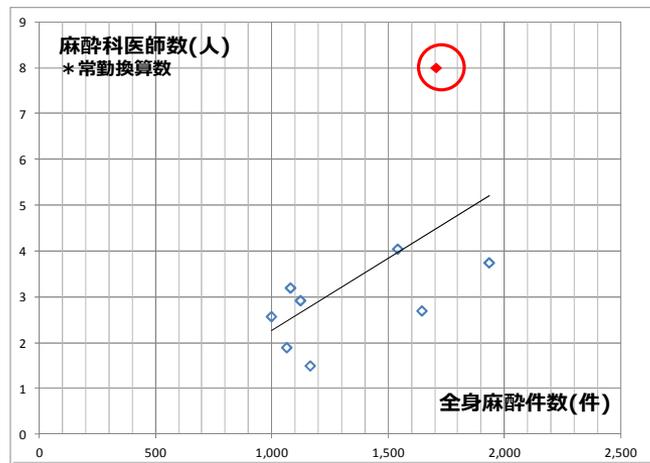
↓↓：ベンチマーク病院平均値と比較して、～-50%

	入院			外来			考察
	医師あたり患者数	医師あたり稼働額	診療単価	医師あたり患者数	医師あたり稼働額	診療単価	
内科	↓	→	→	↓	↓	→	診療単価は同等程度であるが、入院・外来ともに医師あたり患者数が若干少なく、外来は医師あたり稼働額が若干低い。
神経内科	↓↓	↓↓	→	↓↓	↓↓	↑	外来の診療単価は若干高いが、入院・外来ともに医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。
消化器内科	↓	↓	→	↓	↓	→	診療単価は同等程度であるが、入院・外来ともに医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。
精神科				↓	↓	→	診療単価は同等程度であるが、医師あたり患者数・稼働額は若干低い。
小児科	→	→	→	↓	↓↓	↓	入院は全ての項目において同等程度。外来は診療単価が若干低く、医師あたり患者数も若干少ないため、稼働額の低さに繋がる。
外科	↓	↓	→	↑	→	→	診療単価は同等程度であるが、入院は医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。外来は医師あたり患者数が若干高いが、稼働額は同等程度
整形外科	↓	↓	→	↓↓	↓↓	→	入院は医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。外来は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。
形成外科	→	↓↓	↓	↑↑	↑↑	→	入院は診療単価が若干低く、稼働額の低さに繋がる。外来は医師あたり患者数・稼働額ともに高い。
脳神経外科	↓↓	↓↓	→	↓	↓	↑	入院は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。外来は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数が若干少なく、稼働額が若干低い。
皮膚科	↓↓	↓↓	→	↓	→	↑	入院は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。外来は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数が若干少なく、稼働額は同等程度
泌尿器科	↓	→	↑	↓	↓	↓	入院は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数が若干低く、稼働額は同等程度。外来は全ての項目が若干低い。
産婦人科	↓↓	↓↓	→	↓↓	↓↓	→	入院・外来ともに診療単価は同等程度であるが、医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。
眼科	→	→	↑	↓↓	↓↓	→	入院は診療単価は若干高いが、医師あたり患者数・稼働額は同等程度。外来は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。
耳鼻咽喉科	→	→	→	↓↓	↓↓	→	入院・外来ともに診療単価は同等程度であるが、外来は医師あたり患者数が少なく、稼働額の低さに繋がる。

第4章 当院の診療機能状況のまとめ

2. 手術室の稼働状況

当院手術室の稼働状況を整理すると下記のとおりである。※赤印(◆)は当院 青印(◇)はベンチマーク病院(8病院)



■ 当院が実施している全身麻酔件数に対する麻酔科医数は、ベンチマーク病院と比べて多い傾向にある。

■ 全身麻酔件数に対する手術室数は、ベンチマーク病院と比べて概ね同等程度である。

3. 当院の診療機能状況のまとめ

■ 第4章から言える、新病院計画策定に向けて考慮すべき事項は下記のとおり。

- 人的資源について
医師1人あたりの患者数(入院・外来)が少ないことから、人的資源の観点から見ると受入れキャパシティに余力があると言える。一方で、当院の病床稼働率は90%程度を維持していることから、余力ある人的資源をさらに有効に活用するためには、増床の検討が必要である。
- 手術体制について
手術件数に対する手術室数は概ね平均程度である。一方で、手術件数に対する麻酔科医数は多い傾向にある。したがって、将来の患者数の増加が見込めることから、人的資源を活かす観点からも、より多くの手術を行えるように手術室数の増室などを検討する必要がある。

参考資料

- I. 近隣公的・公立病院等の個室状況
- II. 全室個室による新病院整備事例
- III. 放射線治療の採算シミュレーション

足利赤十字病院の事例

(1) 全室個室による新病院整備を行うに至った背景

新病院建設にあたり改正した病院理念を実現するための1施策として実施

【病院理念の改正】

患者さまがかかってよかった。
職員のひとりひとりが勤めてよかった。
といえる病院を創ります。

【新病院が目指す基本構想を設定】

地域の医療・保健・福祉機関との連携強化
質の高い医療・看護の提供
質の高い医療人の育成
救急医療の充実
効率的な病院経営
質の高い建築環境の整備
自然との融和
災害に強い病院

【基本構想を実現するための
キーワードを検討】

機能分化 人材確保
職員教育 救急機能強化
働く環境整備 病床利用率向上
ライフサイクルコスト
プライバシー確保
増改築将来対応
省エネ・省CO2
災害対応

【基本構想を実現するための施策を検討】

- 女性医師の積極採用
- 外国人看護師受入れ
- 職員の子育て支援
- 医師会休日夜間診療所を敷地内に開設
- ドクターカー導入
- 被災者受入れ施設整備
- 建物の分棟化
- 免震構造
- 井水熱利用ヒートポンプ
- 風力太陽光発電
- 資格取得支援
- 研究研修支援強化
- 院内保育所整備
- 救命救急士の採用
- PFMの導入
- 増改築対応
- **一般病棟全室個室**
- 深夜電力
- 高効率照明

全室個室に至った背景の各論

■ 患者プライバシーの保護の観点

多床室では、患者さんと医療スタッフとの会話が他人の耳に入ることは避けられない
その場合必要に応じ面談室を使用することになるが、個室化することでスタッフとの信頼関係を築くための
会話・情報交換を円滑に行うことができる。また見舞客と安心して会話することができる、消灯時間や面会
時間の緩和、対人関係のわずらわしさ等からの解放も期待できる

■ 個室志向への対応と医療安全

住宅事情のよい地方では多くが子供部屋が与えられてきており、個室要望が増加傾向。差額ベッド数増加に
対し、料金設定を見直し個人負担軽減を図る。また個室であれば同室患者との取り違え防止も期待。

■ 快適な療養環境の提供

多床室では、療養環境によるストレスが発生しうる（窓側・廊下側の違い、カーテンを閉めたい人と外を
見たい人の違い、寒がり・暑がりの人の違い等、違いによるストレス）また、音・臭いなどの気遣いや
トラブルが発生しうる。個室化することで、全員が平等で自分に合った環境で過ごすことができる。

■ 病床利用率の向上

多床室では男女別部屋であるため、男性部屋に空床があっても女性が入院できない等の事情が発生。また
感染症などで同室に他の患者さんが入室できない等の事例を解消することができる。

基本構想・基本計画検討段階で、若いスタッフ中心の検討委員会を設置し、「職員都合ではなく自分が患者になった気持ちで検討する」
ことを通じ、上記内容の議論の結果、一般病棟について全室個室とすることが決定された。

(2) 全室個室に向けた検討等の経緯

全室個室化による課題点对応 (対処すべき課題点)

■面積拡大の抑制と快適な病室面積とのバランス

1人当たり面積の増加により、病院建築面積と費用が増大する。そのため全体的にバランスのとれた適正面積の検討を行う必要がある。医師・看護師・リハビリ職等のスタッフにより、限られた面積の中でも使いやすい病室空間のレイアウトを検討

■スタッフ動線の拡大と業務量の増への対応

個々の部屋での看護業務は、効率が悪く移動距離・業務量が増える懸念があり。1看護単位の病床数を見直し、効率的なレイアウトを検討

■室料差額を徴収する個室と無償個室との差の設定

入院時の振分けと十分な患者さんへの説明が必要。内装や設備の差別化、テレビ冷蔵庫等の無料化を設定
また入院時マニュアルを整備し、相談員（MSW）による十分な事前説明を実施

▶運営実態としては、差額個室の減免率は低い状況を維持できているとのこと

■個室内での事故・事件・ハラスメント発生への懸念と対応

暴言・暴力・セクハラや転倒・転落等の事故発生の懸念。入院センター等による患者情報発信・共有とともに看護補助者の有効活用を検討。

結果的には、差額室料収入は移転前後で約2億円／年の増加、病床利用率の向上・平均在院日数短縮（≒実入院患者数増加）により、償却前医業収益は移転前後で約10億円／年程度の増加、という経営状況で推移している

(3) その他全国事例

都道府県	病院名	病床数	竣工年	延床面積	1床あたり延床面積	病棟階面積	1看護単位あたり病床数	1床あたり病棟面積(基準階)	主な個室の広さ
東京	聖路加国際病院	520	1992年2月	60,729.8㎡	116.8㎡	2,806.3㎡	35床	40.1㎡	14.6㎡
愛知	名古屋セントラル病院	198	2006年3月	29,090.6㎡	146.9㎡	1,496.8㎡	32床	46.8㎡	20.0㎡
長崎	済生会長崎病院	205	2009年6月	22,094.0㎡	107.8㎡	1,816.0㎡	41床	44.3㎡	18.0㎡
栃木	足利赤十字病院	555	2011年11月	51,804.5㎡	93.3㎡	3,023.9㎡	35床	43.2㎡	14.4~17.0㎡
石川	加賀医療センター	300	2016年1月	26,700.0㎡	89.0㎡	2,838.0㎡	41床	34.6㎡	14.0~15.4㎡

平均	110.8㎡	2,396.2㎡	37床	41.8㎡	16.6㎡
名古屋セントラル抜き	101.7㎡	2,621.1㎡	38床	40.5㎡	15.8㎡

りかんすう

■ 箕面市におけるがん罹患数の予測

* 大阪府におけるがん登録（第80報）による部位別年齢階級別患者罹患数（2012年に罹患した患者数）を大阪府人口で除し罹患率を算出し、箕面市年齢階級別人口推計に乗じて算出（箕面市人口推計は社人研データを使用）

(人)

箕面市男女計	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
食道	24	26	27	28	29	29	30	29	29	28
胃	142	162	176	186	191	193	198	201	201	195
大腸	141	158	171	180	185	187	189	191	190	185
肝臓	57	66	72	77	79	80	82	84	84	82
胆のう	22	26	29	31	32	32	33	34	35	34
膵臓	37	42	46	49	50	51	52	53	53	51
肺	126	144	158	168	173	174	179	182	183	178
乳房	73	76	77	78	78	77	75	74	72	70
前立腺	75	85	91	94	97	100	104	106	104	100
子宮頸部	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11
卵巣	10	10	11	11	11	11	11	10	10	10
膀胱	23	27	30	33	34	34	35	36	37	36
悪性リンパ腫	29	33	35	37	38	38	38	39	38	37
白血病	12	14	15	15	16	16	16	16	16	15
合計	783	882	952	999	1,024	1,034	1,054	1,066	1,064	1,032

■ 放射線治療装置の採算性（一般的ケースを基にした収支モデル）

機器整備費用	700,000 千円
年間診療日数	250 日/年
年間新患者数	200 人/年
年間収入額	134,111 千円
年間費用	69,000 千円
人件費	27,000 千円
保守費（2年目以降）	40,000 千円
水光熱費	2,000 千円
年間収支差額	65,111 千円

* 収入想定内訳

		年間新患者数： 200 人			
			想定回数	収入額	
治療計画管理	治療計画	4門以上照射等	4000点	160	6,400
		IMRT	5000点	40	2,000
	その他	放射線治療選任加算	330点	200	660
		外来加算	100点	2,500	2,500
外来放射線照射診療		292点	1,000	2,920	
	医療機器安全管理	1100点	200	2,200	
体外照射	照射	4門以上照射等	1800点	4,000	72,000
		IMRT	3000点	1,000	30,000
	その他	体外照射固定具	1000点	43	431
		呼吸性対策加算	150点	0	0
	IGRT加算	300点	5,000	15,000	

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目
収入	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111	134,111
費用	29,000	69,000	69,000	69,000	69,000	69,000	69,000	69,000	69,000	69,000	69,000
収支差額	105,111	65,111	65,111	65,111	65,111	65,111	65,111	65,111	65,111	65,111	65,111
機器整備費用償還累計	-594,889	-529,778	-464,668	-399,557	-334,446	-269,335	-204,225	-139,114	-74,003	-8,892	56,218

* 簡易的な収入額想定算出のため「想定回数」については、一般的に想定されるものを採用（詳細は具体的な治療内容の精査が必要）
* 診療点数2016年度診療報酬点数に基づく

■ 箕面市人口における年間の新規がん罹患患者数は、現状は概ね700～800人程度と予測される。

■ 一般的に放射線治療を受ける患者は、現状では約25%程度と言われており、現在箕面市で発生する新規がん罹患患者数のうち、175～200人程度が放射線治療対象と予測される。現在箕面市には放射線治療を行う施設がないため、それらの患者層は市外に流出している状況と推測される。
(ただし、放射線と化学療法・悪性腫瘍手術などとの併用治療を行っている患者に関しては、当院でも診療している)

■ 将来的に、箕面市における新規がん罹患患者数は1000人程度に増加するものと予測される。そのうち箕面市がん罹患患者のうち250人程度が放射線治療対象となりえると予測される。

■ 当院で放射線治療装置の採算を満たすためには、現在箕面市で発生していると予測される放射線治療対象患者をほぼ全て取込む必要がある。

■ 放射線治療装置（約7億円程度）を10年程度で償却するためには必要な年間新患者数は約200人程度が目安と予測される。